山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第73集

地耕免遺跡

CHI KOU MEN I SEKI

1992

山梨県教育委員会

地耕免遺跡

CHI KOU MEN I SEKI

1992

山梨県教育委員会

序

本報告書は、山梨県教育情報センター建設事業に伴い、東八代郡御坂町成田字地耕免地内で発掘調査された地耕免遺跡について成果をまとめたものであります。

地耕免遺跡の位置する御坂町成田は、すぐ南側に国衙という地名があるように平安時代の甲斐国の中心地域にあたり、周辺には甲斐国二宮の美和神社や、在庁三枝氏との関わりが深く、三枝一族が寄進した仏像を所蔵する福光音寺（大野寺）などが所在し、二宮、姥塚遺跡を始め多くの平安期の遺跡が集中する地域でもあります。また「玉井郷長」の墨書土器が出土し、『和名抄』に記載されている「玉郷」の所在地と推定される大原遺跡や、「石禾東」の墨書土器が出土した松原遺跡なども指呼の距離にあり、また現在でも条里跡が歴然と認められるように、古代甲斐国の穀倉地帯として開発が進んだ地域でもありまして、この地域の発掘調査は、文献なども漸く見られるようになるとはいえ、まだ具体性を欠く甲斐の平安期の実体を追求するにあたって、非常に貴重な資料たなるのものと思われます。

今回の発掘調査は、県教育情報センター建設予定地で行われました。その規模は約4,600㎡であります。その結果、平安時代住居址３軒、掘立建物址４基、井戸址１基、溝址３条、土坑１基、その他柱穴数基を検出しました。出土した遺物は土師器、木製品、斎串、馬の歯骨、モモ、クルミなどでありまして、９世紀前半から10世紀前半のものであります。

このうち、特に注目されましたのは、溝址の中から馬の歯やモモ、クルミとともに、まとまって発見された斎串でありまして、その検出事例は県内では宮の前遺跡に次ぐものです。その出土状況から、雨ごいなどの祭祀に使用されたものと考えられます。このように、本遺跡は、従来県内では余り知られていなかった平安期の在地社会の様相をとらえる素材になれば幸甚であります。

末筆ながら、種々ご協力を賜った関係期間各位、並びに直接調査に当たられた方々に厚く御礼申しあげます。

1992年３月

山梨県埋蔵文化財センター

所長　磯貝正義

例　言

1　本書は山梨県情報教育センター建設事業に先立ち、山梨県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した東八代郡御坂町成田字地耕面に所在する地耕面遺跡の発掘調査報告書である。

2　本書は小野正文、平山優が執筆編集を担当した。第１章、第２章、第３章第２節１項、第４章第２節は平山が他は小野が執筆した。

3　本書に関わる出土品および記録図面、写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

目　　次

序
例言
第１章　調査の経過と概要 …… 1
　第１節　調査に至るまで …… 1
　第２節　調査の概要 …… 1
第２章　地理的環境 …… 2
　第１節　遺跡の立地と地理的環境 …… 2
　第２節　周辺の歴史的環境 …… 3
第３章　出土遺構・遺物 …… 7
　第１節　出土遺構 …… 7
　第２節　出土遺物 …… 23
　　１　土器について …… 23
　　２　木製品について …… 34
　第３節　弥生時代の遺物 …… 46
　第４節　動植物遺存体 …… 46
　　１　動　　物 …… 46
　　２　植　　物 …… 46
第４章　まとめ …… 49
　第１節　地耕免遺跡の祭祀について …… 49
　第２節　殺馬殺牛儀礼について …… 51
　第３節　紡錘車について …… 52
　第４節　殺馬殺牛儀礼史料 …… 55

挿図目次

第１図　地耕免遺跡位置図（１）…… 2
第２図　地耕免遺跡位置図（２）…… 3
第３図　地耕免遺跡及び周辺の遺跡分布図…… 5
第４図　地耕免遺跡全体グリット図…… 6
第５図　１号住居址実測図……11
第６図　３号住居址実測図……12
第７図　１号掘立柱建物址実測図……13
第８図　２号・３号掘立柱建物址実測図……14
第９図　４号掘立柱建物址１号方形土坑・ピット群実測図……15
第10図　井戸址実測図……16
第11図　２号溝址Ｃ、Ｄ出土状況図……17
第12図　２号溝址Ｅ、Ｆ出土状況図……18
第13図　１号溝址Ｇ、Ｆ、Ｅ出土状況図……19
第14図　１号溝址Ｇ、Ｆ出土状況図……20
第15図　１号溝址Ｈ、Ｉ出土状況図……21
第16図　１号溝址Ｊ、Ｉ出土状況図……22
第17図　出土土器実測図……25
第18図　出土土器実測図……26
第19図　出土土器実測図……27
第20図　出土土器実測図……28
第21図　出土土器実測図……29
第22図　出土土器実測図……30
第23図　出土土器実測図……31
第24図　出土土器実測図……32
第25図　出土土器実測図……33
第26図　木製品３－Ｇ出土……38
第27図　木製品３－Ｇ、３－Ｈ出土……39
第28図　木製品３－Ｈ出土……40
第29図　木製品３－Ｈ出土……41
第30図　木製品３－Ｉ出土……42
第31図　木製品３－Ｉ出土……43
第32図　木製品３－Ｉ、３－Ｊ、３－Ｆ、Ｉ－Ｆ出土……44
第33図　木礎実測図……45
第34図　斎串分類図……50
第35図　紡錘車模式図……52

図版目次

図版１　１号住居址、２号住居址、２号住居址出土状況
図版２　井戸址、１号土坑、４号掘立柱建物址
図版３　１号掘立柱建物址、２号掘立柱建物址、３号掘立柱建物址
図版４　２号溝
図版５　１号掘立柱建物址木礎
図版６　２号溝出土状況
図版７　２号溝出土状況
図版８　２号溝出土状況
図版９　２号溝出土状況
図版10　遺物（木製品）
図版11　遺物（木製品）
図版12　遺物（木製品）
図版13　遺物（木製品）
図版14　遺物（木製品）
図版15　遺物（土製品）
図版16　遺物（土製品）
図版17　遺物（土製品）

第１章　調査の概要

第１節　調査に至るまで

１　調査の経過

教育センターに隣接して教育情報センターの建設計画があり、県教育委員会文化課は、昭和62年度に建設予定地の試掘調査を実施した。結果平安時代の土器、須恵器が検出され、遺構の存在が明らかになったので、平成２年度に発掘調査を実施することが決定された。

２　調査組織

調査主体　山梨県教育委員会

担当者　小野正文（副主査・文化財主事）
小林広和（主査・文化財主事）
平山　優（文化財主事）

作業員　矢崎　明、瀬田芳之、土屋定光、矢崎よし美、渡辺貴子、小出啓史、秦　正明、本田三夜子、鶴田文子、緒方木水、名取貴司、名取　香、林　周子、戸田ひろ、浅川浩嗣、小林よ志子、塩島富美子、西名博恵、杉本津由子、出月多津子、中澤敬子

整理作業員　宮坂晴幸、平美与枝、中込よしミ、矢崎米子、米山八重子、宇野和子、土屋ふじ子

第２節　調査の概要

1990年４月24日　発掘調査届提出
５月14日　表土剥ぎ開始
６月11日　発掘調査開始
９月21日　発掘調査終了、石和警察署あて遺物発見届提出
1991年１月７日　整理作業開始
３月31日　整理作業終了

第２章　周辺の遺跡

第１節　位置と地理的環境

１　位　　置

地耕免遺跡は、東八代郡御坂町成田字地耕免に所在する。本遺跡は、笛吹川（旧鵜飼川）左岸、金川の氾濫源、御坂峠から甲府盆地にかけての穏やかな傾斜面の先端部に位置する。標高は281メートルである。

第１図　地耕免遺跡位置図（１）（1／2500）

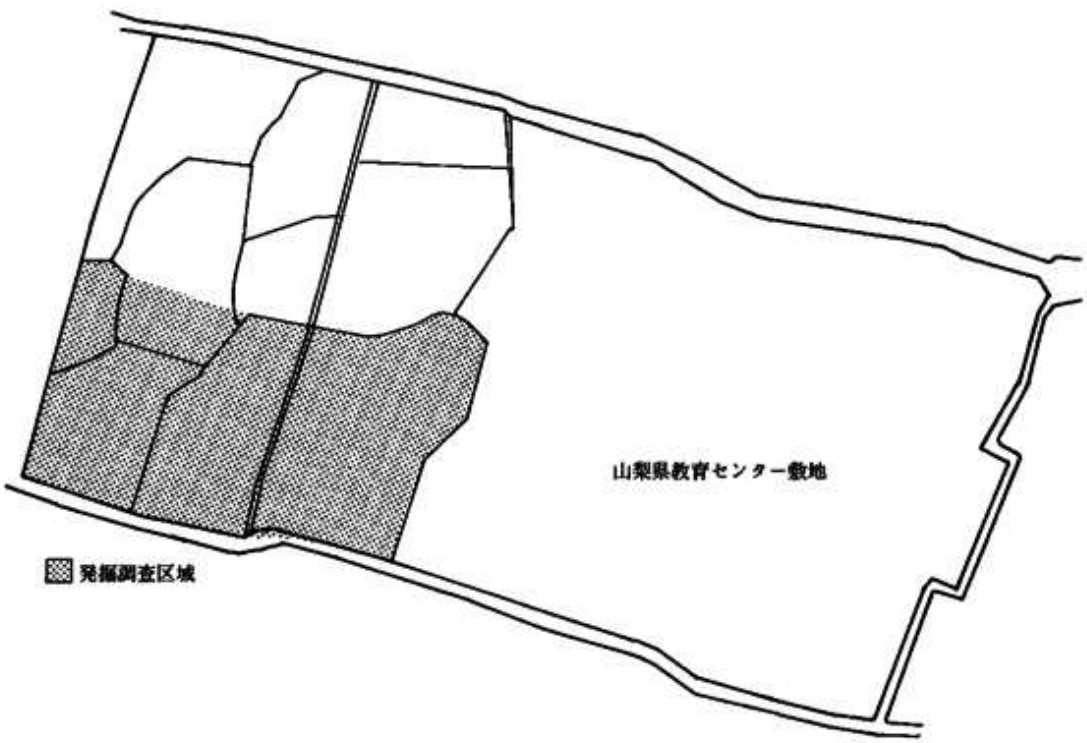
2　地理的環境

本遺跡は、笛吹川氾濫源に接すし西北方向に緩やかに傾斜する金川扇状地の末端部分に位置する。金川扇状地は甲府盆地の陥没によって成立した断層崖下に、金川の運搬による土砂の堆積によって形成されたものである。この堆積層は極めて厚く、そのため表流水は少ないが、地下伏流水は豊富である。その地下水位は扇央部から先端部にかけて次第に浅くなり、そのため扇状地の先端部では、地下水位が地表面より浅くなったところから、地下水が湧水として吹き出しているところが多く認められる。これらの多くは、近年の開発に伴い枯渇してしまっているが、この湧水はかつて表流水とともにこの地域の農耕や生活にとって重要な意味をもっていた。

しかし本遺跡はやや扇央部よりに位置しているため、周辺に湧水はない。遺跡を中心とした金川扇状地では条里制遺構が極めて顕著に認められる。そして古くは姥塚古墳などの古墳群、国衙跡、姥塚遺跡、二宮遺跡などをはじめとする奈良～平安時代の遺跡が密集している。

第２節　周辺の歴史的環境

地耕免遺跡の所在する東八代郡御坂町成田字地耕免の周辺は、平安期の遺跡が濃密に分布する地域である。平安期にはそれまで春日居町国府に所在していた甲斐国の政庁が「国衙」に移転してきたことがまず挙げられる。本遺跡や国衙のすぐ脇には御坂峠を越えて東海地方へ抜ける要路である鎌倉街道が通っており、国衙移転の背景の一つとなったことは疑いない。またこ



第２図　地耕免遺跡位置図（２）

の周辺には、「和名抄」に記載のある「井上郷」、「八代郷」、「玉井郷」、「林戸郷」、「野呂郷」などの郷が所在した地域であり、近年、物証となる墨書土器などの出土がある。このような郷の密集は平安期に特にこの地域の開発が進んでいたことを示すものである。それは地耕免遺跡周辺に顕著に見られる条里制遺構の展開から見られるように、古代国家主導のもとに実施されたことを物語っている。

また少し降って、11～12世紀に整備される諸国一宮制と関わって、遺跡の南側に位置する三和神社が甲斐二宮に位置づけらることも、この地域が国衙、郷、一・二・三宮制によって強く結び付けられていたことを示す。それはこの周辺の郷が、その後も国衙領として国衙と深く結びついており、平安～鎌倉期にいたるまで荘園の成立を拒み、また鎌倉期に台頭してくる甲斐源氏の勢力侵入を拒み続けた地域であることからみて、十分推測される。

しかし、地耕免遺跡の所在する地域は、扇状地であるための土壌は薄く、すぐ砂礫層となっているため、表水流はただちに地下に浸透し、復流水となってしまうことや、狭い地域に多くの村落が集中して存在していたために、潅漑のための用水確保が極めて困難な地域でもあった。近世の史料によると、この地域は新田開発が困難で、度々干ばつなどの影響によって、水争論が起こっており、分水慣行が極めて歴然と近年まで維持されていたことで知られる。

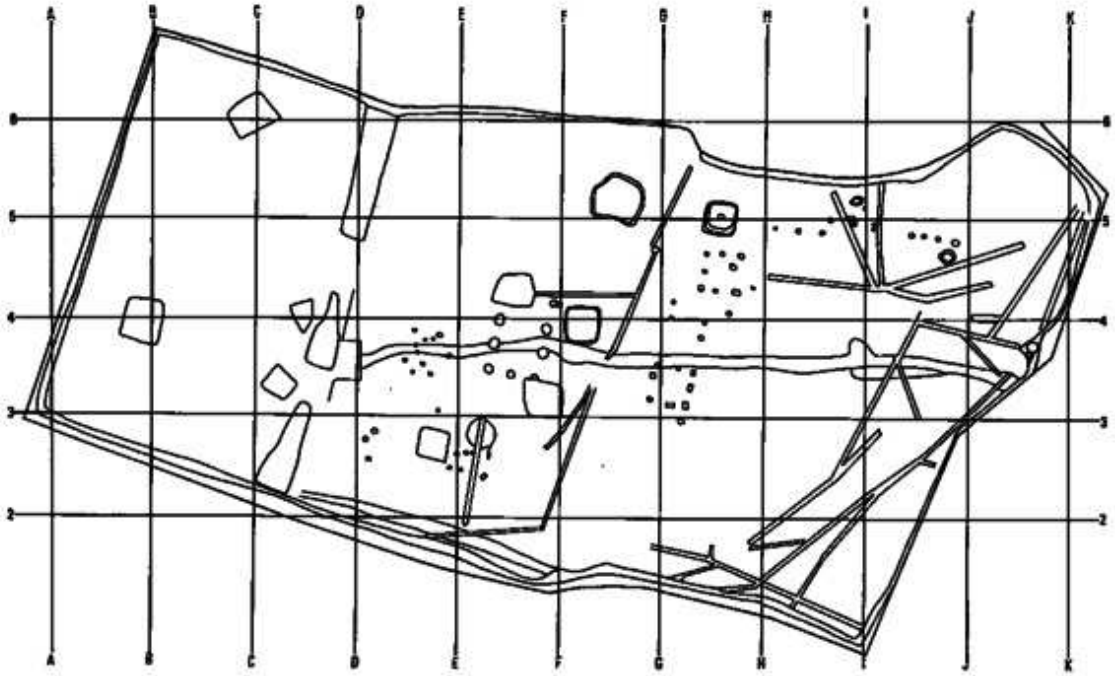
そのため干ばつの折りには、特に最も下流にある村などは、金川上流の堰から引き込んだ堰を利用するにあたって、用水の確保が困難を極めた。特に車堰を利用する村村のうち、下流に位置する村は、最終的な手段として二宮美和神社の幣をすべての堰口にたててこれを封鎖し、上流から用水を一気に下流まで落とすという方法を取った。これは「七十五マチ貰い水」慣行といい、それは江戸時代の史料に見られる。

地質的構造からいっても農業用水には、苦慮し続けた地域であった故に、条里制遺構の中に整然と整備された用水堰が見れれる地域なのでもある。

周辺の遺跡

1地耕免遺跡、2二之宮条里遺構、3下成田遺跡、4亀甲塚、5山王遺跡、6赤目田遺跡、7扇田遺跡、8後田遺跡、9中通遺跡、10宮の後遺跡、11赤根田遺跡、12首中根遺跡、13下原遺跡、14田代遺跡、15御幣遺跡、16橋詰遺跡、17鍬柄田遺跡、18二之宮遺跡、19姥塚遺跡、20天神前遺跡、21不動原遺跡、22出口遺跡、23東田遺跡、24下平井条里遺構、25上平井条里遺構、26下前田御堂、27御堂遺跡、28満中田遺跡、29宮の上遺跡、30大原遺跡、31坪井坂上遺跡、32赤井遺跡、33中川松本遺跡、34一町田中遺跡、35御御幸道遺跡、36宮の前遺跡、37狐原遺跡、38茶かん遺跡

第３図　地耕免遺跡及び周辺の遺跡分布図



第４図　地耕免遺跡全体グリット図

第３章　出土遺構・遺物

第１節　出土遺構

はじめに、グリット説明

面積が大きいこともあって、10m方眼のグリットを設定した。南北軸のアルファベットを東西軸に数字をあて、南西隅の杭番号をもって、そのグリットの番号とした。（第４図）

１号住居址

１号住居址は４－Ｇと５－Ｇグリットに位置する。東西340cm、南北320cmの方形住居址である。東壁10cm、南壁10cm、西壁10cm、北壁10cmの高さを確認できるが、立ち上がりはなだらかである。カマドは明確に検出できなっかたが、東壁部分に焼土と長胴甕大破片が検出されたことから、この付近にカマドが設置されたことはあきらかである。床面は粘土質の土壌であるから、非常によく固められており、覆土と床面とは歴然と剥がれる。この床面の部分に炭化物と焼土粒、あるいは植物種子が検出された。また床の部分を取り除くと、住居址の中央部分に土坑が検出され、貼り床の土のなかからも、土器小片と植物種子が検出された。

出土遺物は図化できたものは、高台付坏と長胴甕である。８世紀末～９世期初頭に位置付けられよう。この高台付坏は３－Ｉで出土した「東山」墨書の高台付坏と接合するので、１号溝と１号住居址はほぼ同時期の存在とみなしてよかろう。

２号住居址

５－Ｆグリットの黒色の部分を住居址ではないかと判断し、サブトレンチを設定し、発掘を試みたが、炉址、床面などなど明確な住居址とするものは検出できず、住居址と確定するには至らなかった。この黒い部分はさらに南に一条の溝となって続き、４号溝となった。４号溝では１号溝のすぐ南川の部分で弥生後期の台付甕を検出しており、この４号溝は弥生後期の溝と判断される。なおまた、２号住居址とした黒色の部分から、ガラス玉が１個検出されている。

３号住居址

３－Ｆ、４－Ｆグリットに存在する住居址で、東西340cm、南北300cmの方形住居址である。表土剥ぎの時点で掘り込みの部分はすでに失われていたものと思われる。カマドは明確には検出できなかったが、東壁中央部分に床面への掘り込み部分と焼土をわずかながら検出できたので、やはり東カマドとみなしてよかろう。出土遺物はごく少なく、図化できたものは１点の高台付坏のみである。

なお、１号溝より取水したと思われる細い溝が２号住居址を切って北流しているので、２号住居址は１号溝よりやや古いものとみなしてよかろう。

1号掘立建物址

3－E、3－Fグリットに位置する2間×3間の掘立建物址と思われる。柱間の芯々距離は南北方向が約800cm、東西方向が約470cm。ピットから芯々距離を推定して、東西2間、南北3間の掘立建物址である。P1はピット内に礎石と木礎をもっている。P2は木礎3片をもつ、P3は礎石を2個もつ、この石は礎石というより、柱を安定させるための石と言えよう。P4は木礎5片をもつ。P5は柱根が遺存した。直径25cmの大きな柱根である。P6は木礎の遺存状況はきわめてよく木礎2片を検出した。P7は木礎4片が遺存した。P8は礎石をもつピットで4個の石を検出している。

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
長軸	90	110	70	70	85	124	100	75
短軸	80	80	65	65	70	76	66	70
深さ	50	35	60	31	37	47	41	30

2号掘立建物址

4－Gグリットに位置する2間×2間の掘立建物址である。ピットから柱の心心距離を推定して、東西360cm、南北365cmの建物址である。柱穴の位置は1号掘立柱建物址のように均一ではない。

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
長軸	60	38	55	40	62	47	50	43
短軸	50	32	40	40	42	46	40	40
深さ	18	20	25	20	30	15	8	20

3号掘立建物址

3－Gグリットに位置する2間×3間（4間）の掘立建物址で、恐らく東西360cm、南北720cmである。建物址とするには、ピットが全て検出されず、ピットの存在すべき部分にサブトレンチを入れて調査したが、存在が確認されたのは7個の柱穴である。P1、P2は木礎をもち、P4～5はは礎石をもつ。P3、P4は素掘である。

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
長軸	65	35	30	42	32	45	38
短軸	55	30	27	31	34	35	31
深さ	22	21	11	26	20		

4号掘立建物址

2－Eグリットに位置する不規則な1間×2間の掘立建物址である。芯々距離を推定して南北150cm、東西350cmであるが、不整形をなす。井戸址の南側にあることから、これと関連した施設であるのかも知れない。

	P1	P2	P3	P4	P5	P6
長軸	46	40	52	44	32	55
短軸	44	31	31	35	21	46
深さ	25	18	12	12	5	11

その他のピット群

この他3－Dや4－H、4－Iグリットにピット群が検出されたが、いずれも規則性は認められなかった。ただし4－Hのピット群は東西に並ぶようである。

1号溝

3－Jから3－I、3－H、3－G、3－F、3－E、3－Dグリットまでほぼ東西方向に西流する溝である。3－Jで幅110～130cm、出土遺物は多くはないが、須恵器の長頸壺と刃子の柄の部分と思われる木片、火鑽臼を剥いで斎串とした木片が検出されている。またクルミ、モモ核なども多数出土している。3－Iグリットでは出土遺物が増加傾向にあり、斎串の他に、木製農具の鋤先の部分と思われる部分が出土している。ただし焼かれた部分もあり、斎串を用いた祭祀となんらかの関係があるのかも知れない。また、クルミ、モモ核の出土も多い。3－Iから3－Hに移る部分でやや流路を変え、3－Fグリットまでほぼ直線である。その中でも3－Hの部分が溝幅が約200cmと幅広く、整った形態をなしている。出土土器は6世紀～9世紀までのものがあり、木製品では曲物の底2点と桜の皮綴じの薄剥ぎ板1点、樽の一部、荷札のような2孔を有するものと側面に刻みをいれたもの1点のほか斎串が多数出土している。また馬歯の出土も多く、クルミ、モモ核の出土も多い。3－Gでは出土遺物が徐々に少なくなり、曲物のそこのような半月形の薄剥ぎ板2点が目立った出土遺物である。土器は6世紀～9世紀のものがありる。馬歯骨、クルミ、モモ核の出土も見られた。3－Fになるとほとんど遺物の出土は見られなくなり、木片数点と獣骨がみられるにすぎない。Fラインの部分でやや流路を変え、3－Dでやや南へ蛇行する。この3－E、3－Dではほとんど出土遺物が認められなかった。

2号溝

溝の幅は120～150cmを測り、深さは下流で40～50cmである。発掘区域の南辺に位置し、2－Eグリットでは人頭大の礫を多く含み、出土遺物は土器片が多く、砂層の中で鉄分が著しく、復元できたものは少ない。木製品や植物種子などの植物遺存体の出土は全くない。出土土器の年代は10世紀に帰属するものである。3－Dではやはり人頭大の礫が点在するが、土器片の出土が頗る多く、1点の斎串と獣骨が出土している。3－Eでは区域外に溝が別れるようであり、出土遺物は少なくなる傾向にある。出土遺物から溝の時期も祭祀の形態も1号溝とは大きく異なる。

この2号溝の流路は現行の水路と同一方向をとり、条里地割が10世紀まで逆上る可能性が出

てきた。

3号溝

2－E、3－F、4－F、5－Fグリットで検出された溝で、幅約35cm、深さ約40cmを測る。3－Fグリットの1号溝に切られた部分の近くで弥生後期の台付甕が出土しており、また2号住居址とした部分につながっており、弥生後期の土器片を出土しているので、弥生期の溝と見て誤りなかろう。

4号溝

1－F、2－Fグリットにおいて蛇行する幅40～50cm、深さ40cmの溝を検出している。深さや方向に規則性が認められないことから、人工的な溝とするには問題が生じる。

5号溝

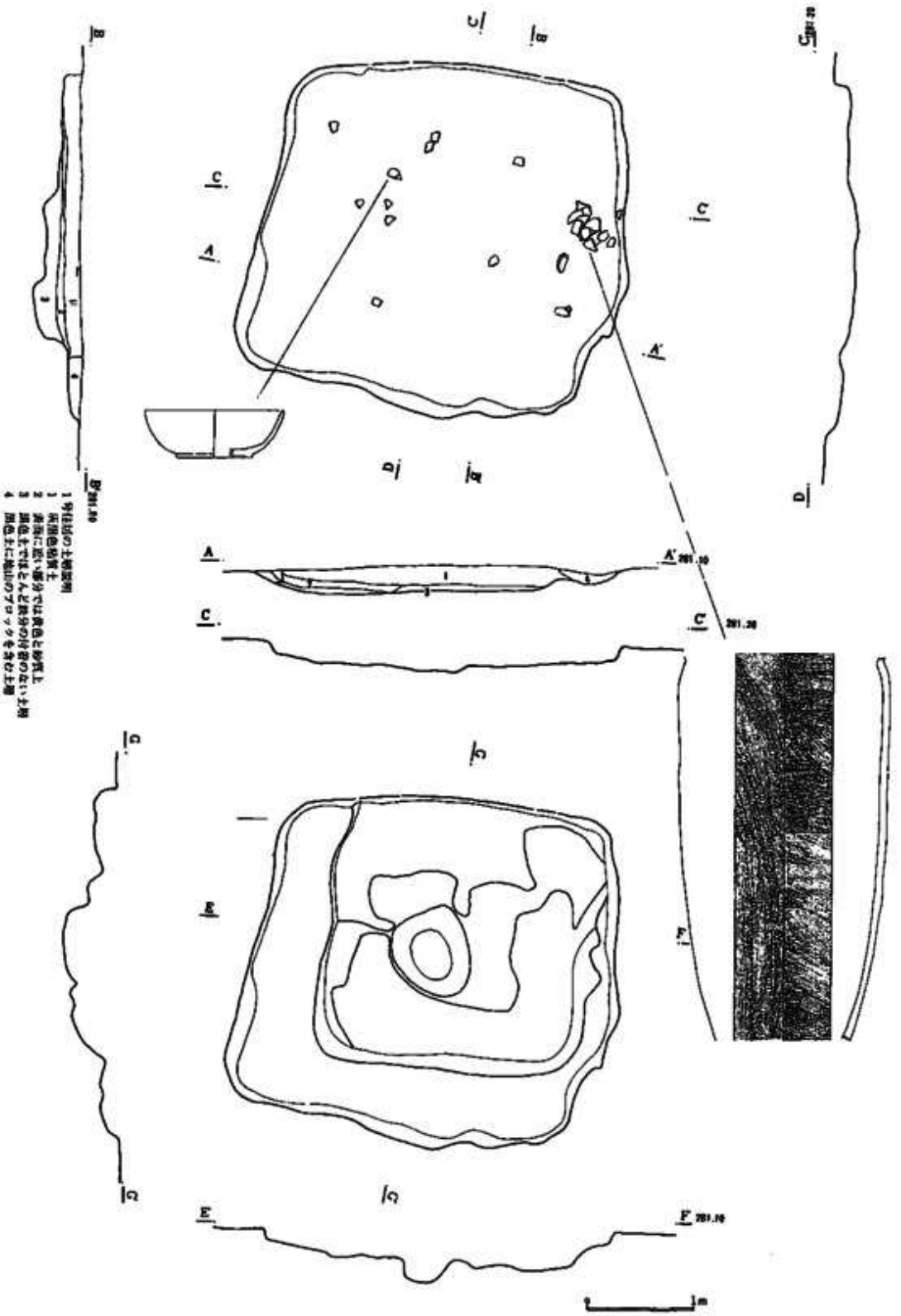
2－C、2－D、2－Eグリットにおいて検出された溝で、幅約60～70cmを測る。恐らく1号溝から取水する溝であると思われるが、取水口の部分は検出できなかった。

1号方形土坑

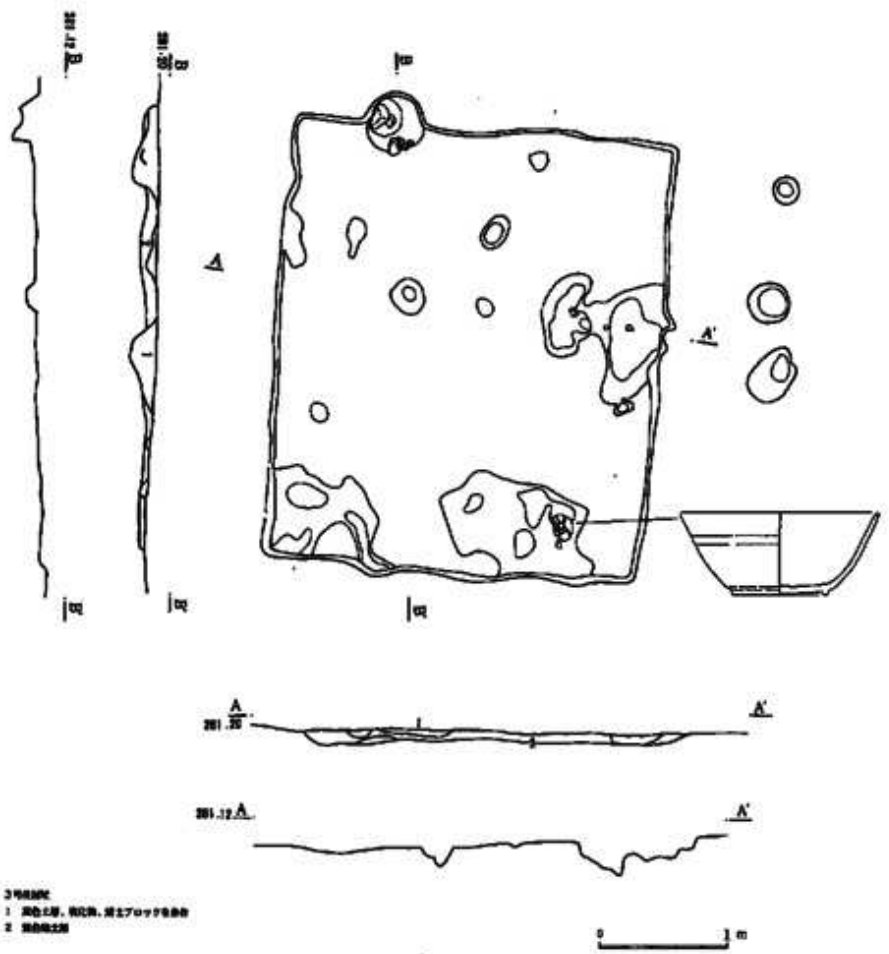
4－Iグリットに位置する長軸短軸とも245cm、深さ50cmの方形土坑である。土坑内より斎串1点、「3」の字状木製品1点のほか、クルミ、モモ核、植物種子（ヒョウタン）が多数出土している。

井戸址

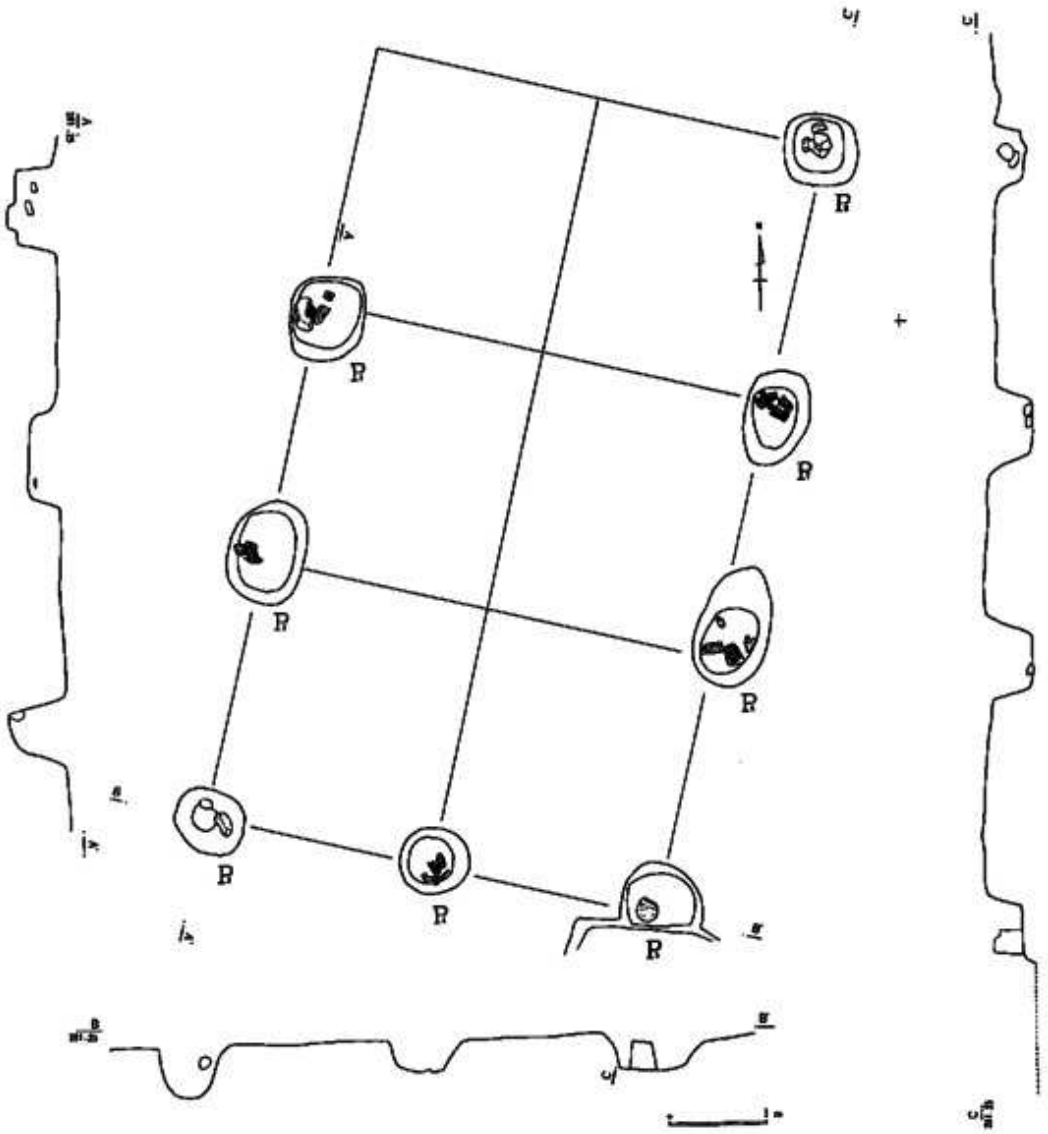
2－Eグリットに位置する長軸290cm、短軸212cm、深さ137cmを計る。セクション図に示すように底部付近には人頭大の礫の堆積が認められた。堆積土より他の遺構より新しい時期の所産と考えられる。



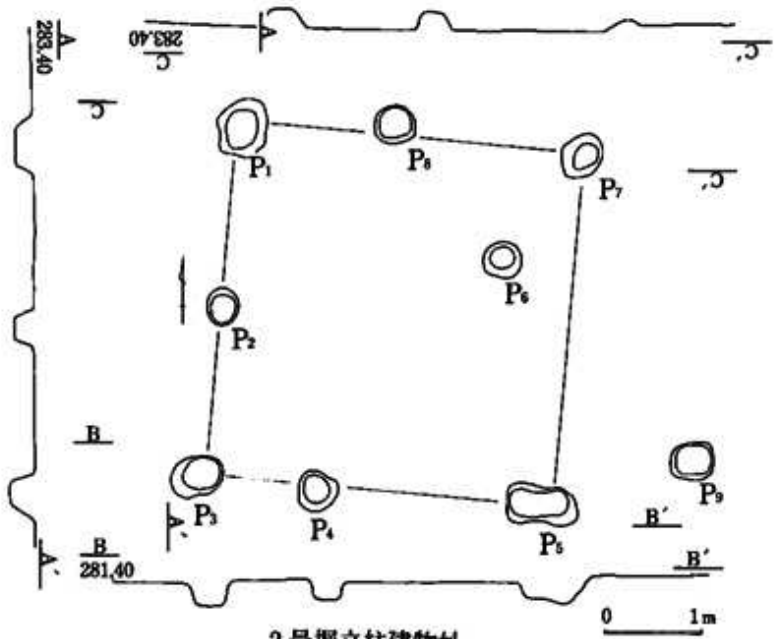
第５図　１号住居址実測図



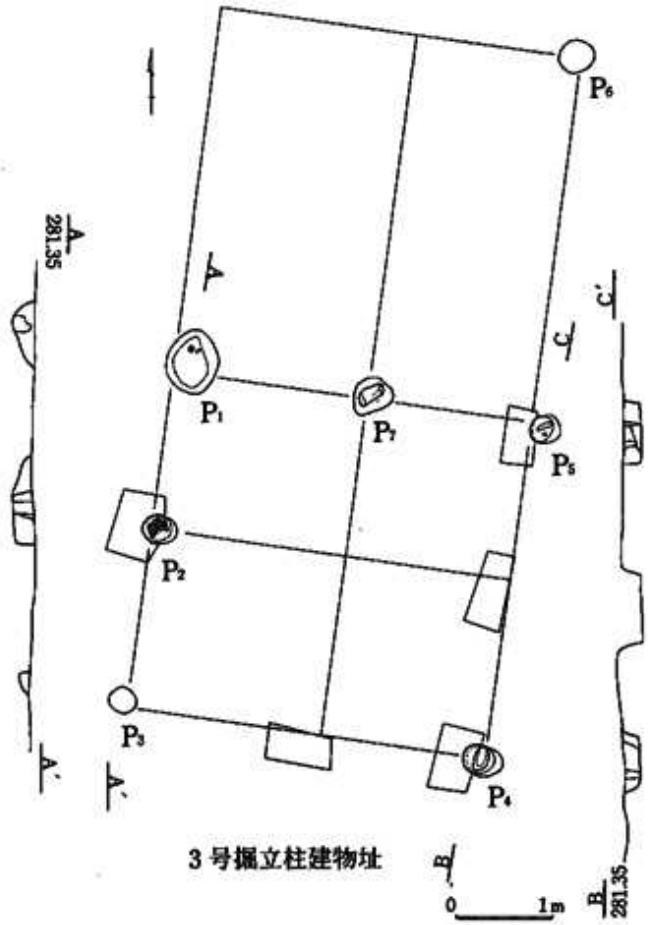
第６図　３号住居址実測図



第７図　１号掘立柱建物址実測図

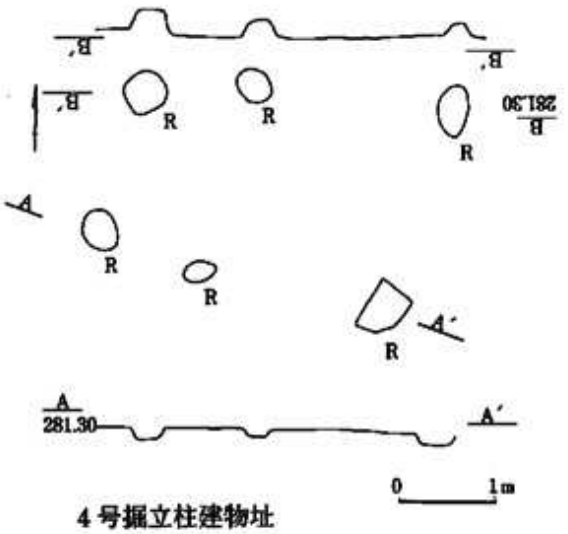


2号掘立柱建物址

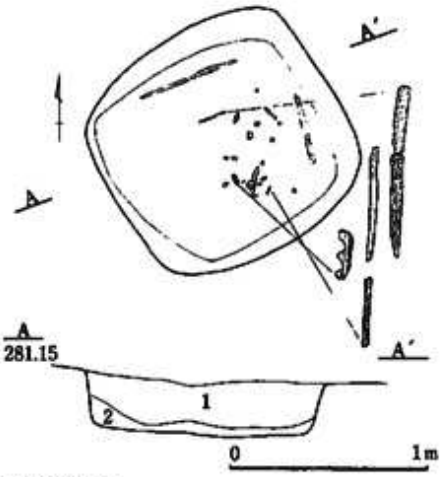


3号掘立柱建物址

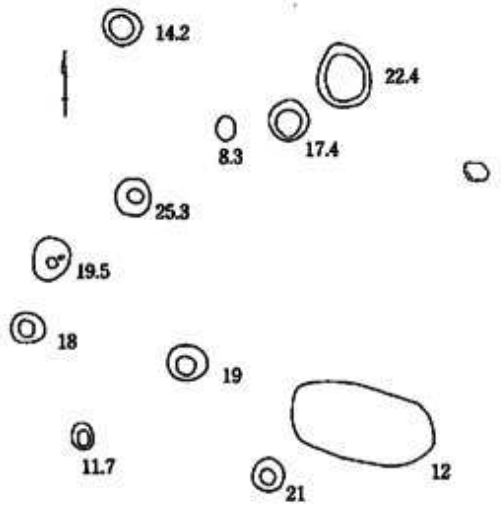
第8図　2号・3号掘立柱建物址実測図

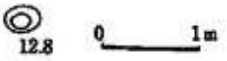


4号掘立柱建物址

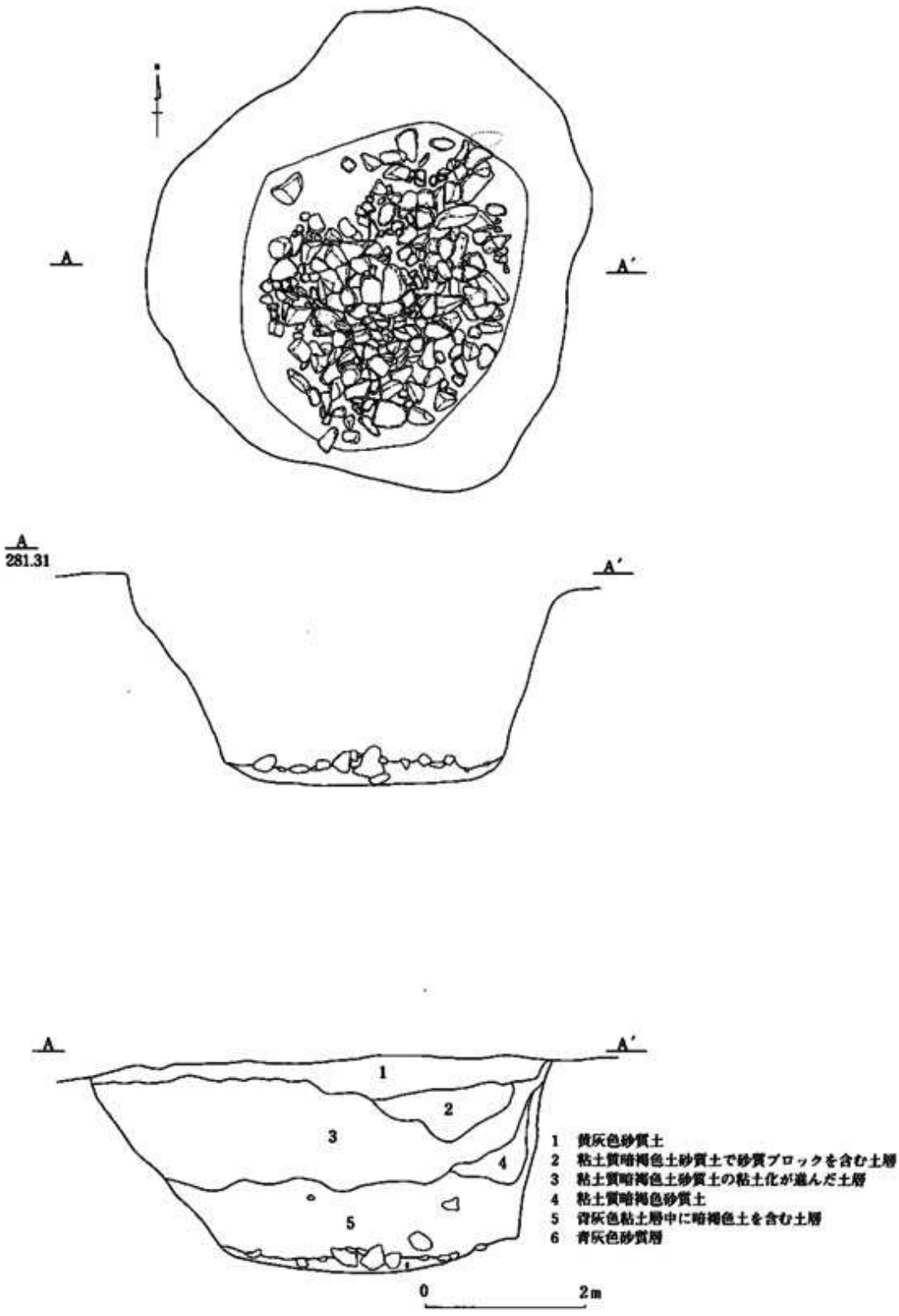


1号方形土坑
1　暗黒色粘土層
2　暗黒灰色粘土層

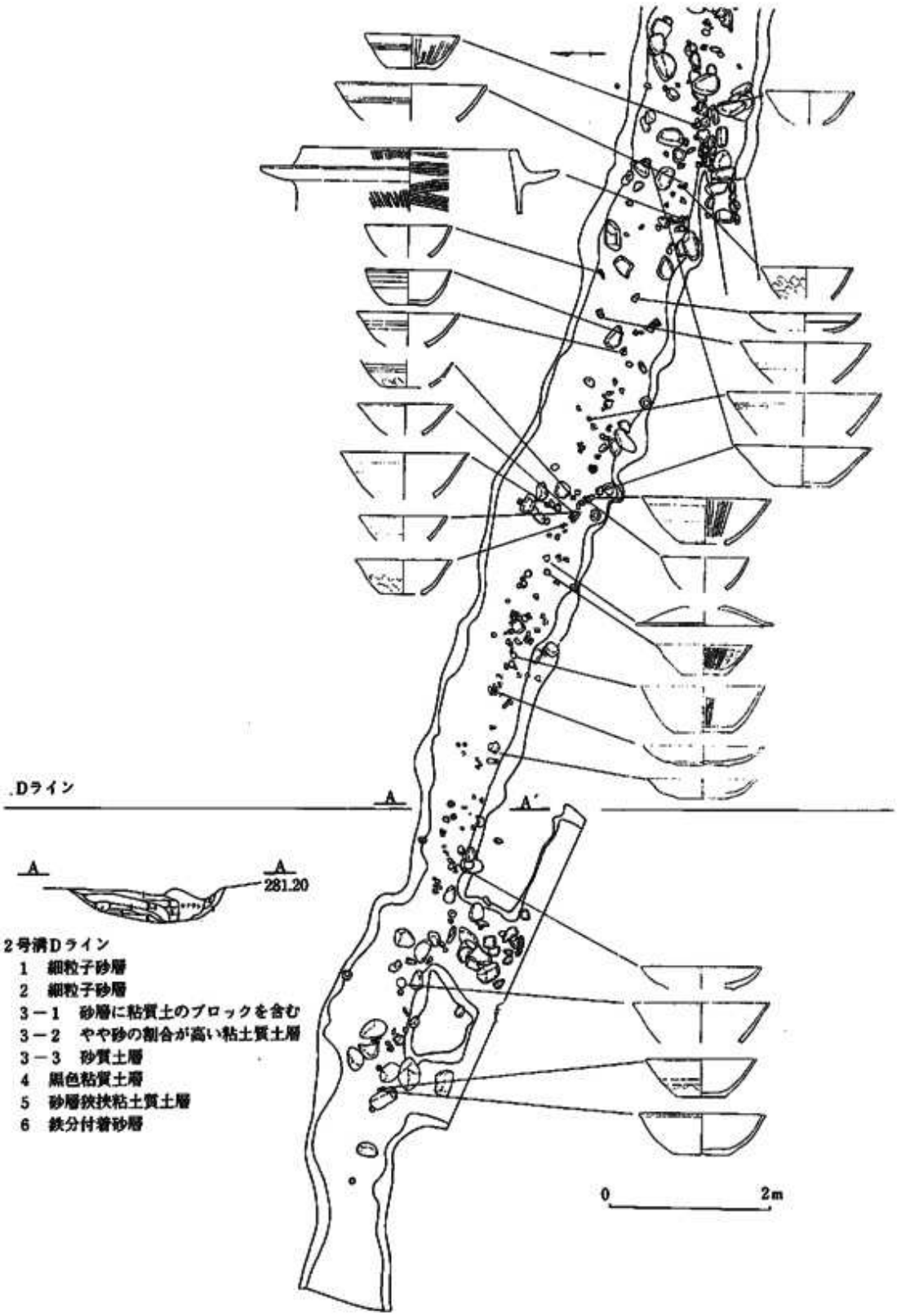




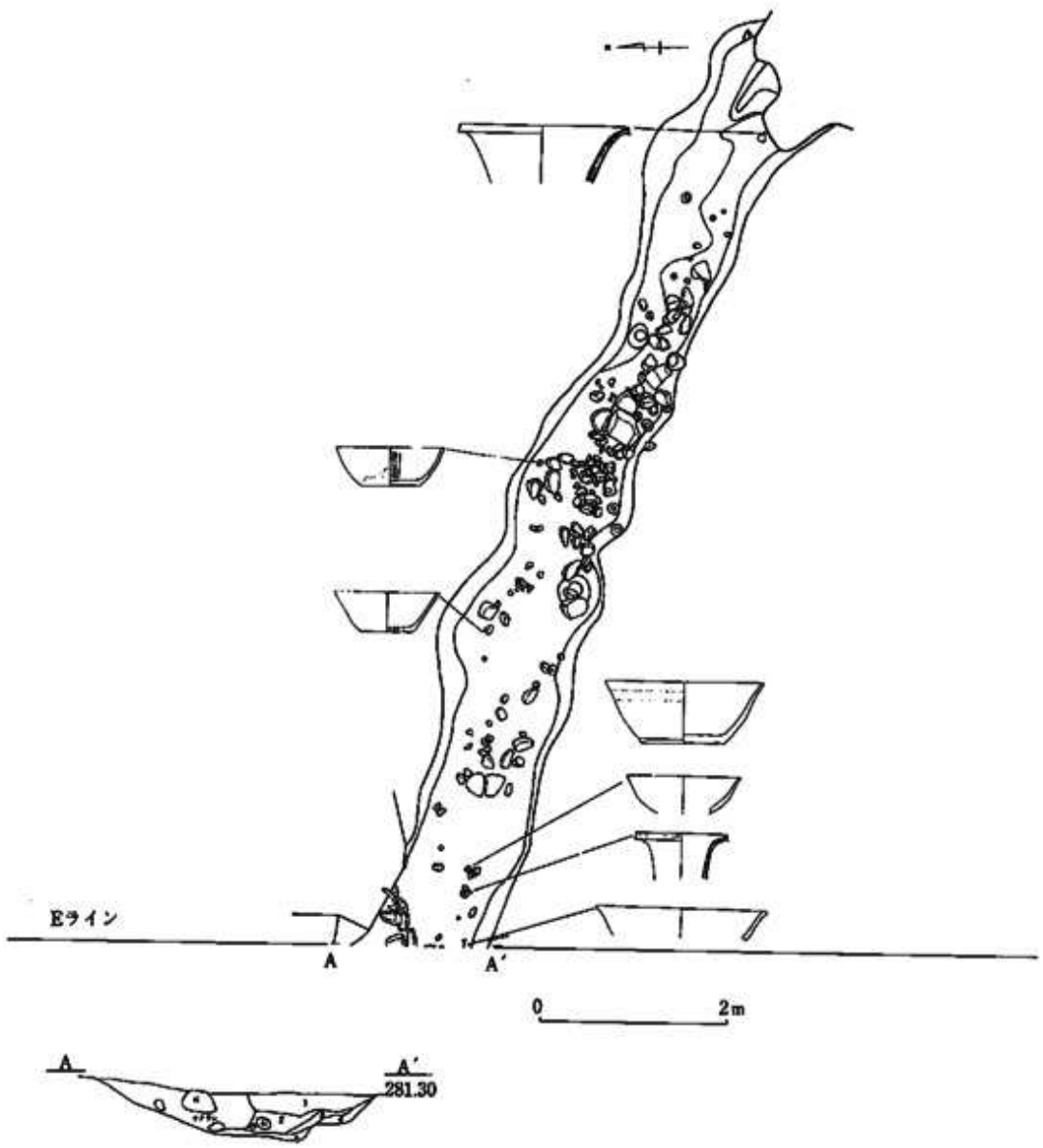
第9図　4号掘立柱建物址・1号方形土坑・ピット群実測図


A
A'
281.31
1
2
3
4
5
6
0
2m
1 黄灰色砂質土
2 粘土質暗褐色土砂質土で砂質ブロックを含む土層
3 粘土質暗褐色土砂質土の粘土化が進んだ土層
4 粘土質暗褐色砂質土
5 青灰色粘土層中に暗褐色土を含む土層
6 青灰色砂質層

第10図　井戸址実測図



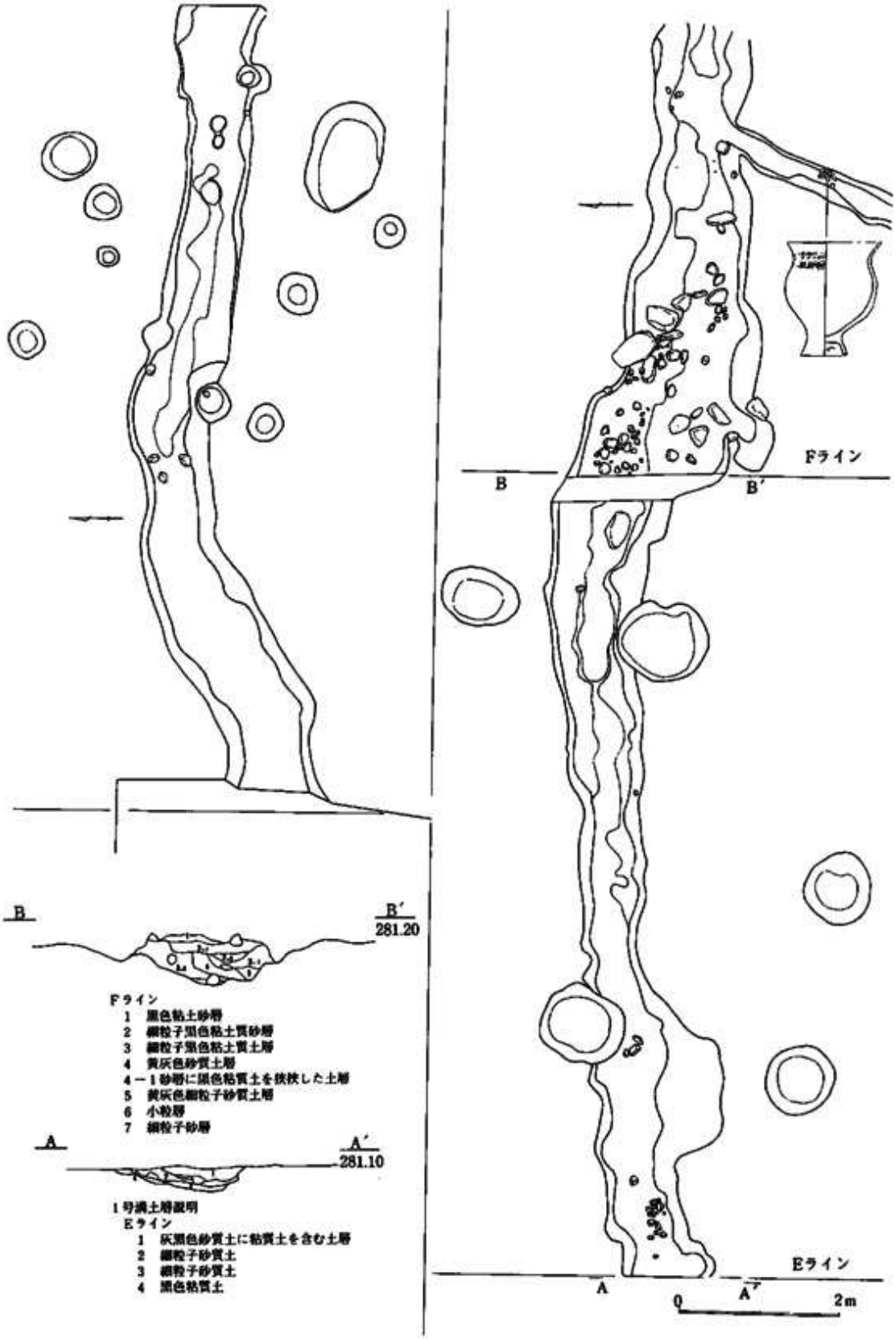
第11図　2号溝址C・D出土状況図



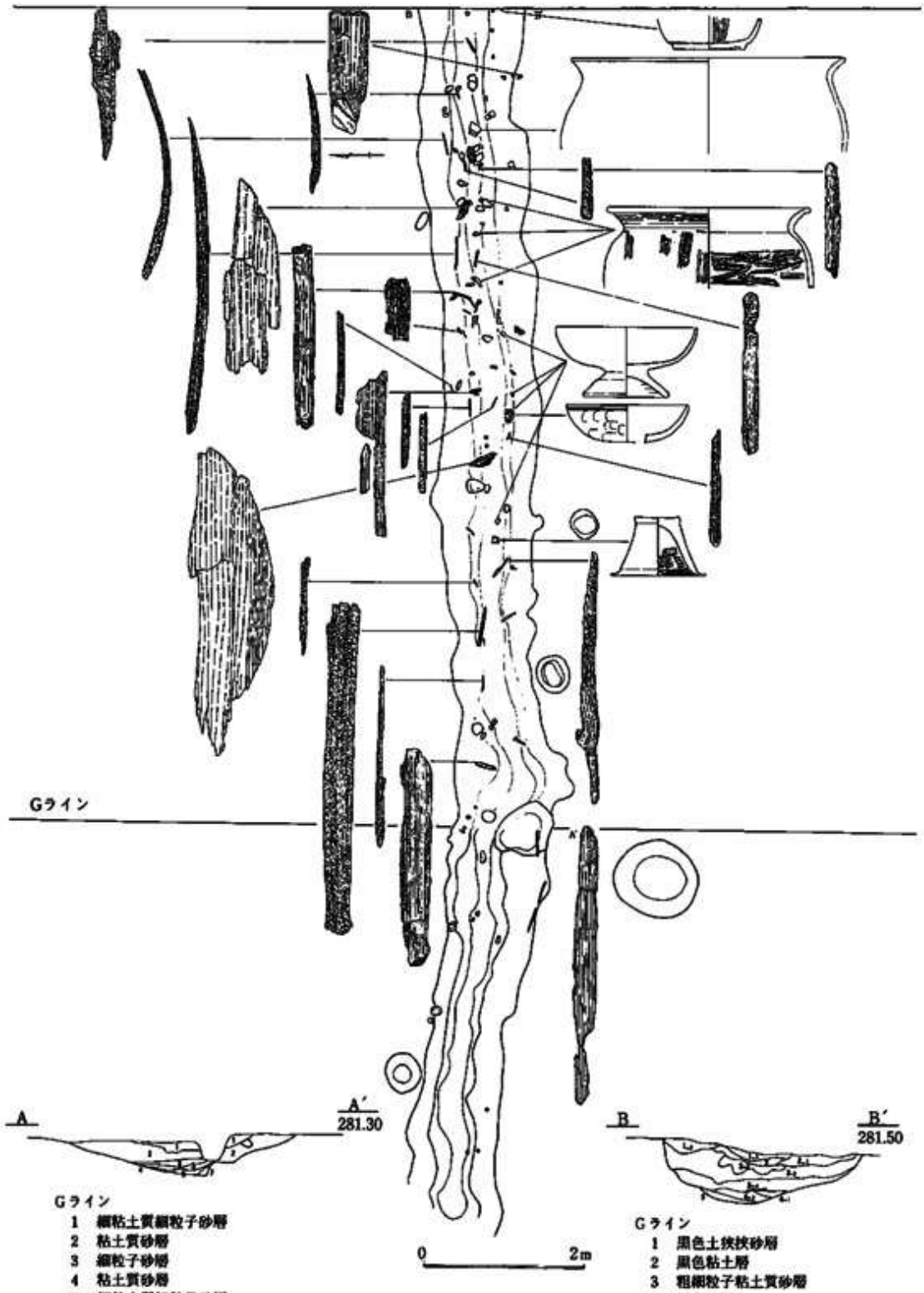
Eライン

1　粒子の細かなものと細い砂の互層
2　黒色の粘質土層
3　鉄分付着細粒子砂層
4　黒色粘土質土の小ブロックを含む砂層
5　鉄分付着砂層

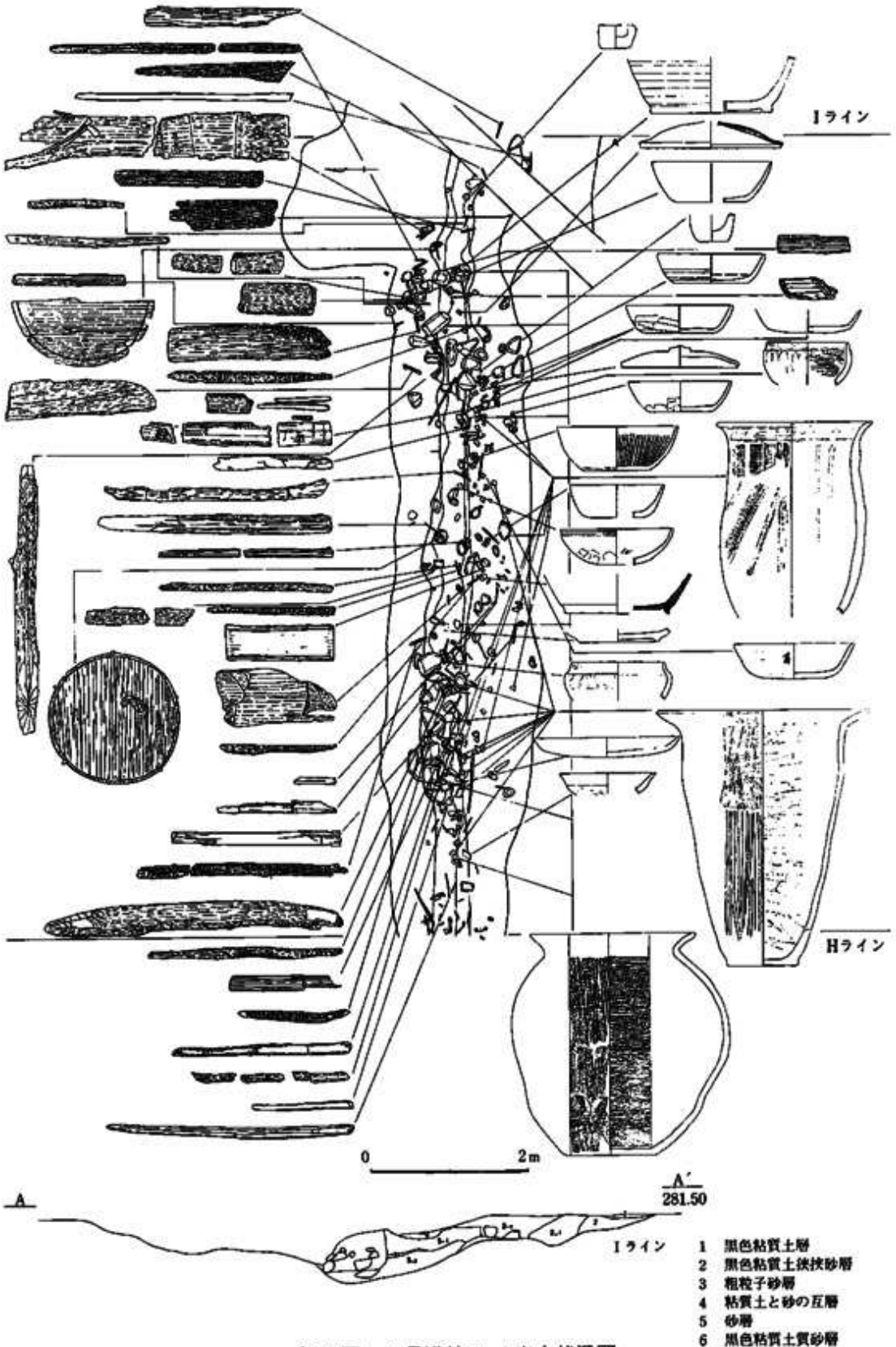
第12図　2号溝址E・F出土状況図



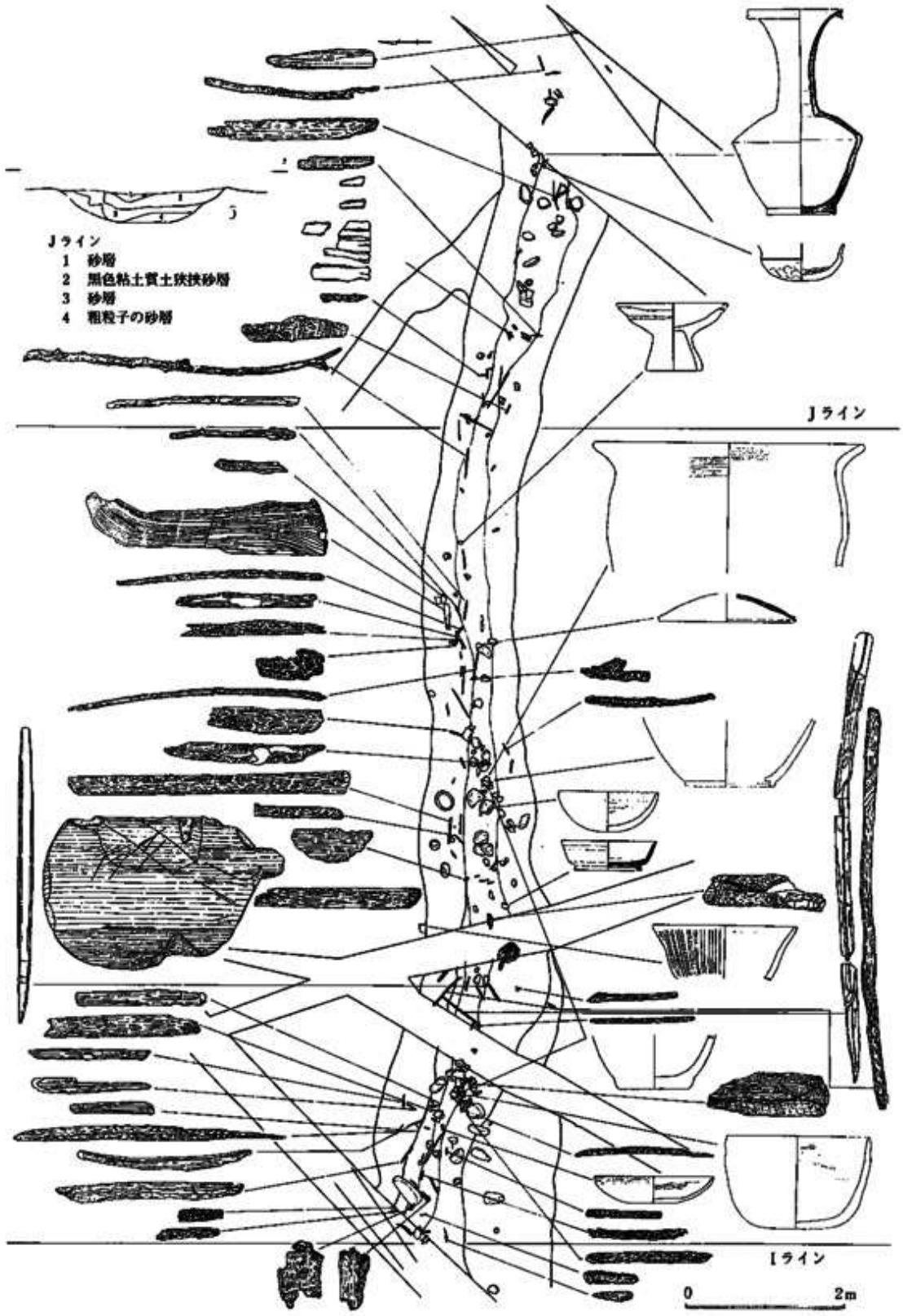
第13図　1号溝址G・F・E出土状況図



第14図　1号溝址G・F出土状況図



第15図　1号溝址H・I出土状況図



第16図　1号溝址J・I出土状況図

第２節　出土遺物

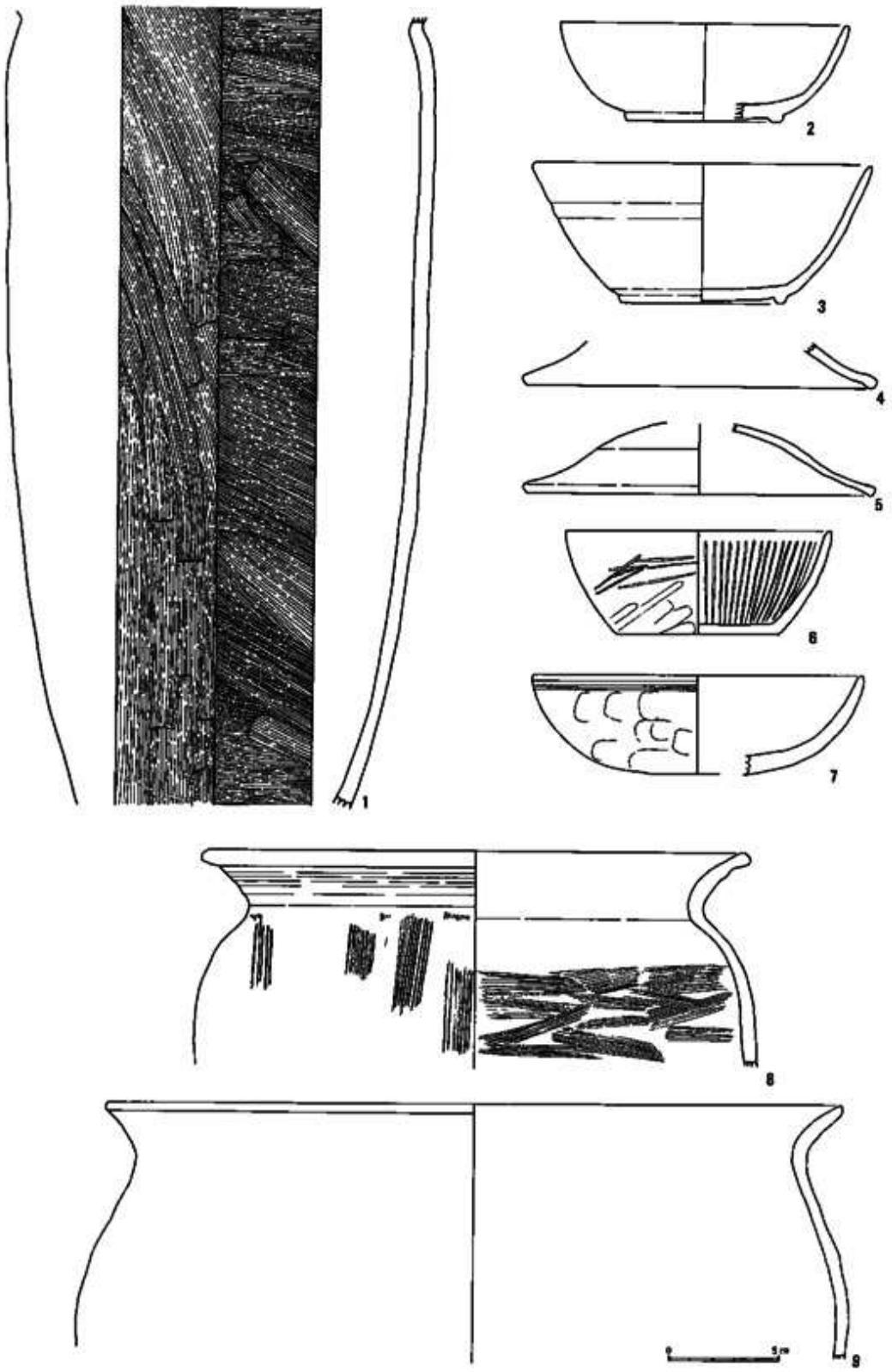
１号溝では２号溝と比較して、木製品、獣骨の出土が極端に少ない。また出土土器の年代も限定されたものである。それに比較して、２号溝では古墳時代と奈良から平安時代のものが出土しており、特に３－Ｈ、３－Ｉ、３－Ｇグリット付近に集中しており、中には斎串が刺さったままの出土状態がみとめられた。なお、４号溝では弥生後期に属する台付甕の出土があり、４号溝は弥生時代の溝である。１号溝は平安時代後半に属し、２号溝は古墳時代から平安時代、４号溝は弥生時代ということになる。なお、平安時代の土師編年は、坂本ほか1983に依拠した。

１　土器について

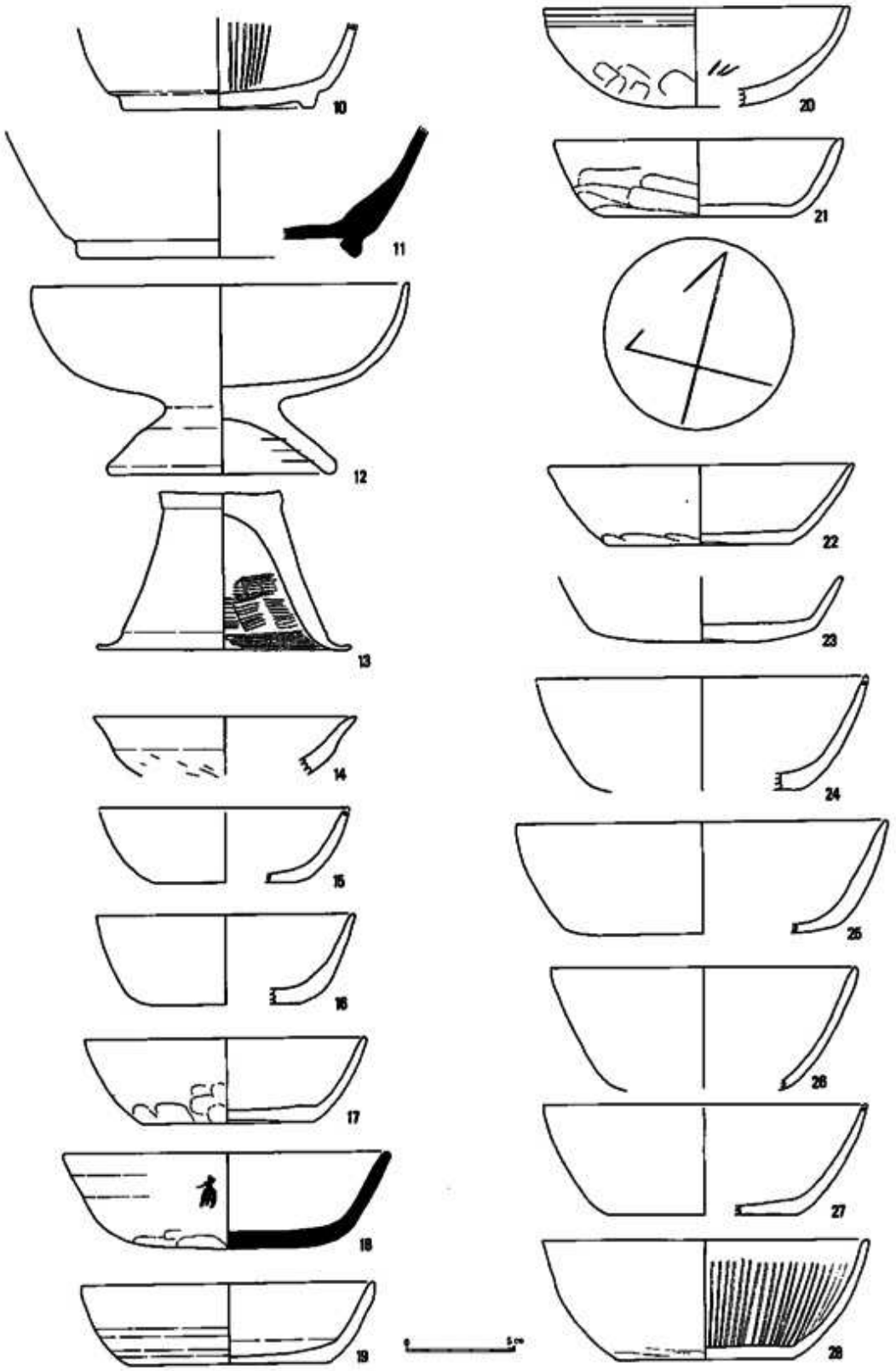
地耕免遺跡出土土器一覧表

No.	グリット	形態	口径cm	器高cm	底径cm	口底比%	時期	特徴 口縁部	特徴 底部	その他
1	1号住居址	甕	(18.7)	(35.7)	(12.4)			欠	欠	
2	1号住居址	高台坏	13.1	4.4	7.0	53.4%	Ⅶ	丸型	糸切痕、高台	1号溝3－1No.50と接合、ヘラミガキ
3	3号住居址	高台坏	15.4	6.3	7.4	48.1%	Ⅶ	丸型		暗文
4	3号住居址	蓋	16.1	(2.1)			Ⅶ？			
5	3号住居址	蓋	16.0	3.2			Ⅶ？			
6	1号溝3－G	坏	12.1	4.6	7.3	60.3%	Ⅵ		ヘラケズリ	見込暗文、ヘラミガキ
7	1号溝3－G	坏	15.0	4.5			古墳		ヘラケズリ	ヘラミガキ
8	1号溝3－G	壷	25.1				古墳			
9	1号溝3－G	壷	33.6				古墳			
10	1号溝3－G	高台坏	(12.6)	(4.0)	8.7		Ⅵ		削り出し高台	灰釉陶器 No.34と同じ
11	1号溝3－G	高台坏	(19.4)	(5.9)	13.1					
12	1号溝3－G	高坏	7.3	8.5	10.6		古墳			
13	1号溝3－G	高坏		(7.2)	11.7		古墳			
14	1号溝3－H	坏	12.1	2.7					ヘラケズリ	
15	1号溝3－H	坏	(11.5)	(3.1)	6.5		奈良		ヘラケズリ	
16	1号溝3－H	坏	11.9	4.1	6.9	58.0%	奈良		ヘラケズリ	3－H No.9と接合
17	1号溝3－H	坏	11.3	3.9	7.9	69.5%	奈良		ヘラケズリ	ヘラミガキ
18	1号溝3－H	坏	15.1	4.5	6.4	42.4%	奈良			墨書「角」、須恵器
19	1号溝3－H	坏	13.5	3.8	9.2	68.1%	奈良		ヘラケズリ	
20	1号溝3－H	坏	14.1	4.5	(3.2)		古墳		ヘラケズリ	
21	1号溝3－H	坏	13.2	3.2	8.7	65.9%	奈良		ヘラケズリ	
22	1号溝3－H	坏	14.0	3.7	8.4	60.0%	奈良			
23	1号溝3－H	坏		(3.0)	5.2		奈良			
24	1号溝3－H	坏	(15.2)	5.2	8.9		奈良			内面、見込暗文
25	1号溝3－H	坏	17.1	5.1	9.5	55.6%	奈良			内外面とも黒色付着物
26	1号溝3－H	坏	14.1	(5.5)			奈良			
27	1号溝3－H	坏	14.9	5.1	8.7	58.4%	奈良			
28	1号溝3－H	坏	15.0	5.6	8.1	54.0%	Ⅶ			
29	1号溝3－H	皿	8.1	2.5			Ⅵ			
30	1号溝3－H	坏	15.5	5.6	9.0	58.1%	Ⅴ			
31	1号溝3－H	皿	14.8	3.4	7.9	53.4%	Ⅹ			
32	1号溝3－H	皿	14.1	3.0			Ⅹ	玉縁		
33	1号溝3－H	鉢	17.3	8.1	9.4	54.3%	Ⅻ			
34	1号溝3－H	甕？		(5.0)	13.1					灰釉陶器
35	1号溝3－H	甕？		(7.1)	15.2					須恵器
36	1号溝3－H	坏	11.6	(4.9)			古墳			
37	1号溝3－H	坏	10.2	(5.5)			古墳			
38	1号溝3－H	高台坏		(1.7)	10.1		奈良			刻書「志」
39	1号溝3－H	蓋	14.1	2.8			奈良			須恵器
40	1号溝3－H	壷	20.7	28.0	11.1	53.6%	奈良			
41	1号溝3－H	甕	19.3	(24.4)			古墳			
42	1号溝3－H	蓋	18.1	(3.4)			奈良			須恵器
43	1号溝3－H	壷	20.5				古墳			須恵器
44	1号溝3－H	手こね	4.7	2.9	3.8		古墳			
45	1号溝3－H	手こね		3.4	3.4		古墳			

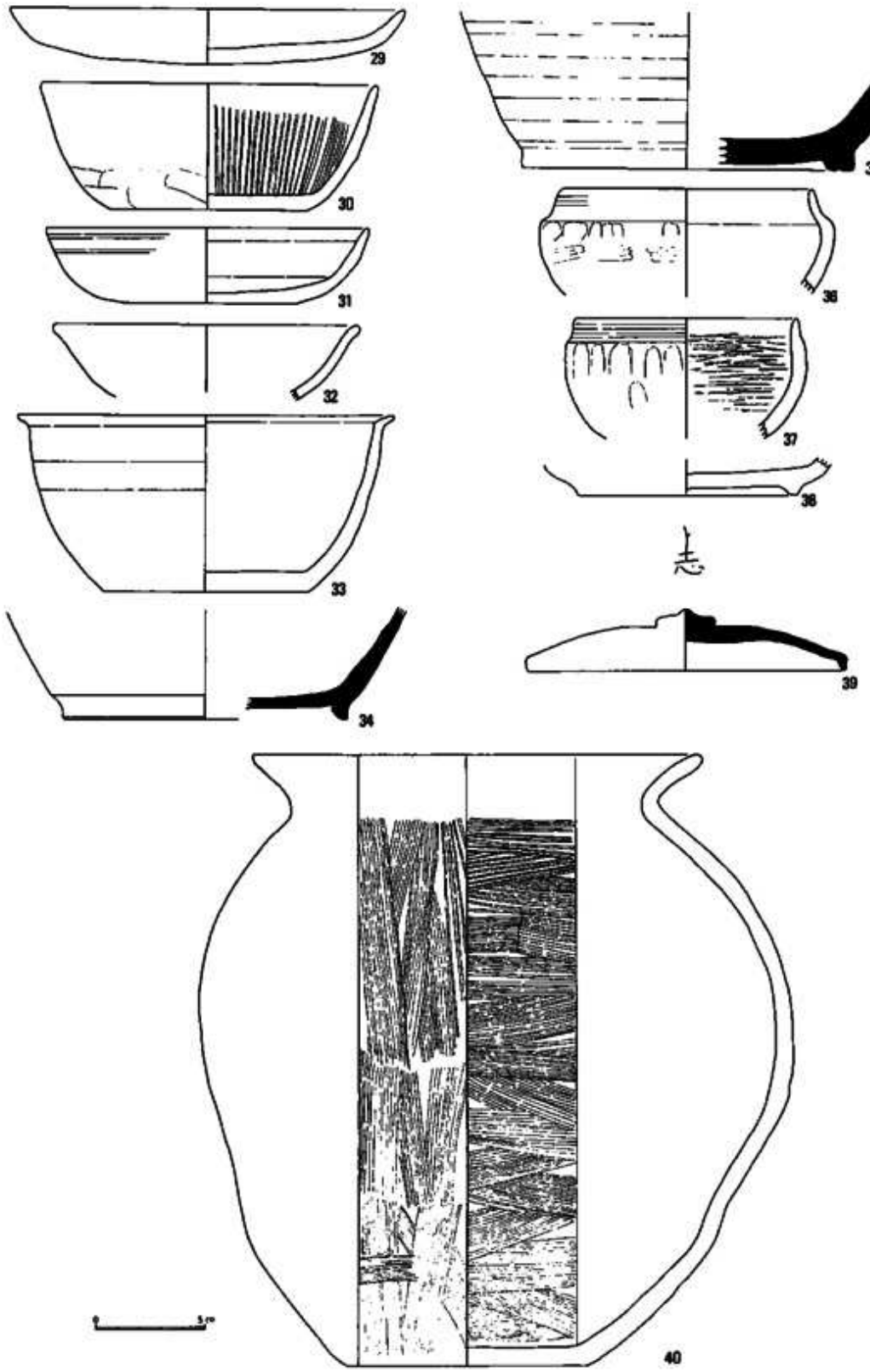
No	グリット	形態	口径cm	器高cm	底径cm	口底比%	時期	特徴 口縁部	底部	その他
46	1号溝3－H	甕	26.5	32.1	8.6		奈良		ヘラケズリ	
47	1号溝3－I	坏	15.1	3.4	6.1	40.4%	古墳			内外面黒色
48	1号溝3－I	坏	12.6	5.0			古墳			ヘラミガキ、外面黒色
49	1号溝3－I	坏	14.7	5.8	(7.8)		Ⅷ			
50	1号溝3－I	高台坏	13.2	4.5	7.0		奈良			墨書「東山」、1号住居址No.2と接合
51	1号溝3－I	高台坏	12.0	3.6	8.6	71.7%	奈良			須恵器
52	1号溝3－I	甕	(15.5)	(6.8)	8.7		古墳			
53	1号溝3－I	鉢	18.1	(6.7)	(11.5)		奈良			
54	1号溝3－I	壷	(21.7)	(8.4)	11.0		奈良			
55	1号溝3－I	高坏	(13.8)	(8.4)	6.9		古墳			
56	1号溝3－I	蓋	17.0	(3.5)			奈良			須恵器
57	1号溝3－I	鉢	17.3	11.7			古墳			
58	1号溝3－J	坏	(10.7)	(4.7)			古墳			
59	1号溝3－J	坏	12.8	3.0	(8.1)		奈良			
60	1号溝3－J	坏	12.9	4.5	(5.7)		古墳			
61	1号溝3－I	甕	33.9	(16.0)			古墳			
62	1号溝3－B	壷	12.0	25.0	8.7		古墳			須恵器
63	1号溝3－B	紡錘車	3.2	2.7	4.0		古墳			
64	1号溝3－B	皿	13.7	2.5			Ⅷ			
65	2－C,1－D,E	皿	15.2	2.8	8.6		Ⅷ			
66	2号溝1－D	皿	15.1	2.4	6.3		Ⅷ			
67	2号溝1－D	坏	12.7	3.9	6.5	51.2%	Ⅷ			
68	2号溝1－D	坏	17.2	4.9			Ⅷ			
69	2号溝1－D	高台坏	15.5	5.7	7.6	49.0%				
70	2号溝1－D	坏	12.2	4.0			Ⅸ			
71	2号溝1－D	坏	11.2	4.1			Ⅸ			
72	2号溝1－D	坏	11.6	3.9			Ⅸ			
73	2号溝1－D	坏	12.2	4.1	5.0	41.0%	Ⅹ			
74	2号溝1－D	坏	12.1	3.8	5.4	44.6%	Ⅹ			
75	2号溝1－D	蓋	17.1	2.5			Ⅷ			
76	2号溝1－D	坏	12.0	3.9			ⅩⅠ			
77	2号溝1－D	坏	11.0	3.1			Ⅹ			
78	2号溝1－D	坏		3.5			ⅩⅠ			
79	2号溝1－D	坏	11.9	4.2	5.9	49.6%	Ⅸ			
80	2号溝1－D	坏	12.1	4.2	5.5	45.5%	ⅩⅠ			
81	2号溝1－D	坏	12.0	4.1	6.0	50.0%	Ⅷ			
82	2号溝1－D	坏	16.0	5.2			Ⅹ			内面黒色
83	2号溝1－D	坏	16.0	6.0			Ⅹ			〃
84	2号溝1－D	坏	16.0	4.4			奈良			
85	2号溝1－D	坏	15.5	5.5			Ⅹ			内面黒色
86	1－D,2－E	坏	18.2	6.3			Ⅹ			〃
87	2号溝1－E	坏	18.2	3.2			Ⅹ			
88	2号溝1－D	坏	19.3	4.6			Ⅹ			
89	2号溝1－D	坏	19.3	5.5			Ⅹ			
90	2号溝1－D	高台坏	17.2	5.1	6.9	40.1%	Ⅹ			
91	2号溝1－D	高台坏	16.2	5.8	6.2	38.3%	Ⅹ			
92	2号溝1－D	坏	14.0	4.7	6.0	42.9%	Ⅸ			
93	2号溝1－E	壷	9.9	4.8			奈良			須恵器
94	2号溝1－D	羽釜	17.4	8.1			Ⅸ			
95	2号溝1－E	坏	10.1	2.8			Ⅸ			
96	2号溝1－E	坏	11.2	3.7			Ⅸ			
97	2号溝1－E	坏	10.8	3.8	4.8	44.4%	Ⅸ			
98	2号溝1－E	坏	11.1	4.2	5.4	48.6%	Ⅸ			
99	2号溝1－E	坏	11.5	4.1	6.0	52.2%	Ⅷ			
100	2号溝1－E	高台坏	16.9	6.4	8.9	52.7%	Ⅸ			
101	2号溝1－E	壷	18.4	(6.0)			奈良			須恵器
102	2号溝1－E	坏	11.0	4.2			Ⅸ			
103	2号溝1－E	皿	14.1	2.3	6.6		Ⅷ			
104	2号溝1－D	坏	14.1	2.5			Ⅹ			
105	2号溝1－D	皿	15.2	2.4			Ⅹ			
106	2号溝1－D	坏	14.1	2.5			Ⅹ			
107	2号溝1－D	坏	13.2	4.2			Ⅸ			
108	2号溝1－D	坏	11.0	4.3	5.0	45.5%	Ⅷ			
109	5－B	皿	15.6	3.7			奈良			
110	5－B	皿	14.1	2.5	4.2		Ⅹ			
111	4号溝	壷	11.5	14.2	5.7		弥生			
112	西側試掘溝	坏	15.2	4.8			古墳			



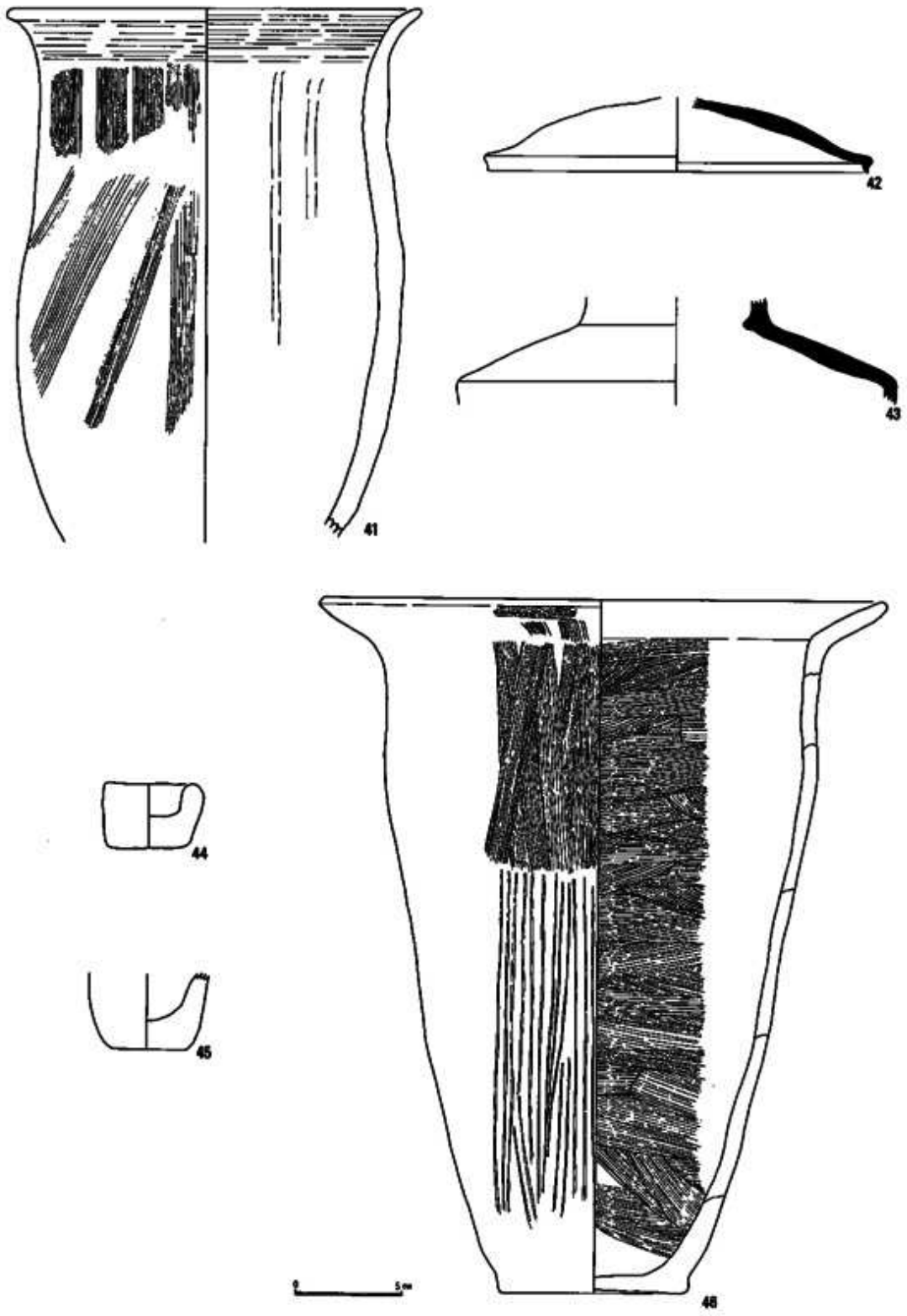
第17図　出土土器実測図



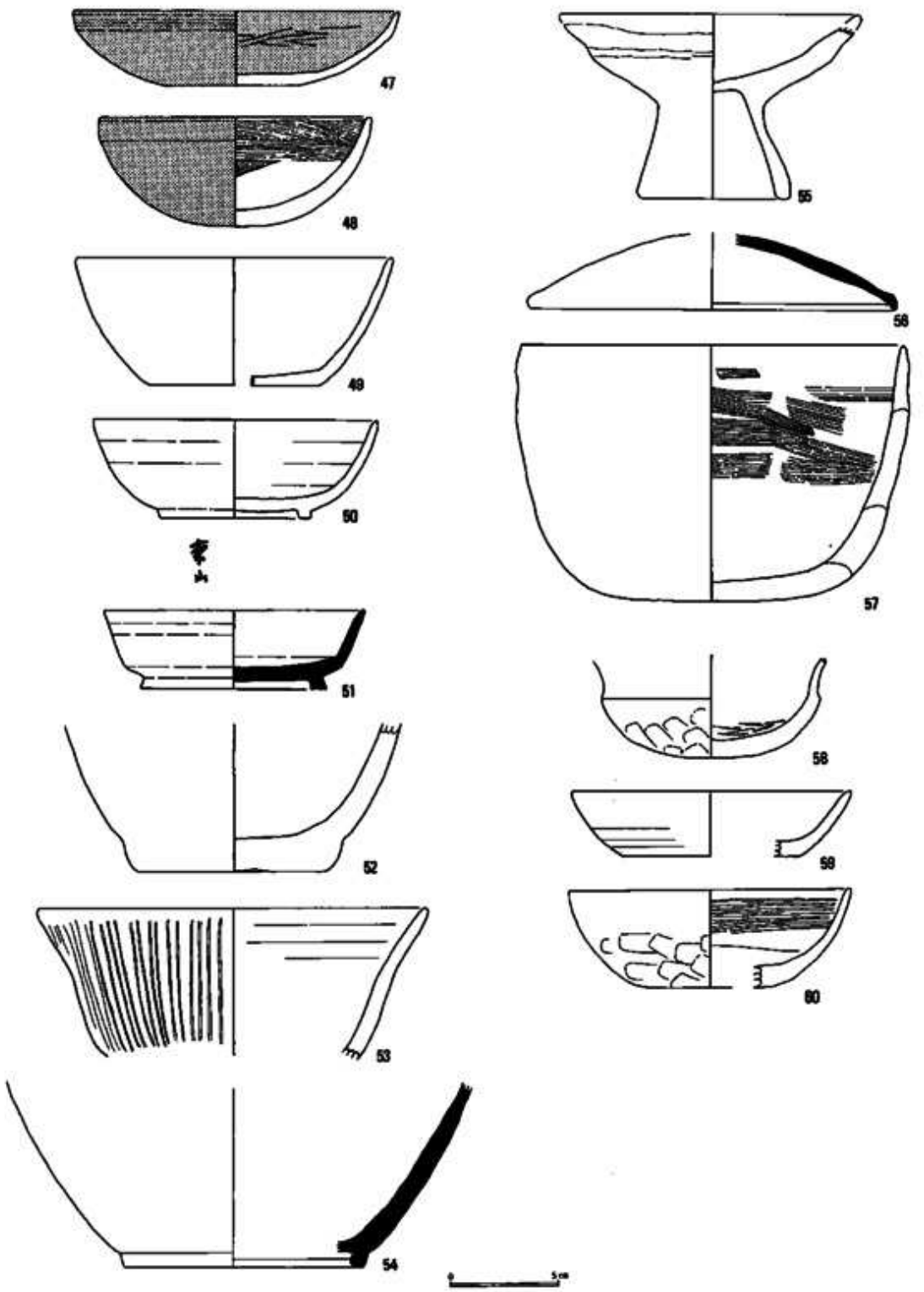
第18図　出土土器実測図



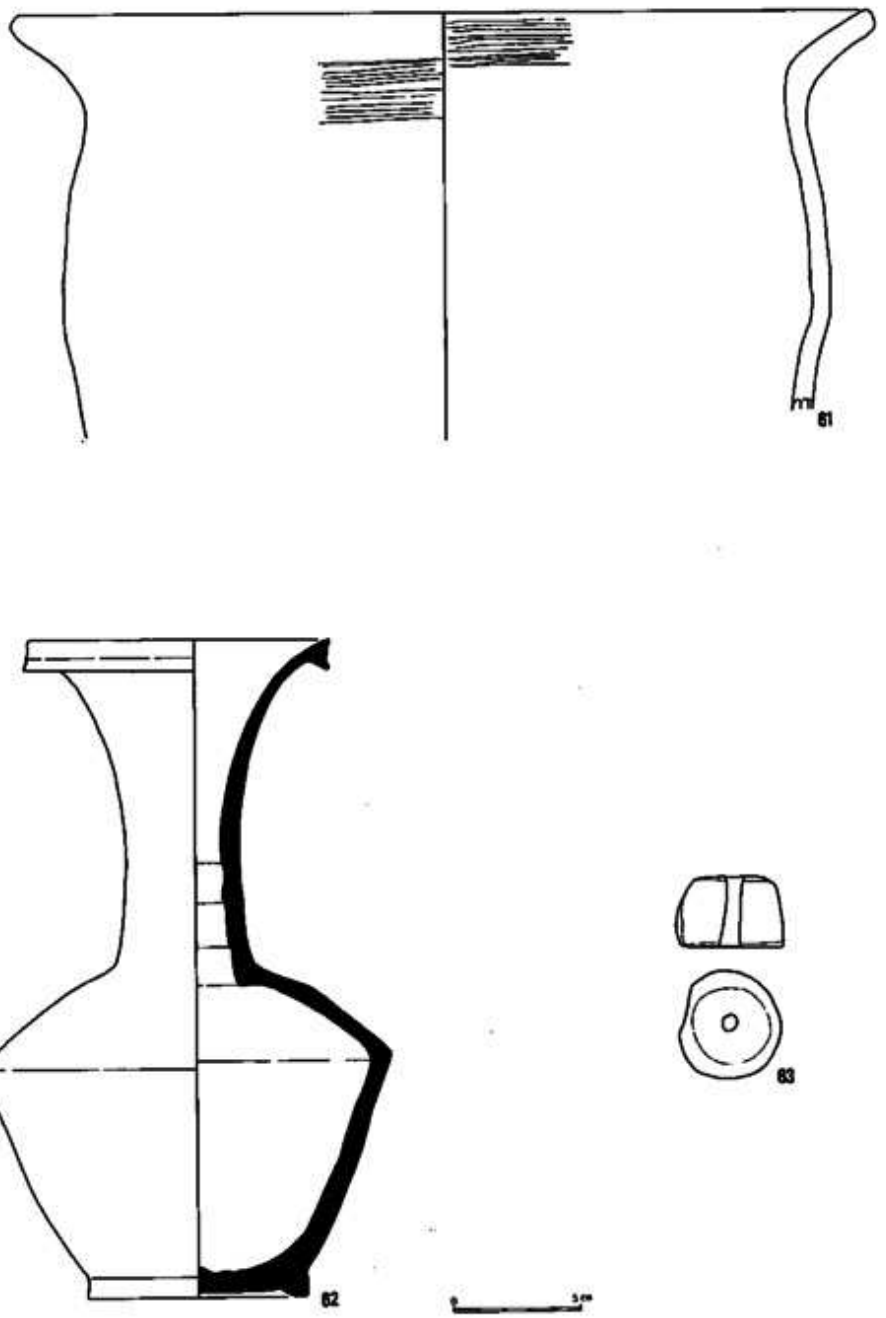
第19図　出土土器実測図



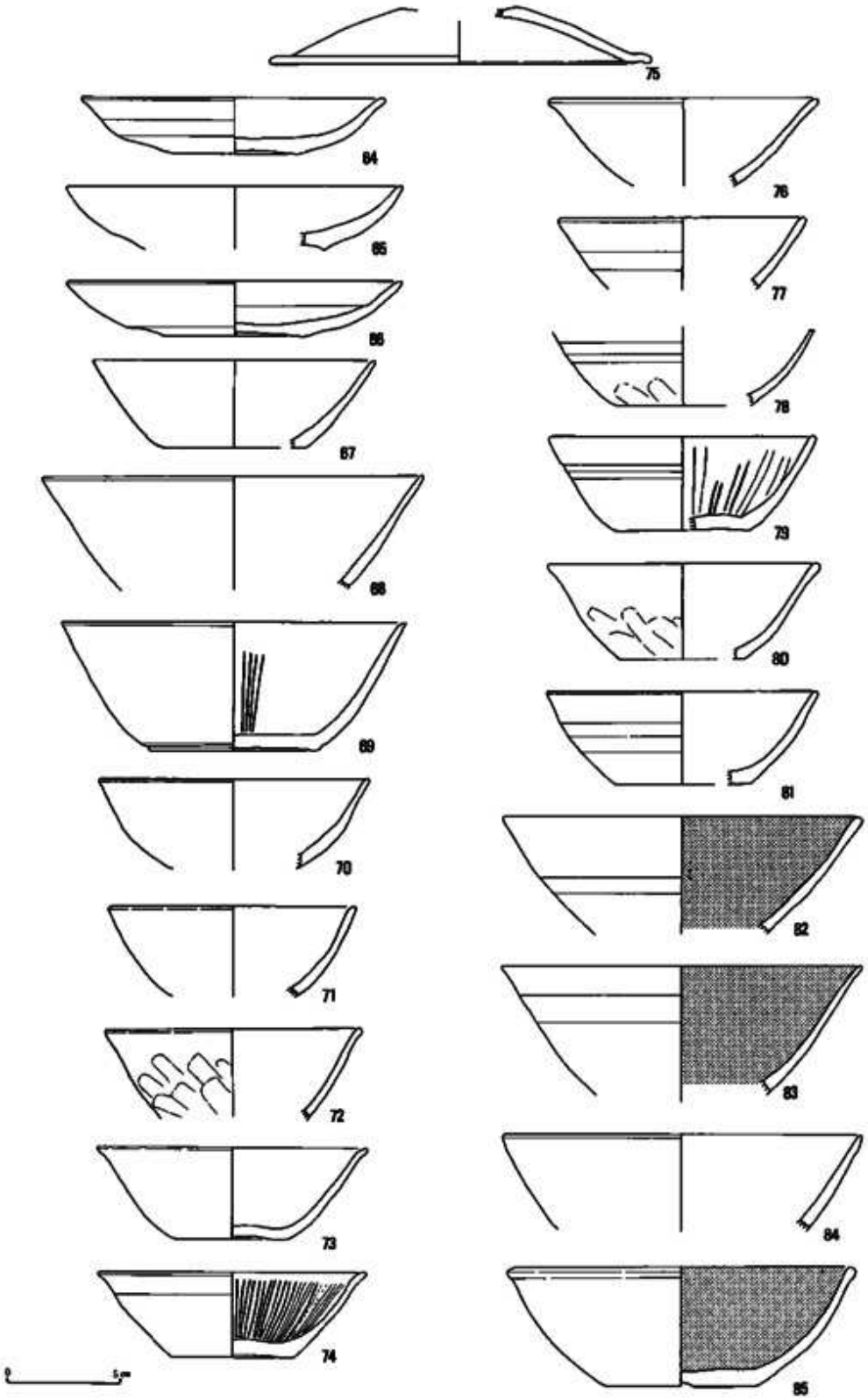
第20図　出土土器実測図



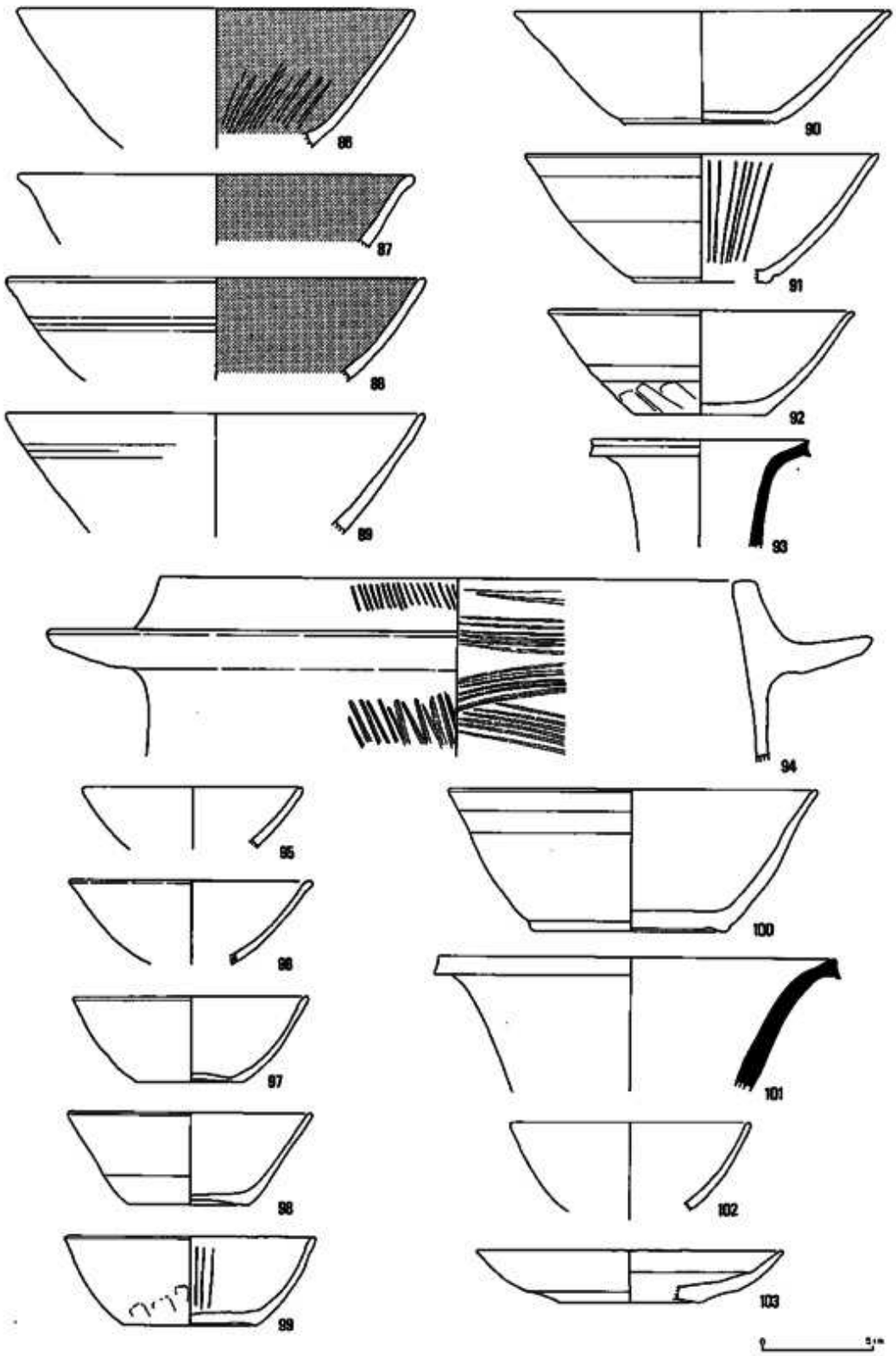
第21図　出土土器実測図



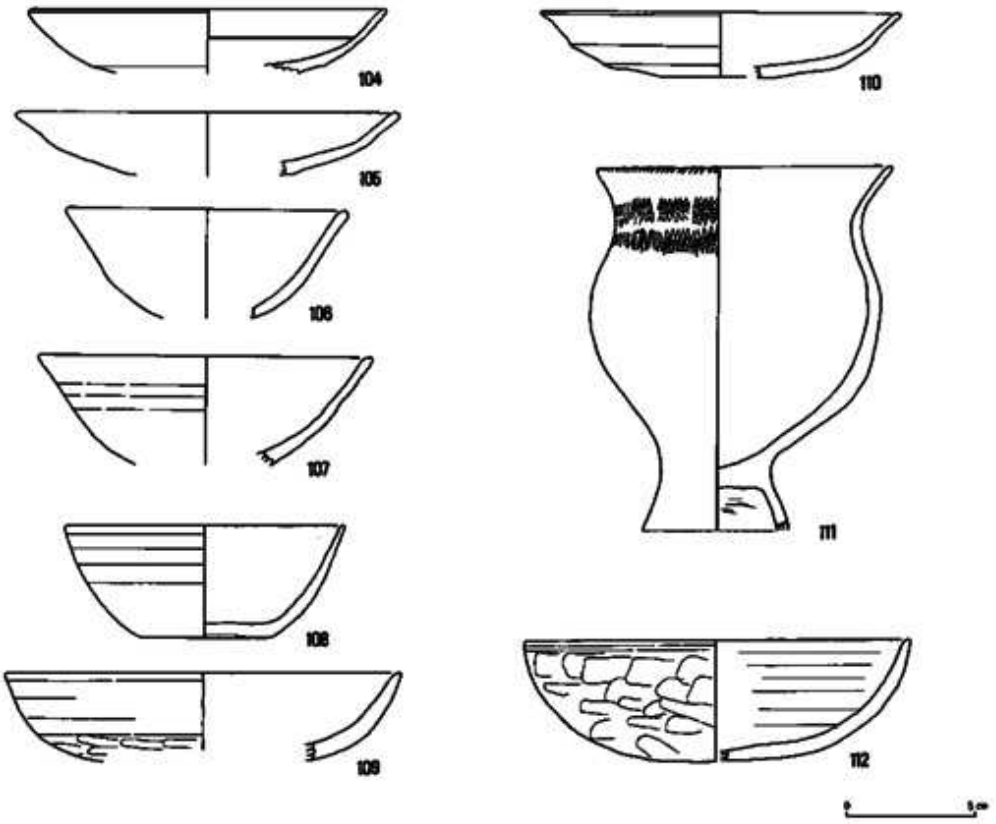
第22図　出土土器実測図



第23図　出土土器実測図



第24図　出土土器実測図



第25図　出土土器実測図

参考文献

坂本美夫・末木健・堀内真　1983　「山梨県」『シンポジウム　奈良・平安時代の諸問題』

2　木製品について

出土木製品一覧表

No.	出土地点	名　称	形　状	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考
1	1号溝3—F	木片		24.20	2.30	1.09	図化なし
2	1号溝3—F	木片		28.30	2.90	1.43	図化なし
3	1号溝3—F	木片		12.30	0.82	0.31	図化なし

No.	出土地点	名　称	形　状	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考
1	1号溝3—G	割板	両端が丸い割板	26.50	3.80	1.01	一端が焼けている
2	1号溝3—G	斎串	割板状	22.10	1.10	0.55	先端が焼けている
3	1号溝3—G	?	割板状	40.50	3.50	1.34	他に木片2点あり
4	1号溝3—G	斎串?	割材	11.90	0.63	0.61	
5	1号溝3—G	斎串	割材	31.10	2.80	1.21	先端が焼け、頭端斜切り
6	1号溝3—G	斎串?	割材	38.20	10.60	0.47	先端が焼けている
7	1号溝3—G	斎串	割材	14.00	1.25	0.60	
8	1号溝3—G	板材		9.80	0.80	0.37	一端切断
9	1号溝3—G	板材		20.10	4.80	0.65	
10	1号溝3—G	斎串?	割板	24.60	6.10	0.54	半月形の斎串か
11	1号溝3—G						図化なし
12	1号溝3—G	斎串?	断面長方形割板	12.60	0.78	0.42	先端が焼けている
13	1号溝3—G	割材?		22.70	2.50	1.47	
14	1号溝3—G	斎串		38.30	1.29	0.97	
15	1号溝3—G	斎串?	割板状	14.60	1.00	0.54	
16	1号溝3—G	板材		15.10	5.10	2.67	
17	1号溝3—G	割板材	割板状	19.30	1.70	1.50	
18	1号溝3—G	割板材	割板状	7.10	1.27	0.79	
19	1号溝3—G	斎串?	割板状	8.50	0.80	0.54	
20	1号溝3—G	木片	薄板	7.10	2.80	0.34	
21	1号溝3—G	割材	丸材の割材	14.30	1.70	1.57	
22	1号溝3—G	割材	先端が尖っている	17.30	1.20	0.57	ほぼ乾燥
23	1号溝3—G	木片		16.30	3.20	1.32	

No.	出土地点	名　称	形　状	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考
1	1号溝3—H	樽板		13.10	4.50	1.01	
2	1号溝3—H	木製?	木片	14.80	6.60	16.80	
3	1号溝3—H	斎串?	薄板	5.50	1.10	0.35	
4	1号溝3—H	斎串	薄板状	21.50	0.93	0.23	先端が焼けいてる
5	1号溝3—H	木片	断面丸の自然材	28.70	1.60	1.54	
6	1号溝3—H	木片	断面丸の自然材	15.00	1.50	1.20	先端斜切り
7	1号溝3—H	曲物	薄板状	7.20	2.80	0.36	薄板を桜皮で留めたもの
8	1号溝3—H	加工木片		13.50	3.60	1.05	
9	1号溝3—H	斎串	板状	20.10	2.60	1.15	頭端斜切り
10	1号溝3—H	火鑽杵	丸棒状	31.50	1.80	1.80	先端が尖っている
11	1号溝3—H	木片		18.80	1.80	0.79	

No.	出土地点	名　称	形　状	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考
12	1号溝3—H	曲物	薄板	37.00	6.00	0.30	薄板を桜皮で留めたもの
13	1号溝3—H	斎串	薄板状	21.00	1.47	0.73	圭頭で先頭が尖る
14	1号溝3—H	曲物底	薄板状	18.30	8.40	0.65	底半分
15	1号溝3—H	斎串？	断面三角の板状	12.30	1.10	0.54	
16	1号溝3—H	斎串？	完形	26.00	1.03	1.03	両端とも斜切り
17	1号溝3—H	？	断面三角の棒状	20.20	2.13	1.61	
18	1号溝3—H	斎串	割板状	21.70	1.10	0.65	半分に折れている
19	1号溝3—H	斎串	薄板状	15.30	1.30	0.41	圭頭で先端が尖る
20	1号溝3—H	斎串	断面方形	14.80	1.20	1.18	先端が焼けている
21	1号溝3—H	荷札？	薄板状	21.10	1.20	0.53	頭部切り込みあり
22	1号溝3—H	？	丸材を割ったもの	23.20	2.20	1.68	
23	1号溝3—H	？	薄板状	14.00	1.90	0.29	
24	1号溝3—H	斎串？		14.00	1.16	1.40	両端が尖り、焼けている
25	1号溝3—H	？		22.30	1.50	1.04	
26	1号溝3—H	斎串	断面台状の棒状	12.00	0.40	0.74	
27	1号溝3—H	？	断面台状の棒状	12.60	1.05	1.03	別個のもの3点
28	1号溝3—H	？					図化なし
29	1号溝3—H	？					図化なし
30	1号溝3—H	薄板	薄板一部	8.20	2.80	0.15	
31	1号溝3—H	斎串	断面三角	31.00	1.41	0.85	頭部斜切り、先端尖る
32	1号溝3—H	？		7.40	2.90	0.89	先端が刃先状
33	1号溝3—H	荷札状薄板	薄板で2孔	9.10	2.20	0.36	
34	1号溝3—H	斎串	断面長方形	9.90	0.90	0.49	刺さっていた
35	1号溝3—H	斎串	断面三角	20.60	1.15	0.50	両端欠損
36	1号溝3—H	板状		10.00	1.10	0.63	加工痕あり
36	1号溝3—H	斎串	薄剥ぎ板状	8.40	1.10	0.68	先端焼け
37	1号溝3—H	斎串	断面カマボコ状	6.70	1.20	0.50	半折
38	1号溝3—H	？	割板状	30.00	2.60	0.50	完形、先端焼け
39	1号溝3—H	斎串？	断面レンズ状	14.40	1.38	0.81	先端折れ
40	1号溝3—H	板		20.70	4.30	1.33	
41	1号溝3—H	板状	割板状	6.30	2.80	0.59	2片あり
42	1号溝3—H	農具か？	板状	19.50	4.30	2.30	農具の一部か
43	1号溝3—H	杭か？	丸棒	33.30	2.80	2.80	
44	1号溝3—H	木片	板状	6.60	5.50	0.80	両端を切る
45	1号溝3—H	板状		12.30	2.90	1.50	一端が焼けている
46	1号溝3—H	自然材	丸棒	26.50	1.60	1.28	
47	1号溝3—H	曲物底		16.50	16.40	1.05	竹釘5箇所
48	1号溝3—H	杭		37.80	3.05	3.10	先端を尖らせている
49	1号溝3—H						図化なし
50	1号溝3—H			9.00	2.30	0.50	
51	1号溝3—H	斎串？		10.00	1.40	0.60	
52	1号溝3—H		自然材	10.70	0.90	0.60	

No.	出土地点	名　称	形　状	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考
1	1号溝3—I	斎串？	割板状	23.80	1.32	1.24	両端欠、先端焼け
2	1号溝3—I	斎串？	割板状	10.80	1.50	0.75	
3	1号溝3—I	斎串？	断面三角割板状	22.10	1.59	0.78	
4	1号溝3—I	斎串？	割板状	15.00	1.79	1.30	先端焼け
5	1号溝3—I	斎串？	割板状	16.60	1.21	0.74	頭端斜切り
6	1号溝3—I	斎串？	割板状（断面三角）	1.67	1.80	1.00	
7	1号溝3—I	斎串？	割板状（断面三角）	9.20	1.50	0.55	頭端斜切り
8	1号溝3—I	斎串？	割板状（断面三角）	34.00	1.68	0.94	先端焼け
9	1号溝3—I	？	薄板	9.50	3.80	0.19	
10	1号溝3—I	？	薄板状木片	11.00	1.50	0.58	
11	1号溝3—I	自然木	丸棒	20.30	2.33	1.92	
12	1号溝3—I	？	薄板	14.20	2.90	0.19	
13	1号溝3—I	斎串？	割板状	18.50	1.80	0.75	
14	1号溝3—I	自然木		18.20	1.76	1.44	
15	1号溝3—I	木片		8.50	3.80	1.15	
16	1号溝3—I	板状片	割板状	30.50	6.60	2.60	ホゾ穴状の窪みあり
17	1号溝3—I	木片		11.60	7.00	1.85	
18	1号溝3—I	自然材	丸棒	15.40	0.98	0.82	
19	1号溝3—I	自然材	丸棒	24.00	0.98	0.87	
20	1号溝3—I						図化なし
21	1号溝3—I	自然材		39.40	1.80	1.10	
22	1号溝3—I	割材	断面三角	16.80	5.40	4.10	
23	1号溝3—I	木製農具	団扇状	30.40	18.80	1.90	片側欠
24	1号溝3—I	斎串	断面レンズ状	37.40	1.80	0.95	両端尖り、破損
25	1号溝3—I	？	板状端切断痕	21.60	2.40	1.00	
26	1号溝3—I	斎串	割板	49.30	1.45	1.12	頭端斜切り
27	1号溝3—I	斎串	丸棒状	55.60	1.70	1.82	先端尖り、頭部ヘラ状
28	1号溝3—I	斎串	ハシ状	13.00	0.55	0.48	
29	1号溝3—I	斎串	断面レンズ状	11.10	1.15	0.34	頭端斜切り
30	1号溝3—I	自然材		15.20	3.20	3.10	ホゾ穴か
31	1号溝3—I	？	丸材を半裁したもの	35.40	2.50	1.05	1箇所鉄クギ痕あり
32	1号溝3—I	火錐杵	自然丸材	26.00	0.97	0.73	先端丸く炭化
33	1号溝3—I	割り薄材	割り材片	17.20	0.72	0.41	
34	1号溝3—I	自然材の斎串	自然丸材	32.60	0.88	0.59	頭端斜切り
35	1号溝3—I	自然材の斎串	丸棒状	17.10	1.10	0.50	頭部斜切り
36	1号溝3—I	割材		16.00	1.30	1.20	
37	1号溝3—I	自然材		12.50	1.30	0.80	
38	1号溝3—I	自然材					図化なし
39	1号溝3—I	斎串	楔状	5.10	7.00	3.00	全体が焼けた小品
40	1号溝3—I	自然材		8.80	2.73	1.33	
41	1号溝3—I	斎串？		9.40	0.85	0.52	
42	1号溝3—I	木片					破損

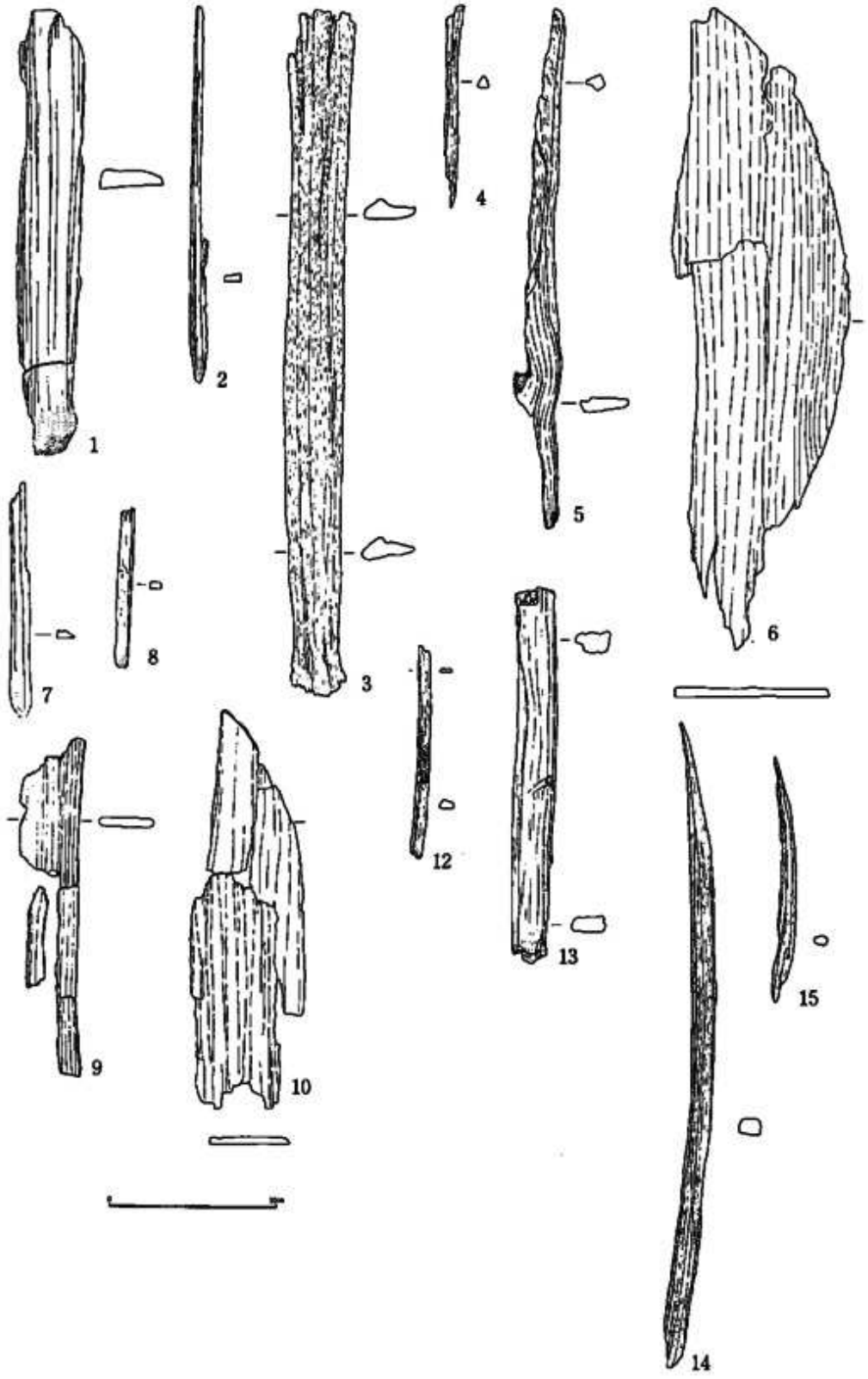
No.	出土地点	名　称	形　状	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考
43	1号溝3—I	自然材		5.60	1.40	1.40	
44	1号溝3—I	自然材	松の皮	7.60	6.00	1.48	
45	1号溝3—I	自然材		6.80	1.50	0.82	
46	1号溝3—I	薄剥ぎ材	薄皮	7.30	1.10	0.12	
47	1号溝3—I						図化なし
48	1号溝3—I	自然材	丸棒	19.80	1.92	1.73	
49	1号溝3—I	自然材	丸棒	9.10	3.08	2.70	先端が焼けている
50	1号溝3—I	斎串	丸棒	25.20	1.70	0.83	先端が焼けている
51	1号溝3—I	斎串		5.39	1.67	0.60	
52	1号溝3—I	薄剥ぎ材		15.30	1.55	0.34	
53	1号溝3—I	自然材		22.10	1.50	1.00	
54	1号溝3—I	斎串	先端	4.40	1.15	0.83	丸棒の先端を尖らせている
55	1号溝3—I	板材		7.40	2.10	0.55	

No.	出土地点	名　称	形　状	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考
1	1号溝3—J	?	断面長方形	21.60	2.60	1.50	先端が焼け、折れている
2	1号溝3—J	木片		13.40	3.20	1.50	
3	1号溝3—J	木片					板状木片
4	1号溝3—J	斎串	圭頭状削りかけ	6.00	0.80	0.24	削りかけ状
5	1号溝3—J	?	断面三角形	9.60	0.72	1.54	
6	1号溝3—J	?	断面楕円	14.20	2.20	1.40	鉄あり、何かの柄
7	1号溝3—J	斎串		21.20	1.34	4.50	火縄白剥片
8	1号溝3—J	斎串	自然材	47.00	0.90	1.00	

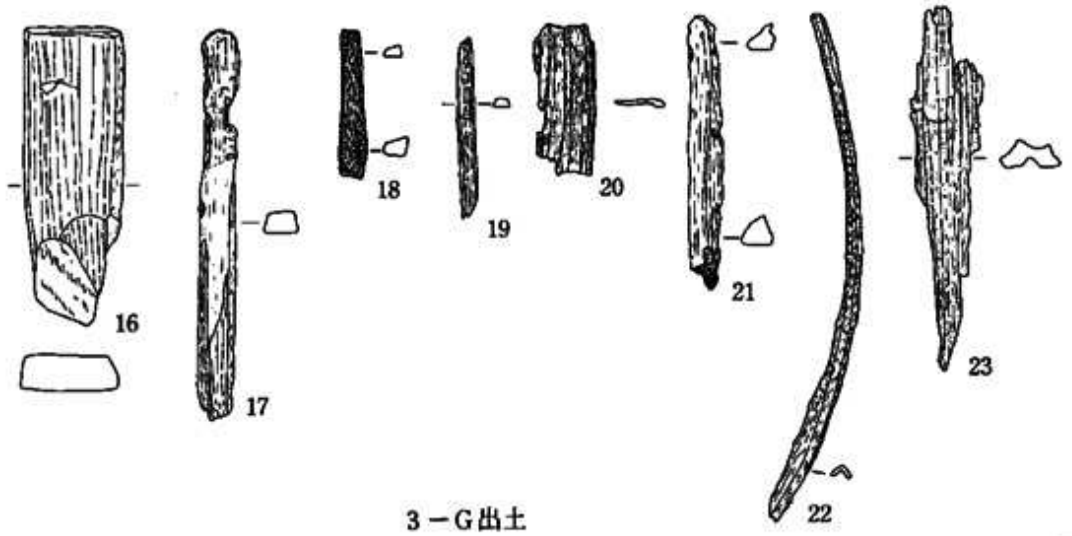
No.	出土地点	名　称	形　状	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考
1	2号溝1—E	斎串	薄剥片	34.10	2.90	0.58	
2	2号溝1—E	斎串?	薄剥片	13.80	1.20	0.30	先端が焼けている

No.	出土地点	名　称	形　状	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考
1	1号掘立柱	木製		11.10	12.60	7.40	
2	1号掘立柱	木製		19.50	14.70	11.40	
3	1号掘立柱	木製		21.00	10.20	5.20	
4	1号掘立柱	木製		16.80	11.80	6.50	
5	1号掘立柱	木製		17.60	14.60	6.10	
6	1号掘立柱	木製		25.00	20.30	7.60	

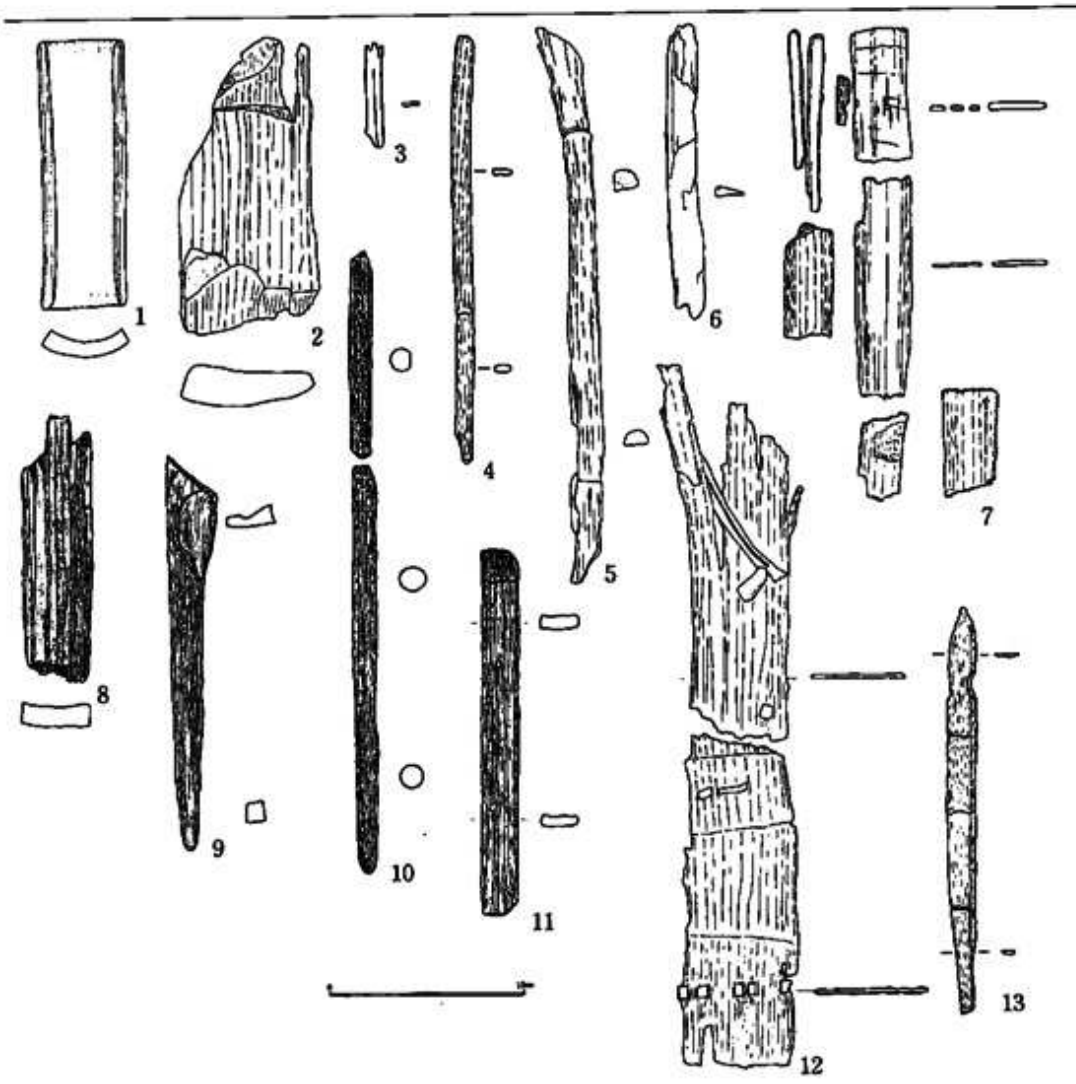
No.	出土地点	名　称	形　状	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考
1	1号土坑	斎串?			0.30	0.20	
2	1号土坑	斎串?		17.20	1.10	0.30	
3	1号土坑	木製品	3の字状	4.90	1.20	1.20	



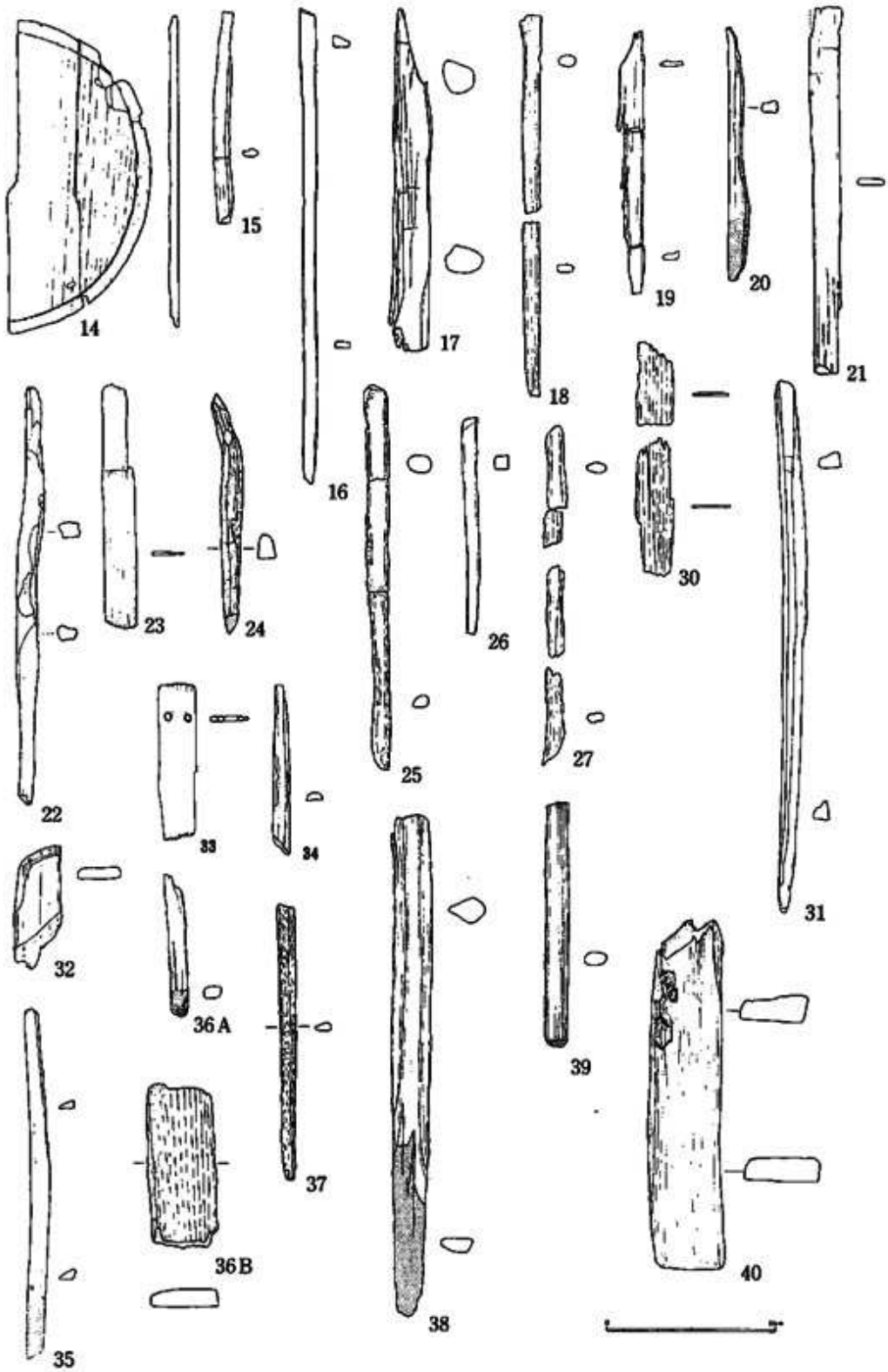
第26図　木製品３－G出土



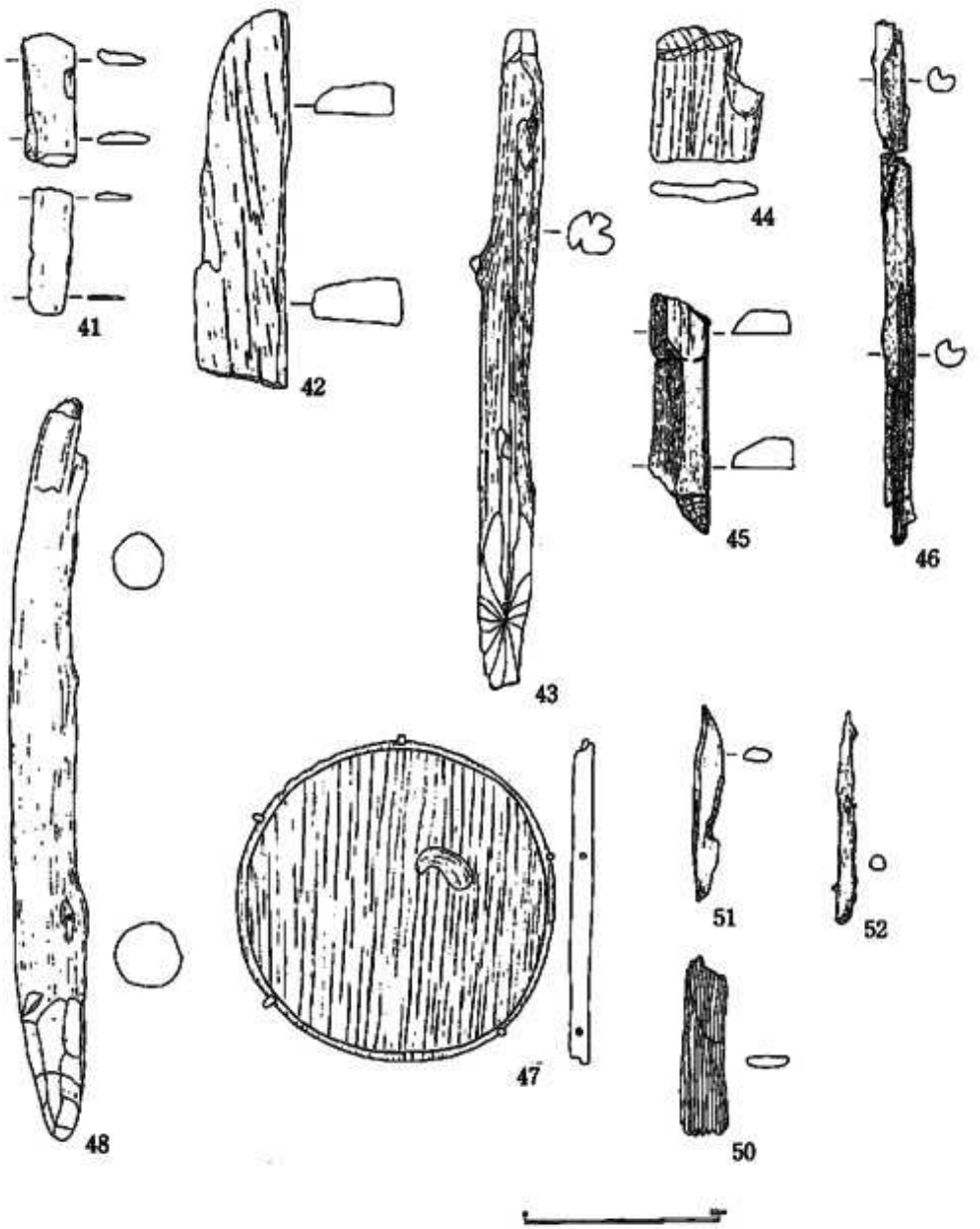
3－G出土



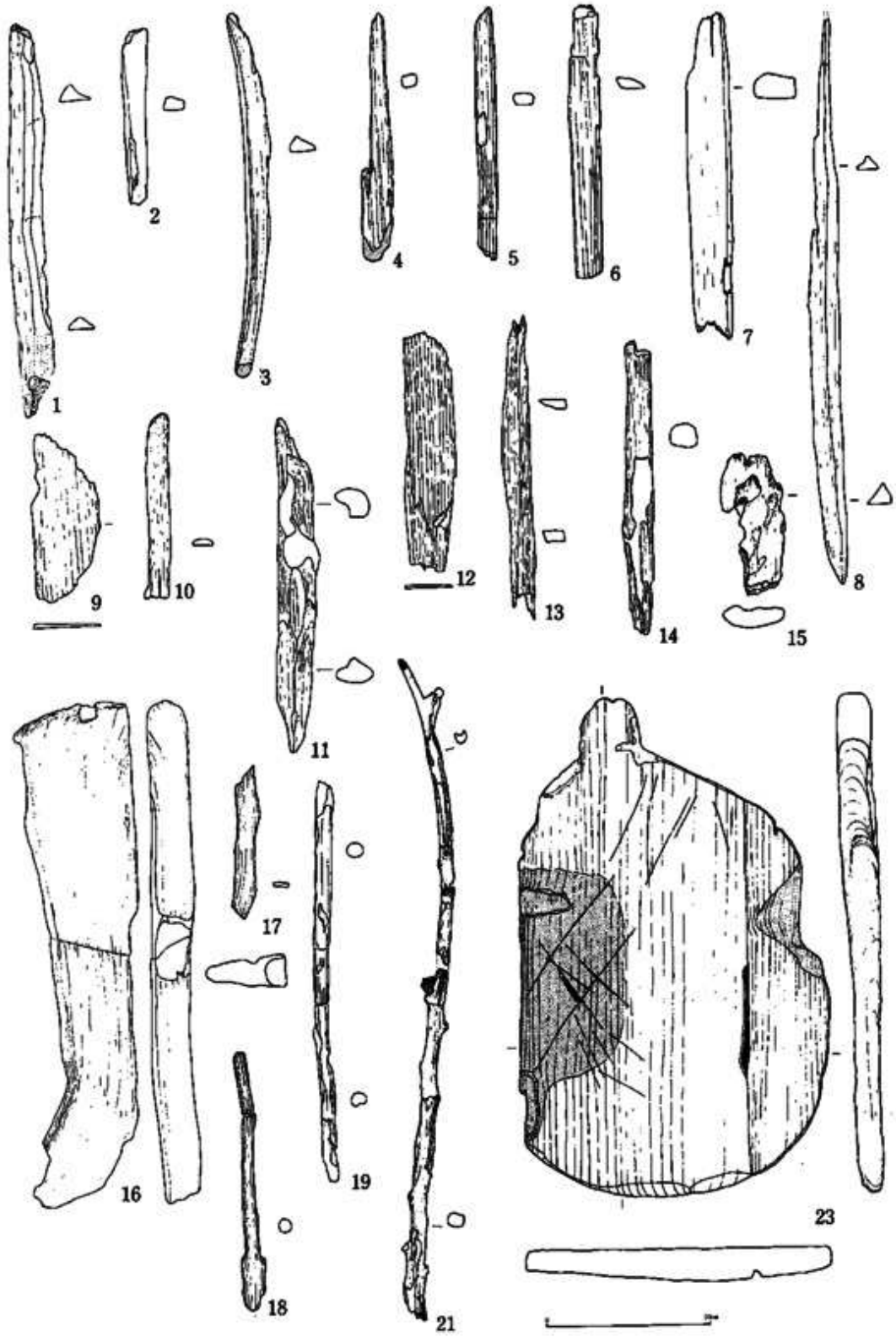
第27図　土製品3－G、3－H出土



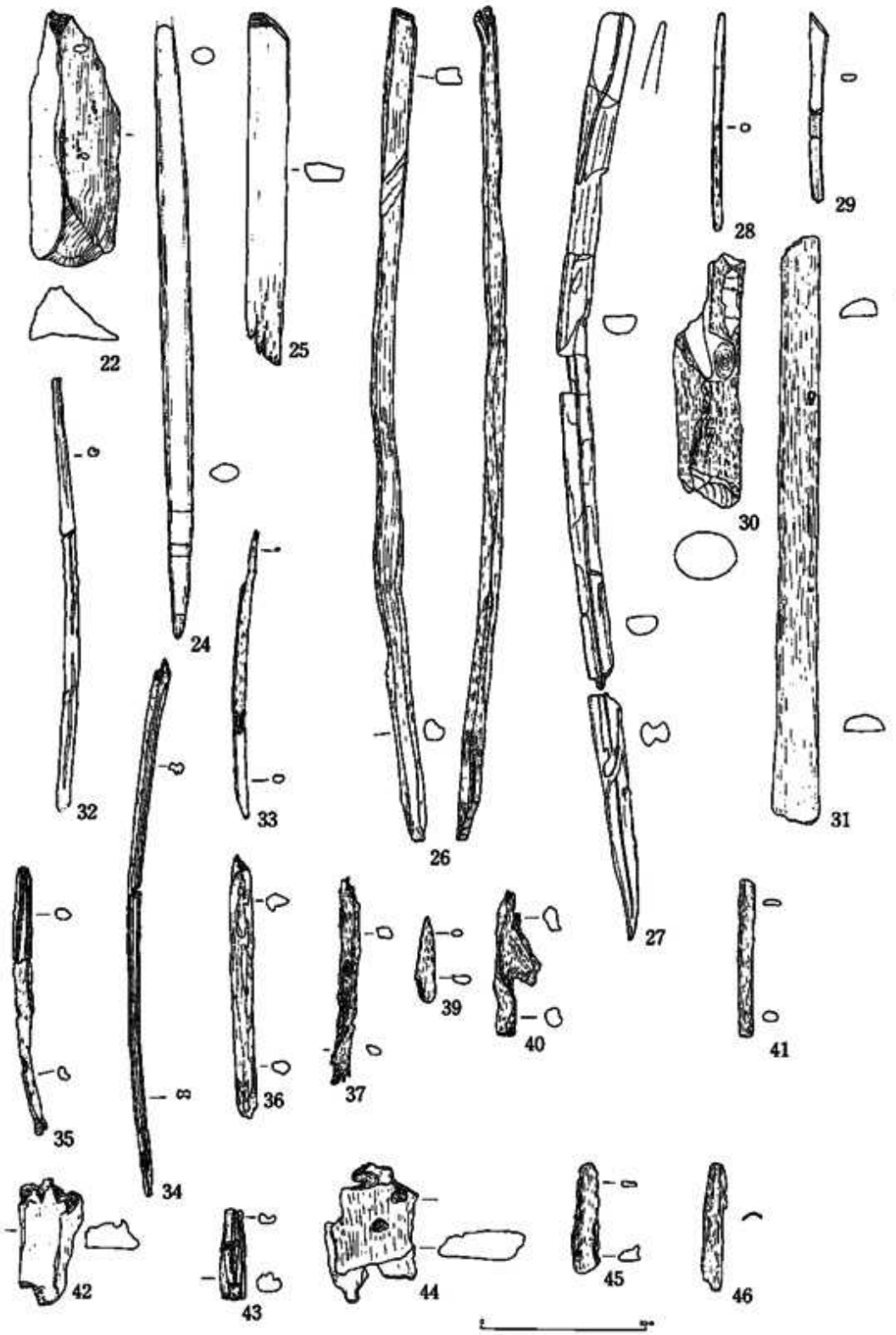
第28図　木製品３－H出土



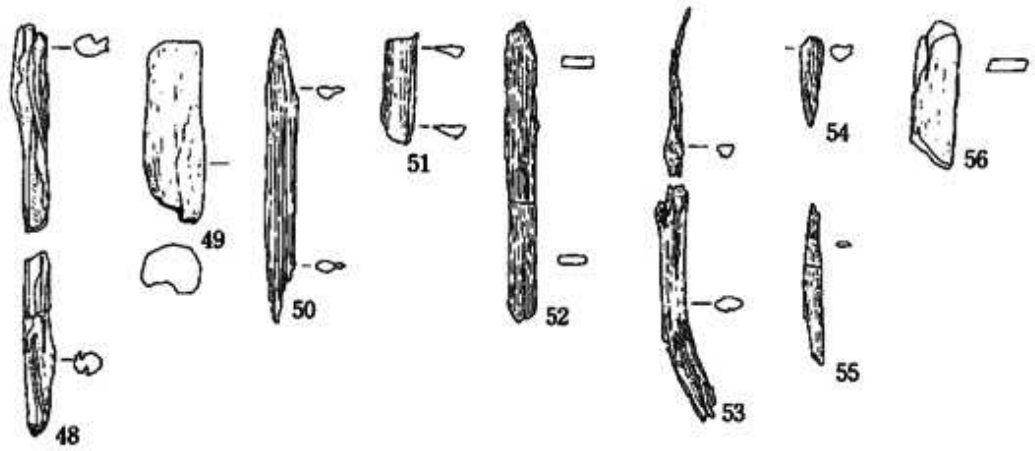
第29図　木製品３ －H出土



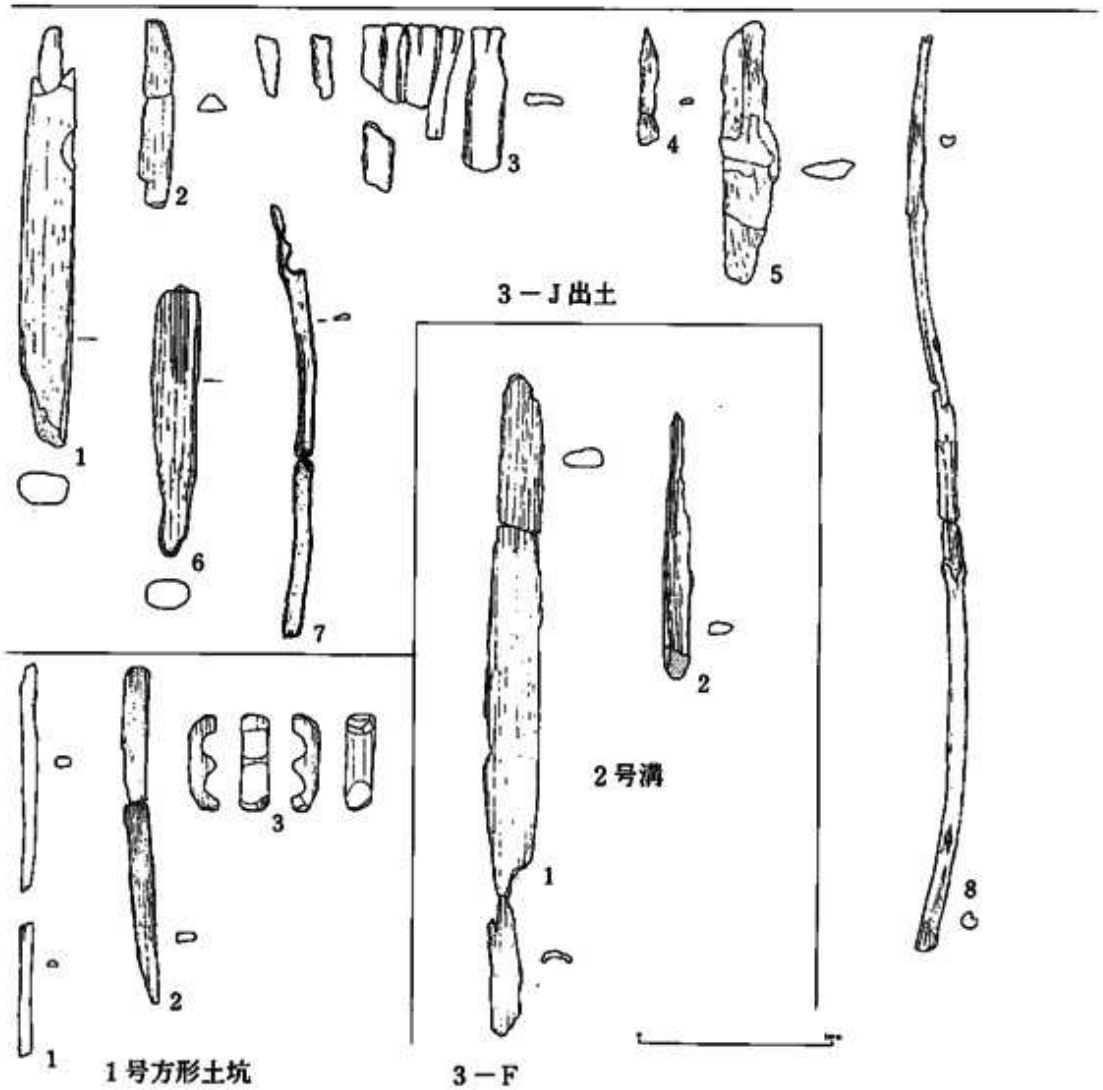
第30図　木製品３－Ⅰ出土



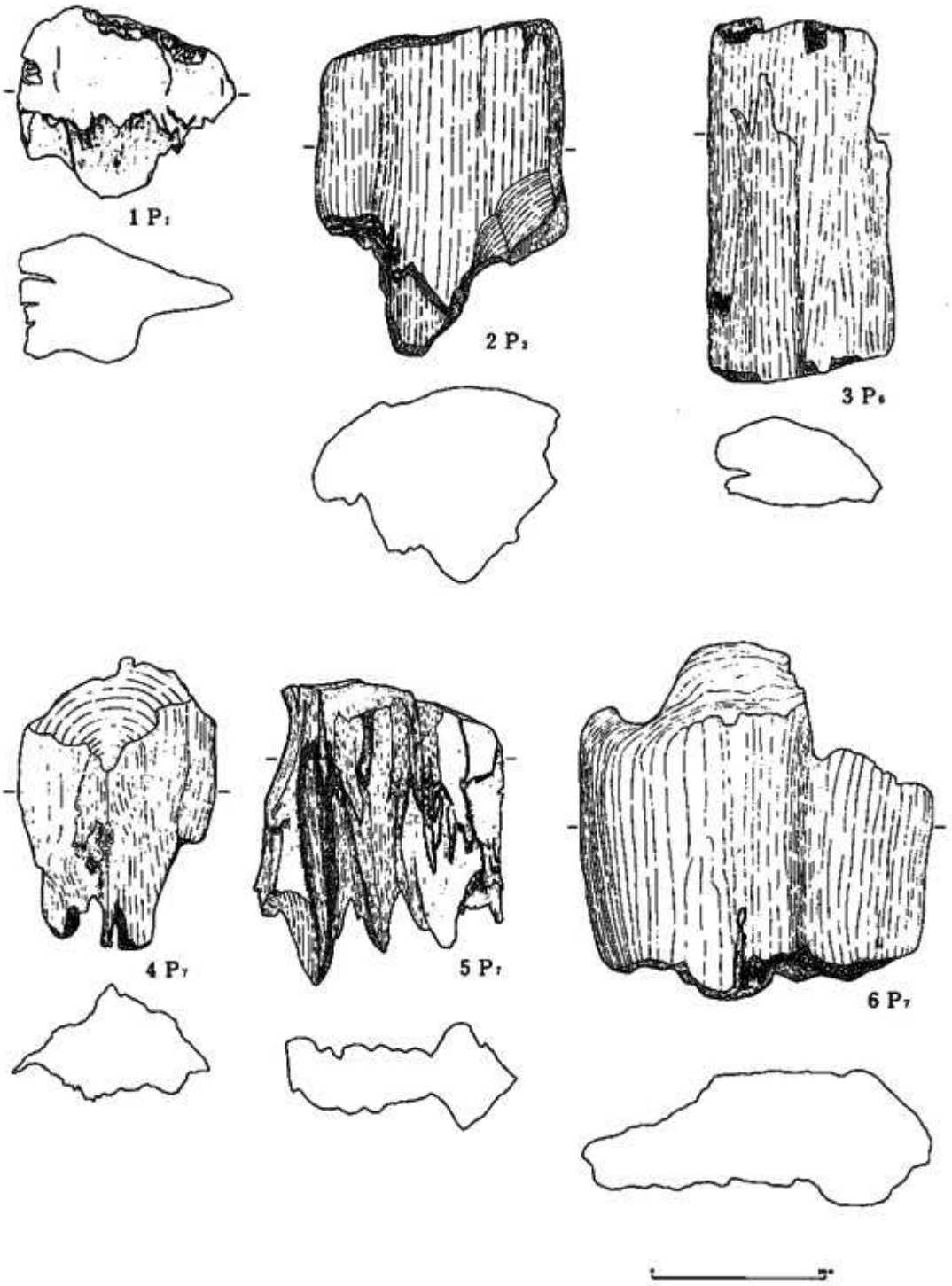
第31図　木製品３－Ⅰ出土



3－I出土



第32図　土製品3－I、3－J、3－F、1－F出土



第33図　木礎実測図

第3節　弥生時代の遺物

4号溝から台付甕の出土がある。口唇部に刻み目を有し、頸部に櫛描波状文を2段にわたって施文している。台の底の部分を欠損しているが、全体の形状が判明した個体である。

第4節　動植物遺存体

1　動物遺存体

2号溝の3－Hグリットを中心に馬歯の出土が多く、中には顎付のものも認められた。歯以外の部分の出土はほとんどない。1号溝では2点の獣骨の出土があったが、部位不明である。2号溝では斎串や土器の出土遺物が豊富な場所に獣骨が出土する傾向があり、下流の3－E付近になると出土遺物も少なく、獣骨の出土もない。馬歯が多いことは、後述するように水に関係した祭祀であると思われる。

2　植物遺存体

木製品などの樹種鑑定は行っていないので、樹種については不明である。なお、2号溝からはウリ類の種子など数種類の植物種子の出土があった。特にモモ核は241点、クルミ87点と出土が多い。モモは斎串などを出土する祭祀遺構には出土例が多く、古代中国ではモモの枝、モモ核を祭祀に利用しており、日本では神話の中に見える。またクルミが多いことは、植生的に水辺にクルミが自生するという環境もあるが、漢字も類似し、形態が類似することから、同様に祭祀に用いられた可能性がある。なお、須玉町塩川遺跡の近世墓からクルミが出土する例があり、クルミに対し何らかの意味が存在したと思われる。

モモ核・クルミの計測値

地耕免遺跡　　3—G　クルミ計測値

No.	たて	よこ	あつさ
1	38.00	27.50	
2		24.80	
3	42.30	28.70	
4		26.70	
5		24.30	
6		25.50	
7		28.60	
8	26.40	24.30	
9		25.50	
10		23.50	
11	31.80	24.00	
12	26.90		
13		23.90	
14		26.50	
15	36.60		25.80
16	32.70	22.00	
平均	32.06	25.41	25.80
古代の平均	32.06	25.59	24.84

地耕免遺跡　　3—I　クルミ計測値

2	33.70	27.70	27.50
3	35.60		
4		28.40	
5	35.20		
6	32.90		
7		25.05	
8	37.50		
9		22.90	
10		22.45	
11	36.40	28.00	
12	30.10	25.40	
13	33.00		
14		23.40	
15	34.40		
16	39.10		
17		24.50	
18	28.80		
19	31.10		
20	34.00	26.40	23.30
21	26.70	20.70	21.60
22	28.90	17.10	
23	28.90	28.20	
24	32.00		
25		27.30	
26		22.70	
27	26.90	22.90	
28	31.70	22.00	
29	34.90	26.30	

地耕免遺跡　　3—H　クルミ計測値

1	27.90	15.50	
2		27.25	
3	33.80	27.80	
4	32.20	27.10	
5	26.70		
6	33.60	25.10	
7	34.00	26.70	
8	30.20	27.05	
9		25.50	
10	29.00		23.70
11		23.80	
12	32.40	25.20	
13	33.30	30.60	
14		23.00	
15	35.10	27.30	
16	28.75	27.10	22.10
17	31.10	24.80	28.00
18	35.20		
19		23.80	
20		26.30	
21	38.40	23.00	
22	27.70		
23	29.40	23.80	
24		25.90	
25		25.30	
26	29.50	29.30	
27		24.20	
28		25.30	
29		25.70	
30		27.10	
31		28.30	
32		24.60	
33		26.20	
34		27.40	
35	29.20	25.80	
36	32.30		
37	33.80		
平　均	31.60	25.67	24.60

地耕免遺跡　　モモ核計測値　3—G

1	23.90	20.90	16.30
2	29.90	22.40	17.90
3	22.30	18.20	13.90
4	27.80	20.20	16.00
5	23.10	19.90	14.40
6	24.30	19.90	13.40
7	24.30		14.90
8	24.40	20.50	15.30
9	24.30	17.40	15.30
10	21.90	18.30	13.20
11	21.90	18.40	
12	26.50	18.40	18.50
13	21.80	17.00	14.00
平　均	24.34	19.29	15.26

地耕免遺跡　　モモ核計測値　3—H

1	24.70	21.30	16.10
2	25.90	20.60	25.70
3	23.40	17.90	13.80
4	23.60	20.00	15.80
5	19.80	17.60	13.50
6	22.50	17.40	13.30
7	23.50	18.10	22.00
8	18.00	15.40	12.50
9	22.90	19.00	15.40
10	23.10	18.20	14.60
11	27.10	20.50	16.60
12	20.30	17.10	13.80
13	24.00	17.90	15.30
14	24.50	19.50	13.70
15	21.10	18.40	16.00
16	22.60	18.30	13.80
17	25.70	20.70	14.00
18	26.20	20.00	15.40
19	23.00	17.80	14.20
20	20.90	17.20	13.60
21	20.70	16.80	14.00
22	23.70	17.20	15.40
23	21.80	16.30	13.80
24	20.50	17.80	14.40
25	24.60	16.60	12.90
26	25.90	18.90	15.90
27	22.90	17.70	13.90
28	27.80	21.00	16.20
29	25.00	17.00	12.70
30	28.90	20.80	14.70
31	21.60	17.80	14.00
32	22.90	19.10	13.30
33	23.80	19.00	13.80
33	24.20	19.20	15.80
34	26.50	20.00	14.30
35	22.20	16.80	14.40
36	26.20	17.80	13.20
37	23.00	16.90	12.70
38	22.30	20.00	14.40
39	23.70	17.80	15.20
40	23.00	19.30	15.30
41	23.00	17.90	12.80
42	23.60	17.80	13.70
43	13.70	17.60	12.10
44	25.30	19.80	14.60
45	24.40	18.40	13.40
46	20.10	17.80	13.10
47	23.30	17.10	14.50
48	29.00		16.10
49	25.10	17.80	14.20
50	22.90	17.80	14.20
51	22.90	16.60	13.00
52	24.60	19.90	14.00
53	26.00	22.00	15.00
54	25.50	18.90	25.60
55	23.80	18.20	15.70
56	23.70	18.10	15.60
57	18.60	15.30	13.10
58	19.70		12.70
59	22.20	14.30	10.60
60	21.70	18.20	15.00
61	22.00	18.50	15.30
62	23.30	19.20	15.10
63	18.00	15.00	11.70
64	22.20	19.20	15.20
65	23.20	20.20	12.90
66	20.50	15.40	12.20
67	21.60	16.80	12.40
68	22.30	15.40	11.60
69	20.90	15.50	
70	23.30	18.30	15.10
71	23.60	17.90	12.80
72	24.10	19.30	13.40
73	24.30	19.90	16.10
74	25.30	20.10	14.90
75	21.20	18.00	11.90
76	23.00	19.00	14.80
77	22.00	18.30	15.40
78	25.70	22.20	15.35
79	23.60	17.50	13.90
80	22.40	19.10	15.20
81	21.30	16.35	13.05
82	28.00	19.20	13.75
83	26.20	20.60	15.20
84	23.60	19.80	14.50
85	25.10	17.40	13.60
86	26.50	20.40	17.80
87	21.95	18.00	14.25

88	23.35	18.30	14.60
89	22.80	19.30	14.90
90	20.70	15.10	12.50
91	17.15	15.35	9.90
92	26.90	20.40	16.90
93	21.10	18.15	15.90
94	22.90	18.90	12.70
95	24.50	19.50	16.20
96	23.70	17.90	13.60
97	26.20	19.50	16.30
98	25.90	20.70	18.40
99	21.00	17.50	13.80
100	23.40	19.40	16.00
101	25.80	19.40	13.70
102	19.80	15.30	12.40
103	23.20	18.50	14.00
104	22.10		15.40
105	20.80	17.40	14.40
106	22.80	15.50	13.70
107	24.10	17.90	15.10
平　均	23.21	18.29	14.54

地耕免遺跡　　モモ核計測値　3－I

1	34.00	24.70	17.20
2	30.70	20.90	16.30
3	26.60	22.80	16.90
4	25.00	17.90	14.60
5	30.30	22.70	17.10
6	24.90	14.90	14.45
7	21.20	19.20	15.10
8	21.10	19.70	15.70
9	26.80	18.90	14.80
10	21.80	19.30	15.90
11	23.60	18.90	15.20
12	23.00	20.00	16.40
13	22.50	18.90	15.70
14	22.90	18.90	15.90
15	21.80	13.30	15.30
16	23.45	18.60	15.20
17		16.60	13.90
18	25.30	18.50	16.20
19	24.30	19.30	16.00
20	24.80	19.20	15.00
21	23.05	19.50	13.60
22	23.60	19.20	15.90
23	22.30	18.80	16.10
24	25.10	10.50	15.90
25	21.20	17.80	15.40
26	24.50	20.90	26.10
27	25.80	20.70	15.10
28	23.90	18.20	15.10
29	22.40	19.10	16.10
30	23.10	19.50	16.20
31	23.30	18.80	16.00
32	23.10	20.10	16.70
33	21.80	18.60	15.80
34	27.50	20.40	17.40
35	23.40	18.10	15.20
36	23.00	19.60	16.70
37	24.70	18.90	12.70
38	23.80	18.00	15.90
39	23.90	18.30	15.00
40	24.70	21.40	16.40
41	24.30	20.20	16.30
42	23.60	19.50	16.70
43	21.70	17.30	15.10
44	25.10	19.30	14.70
45	23.70	19.10	16.50
46	25.70	19.60	14.90
47	21.50	18.50	14.70
48	24.90	18.20	15.40
49	22.10	19.30	16.10
50	25.50	20.70	16.00
51	23.90	18.90	14.20
52	23.40	19.40	16.70
53	22.10	18.50	15.60
54	22.70	19.60	16.70
55	24.80	21.90	16.20
56	28.70	21.90	15.60
57	26.80	21.80	18.90
58	23.20	20.50	16.00
59	28.00	21.90	16.30
60	20.60	16.50	13.70
61	25.50	20.70	16.90
62	22.50	18.90	15.90
63	24.90	19.70	15.90
64	20.40	16.00	13.00
65	22.90	18.30	15.30
66	22.80	20.60	15.60
67	24.70		15.30
68	21.30		14.80
69	24.40	18.20	14.80
70	24.90	20.80	17.80
71	22.80	17.75	13.35
72	21.40	17.80	15.15
73	22.30		14.60
74	21.55	16.50	13.90
75	19.50	17.20	11.90
76	20.90	18.50	12.60
77	26.90		16.80
78	17.10	16.40	13.00
79	22.30	18.40	15.40
80	19.60	15.35	11.90
81	16.40	13.30	10.70
82		19.40	15.00
83	25.60	20.80	15.60
84	25.00	20.70	17.95
85	23.95	20.70	15.80
86	23.10	20.20	
87	20.80	17.20	14.70
88	22.60	17.60	15.30
89	23.20	19.10	15.30
90	25.80	19.60	14.50
91	27.30	21.20	15.60
92	26.10	21.80	15.10
93	22.10	18.30	15.00
94	21.30	17.90	13.40
95	23.10	20.30	17.00
96	22.00	17.80	12.90
97	22.10	18.80	15.70
98	25.70	21.90	15.40
99	21.70	18.50	15.80
100	21.20	18.00	14.70
101	25.60	18.90	14.00
102	22.80	17.00	13.70
103	23.40	18.20	13.70
104	22.80	16.40	12.70
105	22.00	18.60	15.30
106	22.00	16.30	
107	20.50		13.80
108	22.30	19.30	24.20
109	21.20	18.20	14.90
110	21.70	18.10	15.50
111	19.60	16.60	12.60
112		17.50	14.90
113	23.60	17.70	12.70
114	23.60	17.70	12.70
115		19.10	16.00
116	21.90		13.90
117	20.00	13.80	11.60
118	11.90		13.50
119	13.20		13.10
120	22.20	25.40	
121	21.50		14.00
平　均	23.23	18.89	15.29

第4章　ま　と　め

第1節　地耕免遺跡の祭祀について

地耕免遺跡の祭祀の行われた範囲は、出土遺物が3－H、3－Iグリットを中心にみられ、特に3－Hの部分では斎串がささった状態で、検出されたていることから、この部分で実際に祭祀が行われたと思われる。溝の形態も3－Iと3－Hの境の部分から、3－H全体にかけて幅をひろげ、まっすぐ西流するのである。斎串の出土状態を見ると、1号溝の3－G－Jの部分に集中し、とくに3－Hの部分ではその出土が多いが、2号溝では1点とごく少ない。また1号方形土坑でも2点の出土を見ている。1号溝の出土状態からは、斎串が刺さった状態で出土している点と馬歯骨がこの付近に集中する傾向、そして溝の流路が幅を広げることからも、この付近で斎串を用いた祭祀が行われて可能性が高いのである。

出土土師器は古墳時代のものから認められるが、1号溝全体に分布する遺物の様相から、奈良時代末から平安時代初頭の時期に限定される。遺物の様相からすれば、古墳時代以来続いていた溝が、平安時代初頭に恐らくは洪水により、埋没したと思われる。2号溝の遺物から、2号溝は1号溝とほとんど重なることなく、1号溝埋没後あらたに利用されたものと思われる。土師器の出土は多いものの斎串の出土は数点に止まり、馬歯などの出土もなく、祭祀形態の変質が窺われる。なお、2号溝は現在この地域に残る条里地割とほぼ一致するものと思われる。

竪穴住居址と1号溝との関係は出土遺物が接合することから、同時期に存在したと思われる。2号住居址は溝にごく近い地区に位置する。また1号溝から分かれる小溝がこの住居址と重複すること、および出土遺物からある時期には1号溝と並存したとも思われる。他の1号、3号、4号の掘立柱建物址は1号溝と重複することから、1号溝埋没後建てられれたものである。ただし、井戸址は埋没土の関係から、より新しい時期のものではないかと思われる。

さて、斎串に関しては黒崎直氏の「斎串考」に詳しいが、いわゆる律令的祭祀のなかで、その政治的中心地域にあっては、祭祀上の規定も厳格に守られ、斎串においても形式上の体系が存在したと思われる。黒崎氏の論文は律令的祭祀の中心地域の出土遺物をもとにAからFまで6類8種に分類された。この中には地耕免遺跡のものにやや類似するものもあるが、ほとんどは頂部を全く圭頭状には削らないものである。そうすると、斎串の形態上の概念はすこぶる広いものになってしまうが、本遺跡の斎串をもとに新たに分類を試みたいと思う。またこうした自然木や剥ぎ板をも斎串とすれば、本県内でかつて調査された遺跡の出土遺物の中にも当然、こうした広義の斎串が含まれることになり、今後の調査上の問題点となろう。

A類　頂部が斜切され、先端に行くほど細くなるもの。

B類　断面レンズ状で両端共に細くなり、中央部が棒状のもの。

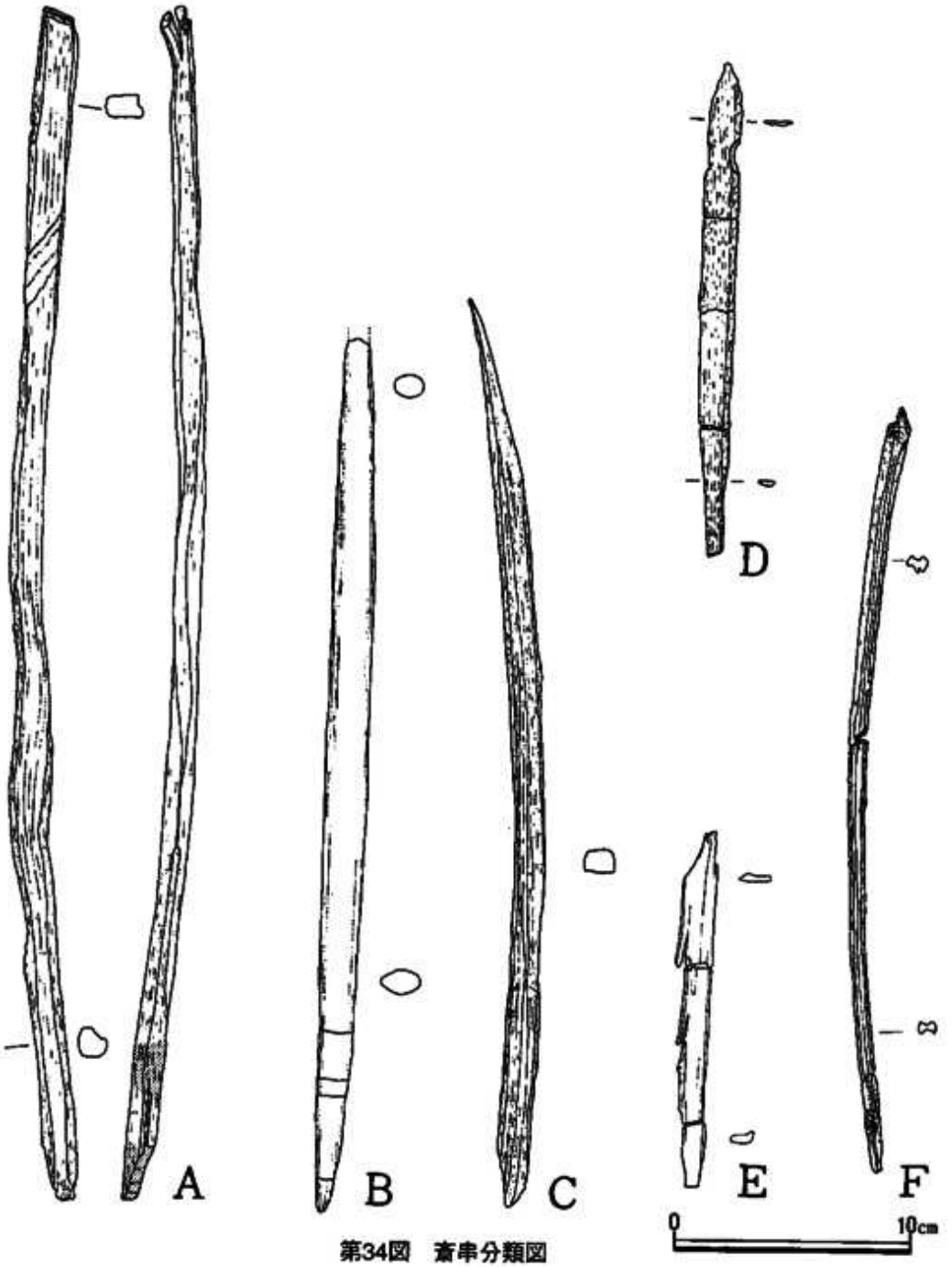
C類　剥ぎ板材を用いるため、断面は三角や四角になり、頂部に行くにしたがって、次第に細くなり、先端をクイ状に尖らすもの。

D類　頂部を圭頭状に削り、先端が次第に細くなるもの。

E類　頂部は圭頭状に削り、側面に下から削り掛けを施したもの。

F類　自然の丸材を用いて頂部を斜切し、先端もクイ状に尖らすもの。

このように地耕免遺跡の斎串の形態は黒崎氏の分類のものとは大きく異なる。もはやこうしたものは斎串とは異なるものかも知れないが、大きく見れば、頭部を圭頭状に削り、先端部を尖らせたものである。すべてではないが、この先端部が焼けたものが多いのも地域的特色である。



第34図　斎串分類図

第２節　殺馬殺牛儀礼について

平安時代の農村は、「かたあらし」とよばれるように、耕地は放棄されて荒廃したものが多く、稲穂などの実りは耕地全体の三割強であったといわれている。その背景には律令体制の矛盾の展開によって、多くの班田農民層の逃亡・浮浪化し、不安定労働力として在地から流失し始めたことがある。彼らは、在地の富豪層や国司などの開発のための労働力確保策である招き居えに応じ、新たに定着と耕作を開始し始めていた。こうして、富豪層や国司らは、「かたあらし」といわれる耕地の荒廃を再開発し、稲・麦などの「満作」を目指した。しかし、平安時代は次第に気温上昇した時期であり、旱魃などの被害が頻発したほか、洪水も多く起こるなどの異常気象が続いた時代でもあった。それが疫病の流行の呼び水ともなり、これが当時の人々には政変によって亡くなった多くの政治家たち（早良親王や菅原道真など）の怨念という迷信と結びつき、「ヤスライ」や「天神」などの御霊信仰が流行するきっかけともなり、時にはそれが当時の政治批判に発展する民衆運動を引き起こすことにもなった。旱魃と水不足に悩む一方で、一度降り始めれば洪水を引き起こすほどの大雨にさらされる当時の人々にとって、農耕は天候との戦いであり、それを神々の為せる業とみなした彼らは、その鎮めの祈りをこめて、様々な祭礼を各地で展開した。「ヤスライ」＝「牛頭天王」を祭る祇園祭などが始まるのはこのようなさなかのことである。

地耕面遺跡は、このような時代背景のもとで、雨乞いに際して使用されたと思われる遺物と動物遺体が発掘された。まず遺物として確認されたのは、「斎串」で、杉、桧を素材とし、大きさは200～500㎜、幅５～15㎜、厚さ５～10㎜で、両端を尖らせたり、切断したりしてあり、さらに焼いた跡が見受けられる。これを水路の特定の場所に刺して、神の依代＝降臨の場とする意図があったと考えられる。これにいけにえとして馬や牛を殺してその首を斎串を刺した水路に投げ込み、雨乞を行なったと考えらています。なぜ馬を殺して供えたのかについては、馬は竜の化身と考えられており、竜は水神と考えられていたので、水に関わる祈りに供えられたと思われる。『続日本紀』の中に、雨乞の際には生きた黒い馬を供え、逆に降り続く雨を止める祈りの際には、白い馬を供えたことが記されており、その際に供えられた馬を「河之精也」と記していることことからも、水と馬との不可分の関係が窺われる。また、同時にモモ・クルミも発掘されており、ともに邪悪なものをはらう意味を込めて使われたと考えられる。馬・牛を殺害する時のケガレをはらうことを意図したものか。

さて、それではそのような祈雨祭礼を一体だれが主催したのであろうか。はっきりしたことは明らかにならなかったが、文献から幾つかの特徴を窺い知ることができる。等に注目すべきは『日本霊異記』の中に、「富豪」が主催し、近辺の民衆を集めて殺した牛を神に供えたあと、それを参加した人々とともに共食するという説話が収められている。これによると、当時の民衆は「富豪殷富之輩」といわれる富豪層の影響下に置かれ、彼らの主催による殺馬・殺牛儀礼＝祈雨・止雨祭礼が行なわれていたと見られる。特に馬は当時大変高価であり、「下馬」でも「三百束」と『延喜式』に見られるので、それを殺して供えるという祭祀を主催できるのは、

やはり相当の有力者であったことは間違いない。しかしこのような祭祀はその後、「牛馬は軍国の資」とする当時の王朝政府によって度々禁止されるが、多くの遺跡からの事例が示すように、民間習俗としてその効力を信じられ、根強く行なわれていた。民衆の生活に密着した土俗の習俗は、政治権力の意図を越えて強力な生命力を保持し続け、その前には、天皇制の権力と祭祀体系はあまり意味を持たなかったのではないだろうか。

参考文献

・戸田芳美『初期中世社会の研究』

・河音能平『中世封建社会の首都と農村』

・佐伯有清「八・九世紀の交における民間信仰の史的考察ー殺牛祭神をめぐってー」『古代の政治と社会』

・『伊場木簡の研究』

第3節　紡錘車について

1、地耕免遺跡で、1点の紡錘車が出土しているので、紡錘車の位置付けを考えるで、山梨県内の紡錘車全体を概観し、その形態分類をし、時間的な位置付けを考えてみたいと思う。

紡錘車の形態分類は、紡円の断面形の分類から始めるのが望ましいと考える。紡軸が遺存していれば、軸の比率をも考慮する必要があろう。この点は鉄紡錘車のところで触れることにしたい。

断面の分類（土製、石製紡錘車）

A類　断面が偏平なもの。

B類　断面が厚く、長方形をなすもの。

C類　断面が台形をなすもの。

D類　断面が台のついた台形で側面が膨らむもの。

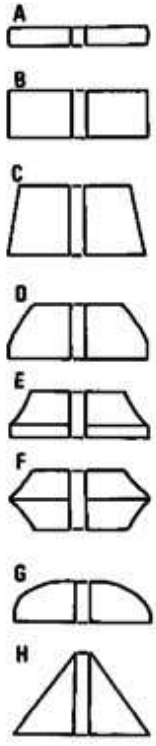
E類　断面が台のついた台形で側面がくぼむもの。

F類　台形の断面が底辺に対して相似形のもの。

G類　断面がカマボコ形をなすもの。

H類　断面が陣傘形をなすもの。

以上がおおまかな分類である。なおこれに土製、石製の分類が加わる。



第35図　紡錘車模式図

縄文時代

縄文時代の有孔円板形土製品についてはこれを積極的に紡錘車と考える研究者もいるが、そうすると、土器片利用有孔円板形土製品もまたその考察の対象とならざるを得ないが、草創期の土器片有孔円板形土製品は装飾品ないし埋葬具と考えられており、筆者らもまたこの考えを支持するものである。また、山梨県下の中期後半の曾利式土器圏に見られる有孔薄円盤は、釈迦堂遺跡群で底部穿孔埋甕および土坑などから出土しており、埋葬具と考えられる。さらにこの時期から見られる有孔円球状土製品は北陸地方の後晩期に数多く出土し、現在のところ垂飾などの穿孔具の弾車とする説が、北陸の研究者の間では有力であると言う。この考えに立てば、穿孔具と紡錘車とでは道具としての原理にはほとんど変化はなく、縄文時代から紡錘車の存在を考えてもおかしくないのである。

弥生時代

弥生時代のもっとも大きな文化要素は稲作と金属器と機織の時代であると言われている。このうち機織のはまず糸を紡ぐという行為が必要となってくる。

山梨県下では弥生後期の金の尾遺跡16号住居址で１点、25号住居址で２点がＡ類で、33号住居址１点がＧ類の土製紡錘車である。いずれも直径４、５～６、７㎝を測るやや大型品である。柳坪遺跡７号住居址のものはＡ類に属するが、これは土器片利用と思われる。堂の前16号と19号住居址出土のものはいずれもＧ類に属し、中田小学校26号住居址出土品はＣ類に属し、他の鉄製品などはやや後出のものの可能性があることから、Ｃ類は後出のものとしてよかろう。二之宮遺跡では西58号住居址でＧ類が、西83号でＨ類が出土している。いずれも弥生時代末とされるものである。こうしてみてくると、山梨県下においては弥生後期のもので、Ａ類、Ｇ類、Ｈ類が見られるが、中田小学校例はやや疑問の残る資料である。

古墳時代

古墳時代の紡錘車は特に石製のものが目立ってくる。二之宮遺跡の72号住居址は土製でＣ類で、蛇紋岩製の278号住居址出土のものもＣ類で、10号住居址出土の滑石製のものは鋸歯紋を持ちＤ類である。姥塚遺跡では該期のものが多く、86号住居址出土の緑色片岩製、110号住居址出土の滑石製は鋸歯紋を持ち、33号住居址出土のものは土製でいずれもＤ類である。78号住居址出土の土製のものはＢ類であろう。82号住居址出土のものはやはり土製でやや厚いがＣ類で、114号住居址出土品はやや特異なＦ類、113号住居址出土品はＥ類である。馬見塚出土品はＣ類、西田Ｃ区４号方形周溝墓出土品と坂井南遺跡出土品はＡ類に属するものである。北堀52号住居址出土品はＣ類である。石和町塚ノ越遺跡の61号、81号、87号住居址でＣ類が出土し、Ｍ－２出土のものもＣ類に属する。また同町後田遺跡でも１号溝の中からＣ類が出土している。

古墳時代の紡錘車はＣ類、Ｄ類が初現する。特に石製のものが多く見られる。こうした観点に立てば、二之宮遺跡出土のグリット出土品や表採品も該期のものとしてよかろう。

奈良時代

奈良時代の遺物や住居址が極めて少ないのは土器の編年観に問題点もないわけではないが、西田遺跡C区5号住居址出土のC類である。北堀50号出土品はやはりC類である。二之宮遺跡西7号住居址では鉄製の紡錘車が出土している。これは住居址出土の鉄製紡錘車としては古い例である。

奈良時代のものは前代に引き続いて、C類が多いと言う傾向が僅かな資料から窺われる。

平安時代

この時代から鉄製紡錘車も普及してくる。A類は石橋条里掘立柱建物址付近出土滑石製品と坂下遺跡1号住居址品である。B類は北後田B区27号住居址、同29号住居址、姥塚139号住居址、前田遺跡遺構外出土品の4点。C類は柳坪遺跡30号住居址の軽石製、中田小学校7A住居址の2点が認められる。また、堂の前遺跡17号住居址出土品と柳坪遺跡22号住居址出土品はH類に属する。石和町塚ノ越遺跡の79号住居址でB類に近いC類が出土している。石製品は減少傾向が認められるが、二之宮遺跡22号住居址出土の鋸歯紋をもつ滑石製のものはE類に属するものである。

鉄製紡錘車は先にも触れたが、二之宮遺跡西7号住居址出土のものが最も古く、二之宮遺跡228号住居址、同西2号住居址、同45号住居址と他に2点、大原遺跡でも3点の報告があり、日下部遺跡2号住居址、寺所遺跡13号住居址で紡軸が2点、2号住居址で紡軸と紡輪が出土している。金生遺跡で紡輪の部分が1点、大小久保遺跡9で大型の完形品が1点、東姥神B遺跡で紡輪の部分、松原遺跡で完形品、坂井南遺跡でほぼ完形品1点と紡軸1点、椚田遺跡で1点の出土がある。

北巨摩郡と東山梨・東八代郡に紡錘車が集中する傾向のあるのは、この地域に発掘が集中しているからではあるが、鉄製紡錘車に関しては長野県棚畑遺跡1号住居址で麻皮剥器と共伴していることから、既に指摘されているところではあるが、鉄製紡錘車は麻と関係するようである。麻皮剥器が北巨摩郡で3遺跡の検出があることから、この地域では平安時代に麻の生産が行われていた考えられる。

この点、奈良・平安時代の遺構出土の土壌分析などを通して、麻などの繊維植物の分析も必要となろう。

第4節　殺馬殺牛儀礼史料

地耕免遺跡では斎串とともに多くの馬歯が出土している。そこで文献に見える殺馬殺牛儀礼および関連史料について事例を転記して、参考にしたい。

◎日本書紀　皇極天皇元年（642）7月

戊寅　群臣相語之曰　随村々祝部所教　或殺牛馬　祭諸社神　或頻移市　或祷河伯　既無所効蘇我大臣報曰　可於寺々転読大乗経典　悔過如仏所説　敬而祈雨

◎日本書紀　天武天皇4年（675）4月17日

庚寅　詔諸国曰　自今以後　制諸漁猟者　莫造槻弶及施機槍等之類　亦四月朔以後　九月卅日以前　莫置此溝沙伎理梁　且莫食牛馬犬猿雞之完　以外不在禁例　若有犯者罪之

◎続日本紀　光仁天皇宝亀6年6月

丁亥　奉黒毛馬於丹生川上神　旱也　其畿内諸国界　有神社能興雲雨者　亦遣使奉幣

◎続日本紀　文武天皇2年（698）4月29日

戊午　奉馬于芳野水分峯神　祈雨也

◎続日本紀　天平13年（743）

二月戊午　詔曰馬牛代人勤労養人　因茲　先有明制　不許屠殺　今聞　国郡未能禁止　百姓猶屠殺　宜其有犯者　不問蔭贖　先決杖一百　然後科罪

◎続日本紀　延歴10年（791）9月

甲戌　（前略）断伊勢　尾張　近江　美濃　若狭　越前　紀伊等国百姓　殺牛用漢神

◎類聚三代格　延暦10年（791）

應禁制殺牛用祭漢神事

右被右大臣宣稱　奉勅　如聞　諸国百姓殺牛用祭　宜厳加禁制莫令為然　若有違犯科故殺馬牛罪　延暦十年九月十六日

類聚國史　延暦二十年（801）四月　乙亥条　雑祭

越前国

越前国禁行◇加◇◇◇◇◇屠牛祭神

◎日本霊異記　中巻　（岩波158）

摂津国東生郡撫凹村の富豪が聖武天皇代に漢神の祟りを受けて、それを祓うため七年を限り年一頭を屠ったが、まつり終ると重病になり、放生善を修めて死んだ。その男が閻羅王の前に連れ出されると牛頭人身の七人が現れ、男を我々同様に膾にして食わせよとのべたてるが、放生善をうけた千万余人がこの人の咎にあらず、祟れる鬼神を祭らんがために牛を殺したにすぎずとしてかばう。この人、主となりて我四足を截り、廟を祀り利を乞い、賦りて膾にして脊に食いき

史料――馬歯の埋設

◎日本文徳天皇実録　嘉祥三年（850）九月十五日

有司其擇吉日　告於宗社　夫封壌馬歯　献瑞不恒　天貺攸降　理潰優異

史料――馬の奉納

◎続日本紀　天平寶字七年（763）五月庚午

奉幣帛于四畿内群神、其丹生河上神者、加黒毛馬　旱也

◎続日本紀　宝亀二年六月乙丑

奉黒毛馬於丹生川上神　旱也

◎続日本紀　宝亀三年二月乙亥

奉黒毛馬於丹生川上神　旱也

◎続日本紀　宝亀四年三月戊子

奉黒毛馬於丹生川上神　旱也

◎続日本紀　宝亀四年四月丁卯

奉黒毛馬於丹生川上神　旱也

◎続日本紀　宝亀五年四月庚寅

奉黒毛馬於丹生川上神　旱也

◎続日本紀　宝亀六年六月丁亥

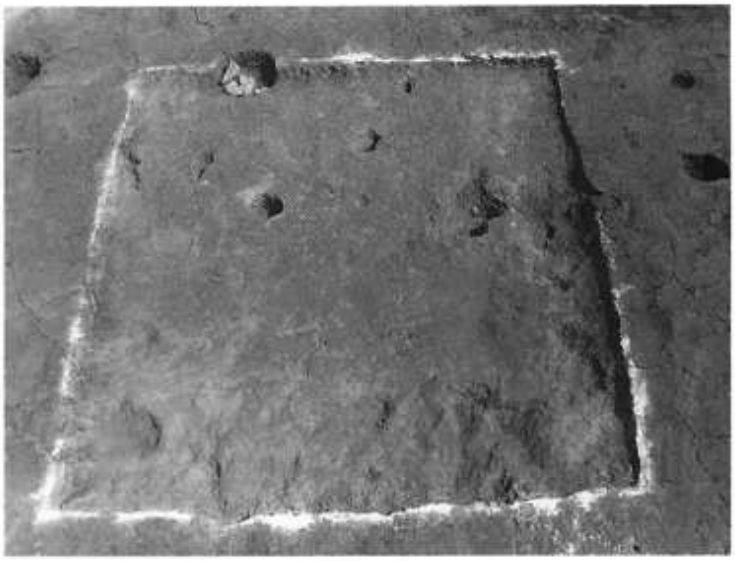
奉黒毛馬於丹生川上神　旱也

○続日本紀　宝亀六年九月辛亥
遣使奉白馬及幣於丹生川上　畿内群神　霖雨也

○続日本紀　宝亀七年六月甲戌
奉黒毛馬丹生川上神　旱

図版 1

1 号住居址

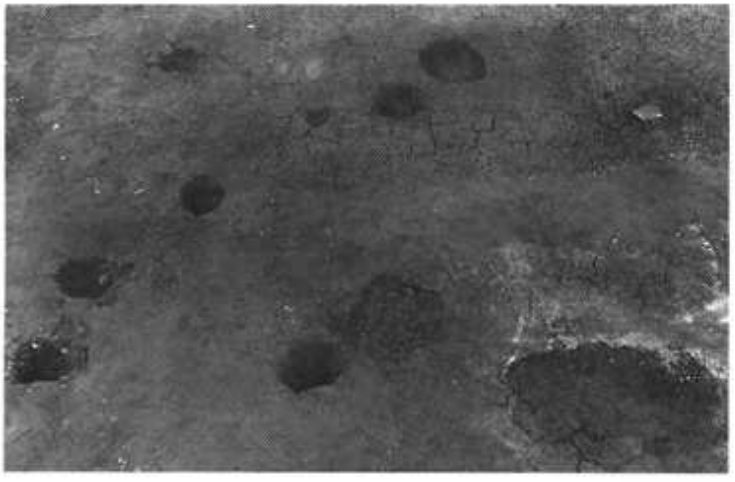


2 号住居址

2 号住居址出土状況

井戸址

1 号土坑

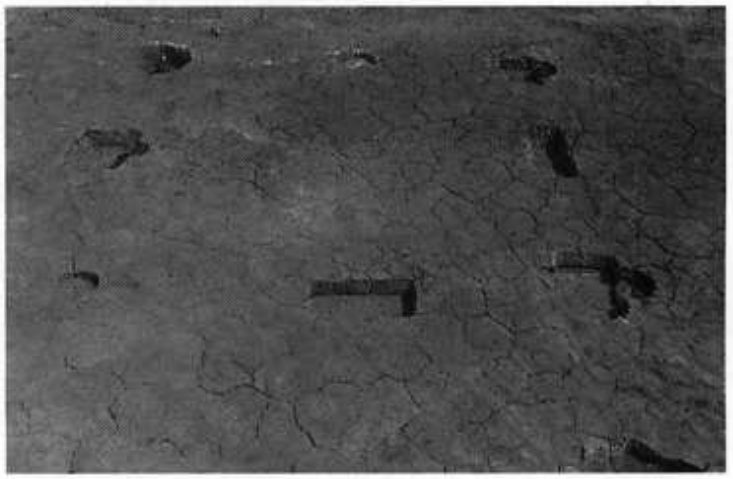


4 号掘立柱建物址

図版 3

1 号掘立柱建物址

2 号掘立柱建物址



3 号掘立柱建物址

2 号溝

図版 5

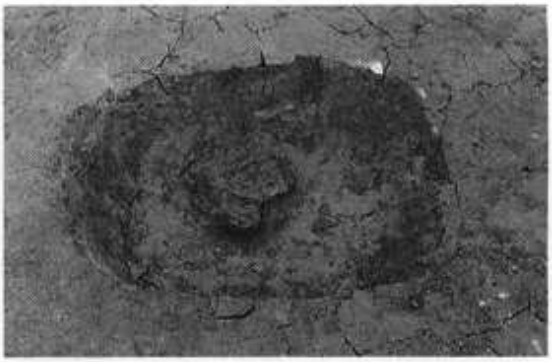
P 1

P 5

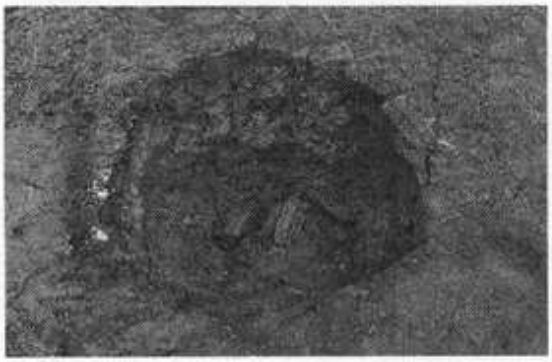
P 2

P 6

P 3



P 7



P 4

P 8

1 号掘立柱建物址木礎

3－E出土状況

3－F出土状況

3－G出土状況

3－G出土状況

3－G出土状況

3－G出土状況

3－G出土状況

3－G出土状況

2号溝出土状況

図版 7

3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況

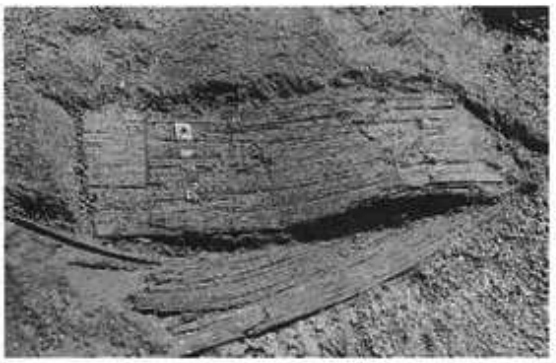
3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況

2号溝出土状況



3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況

2号溝出土状況

図版 9

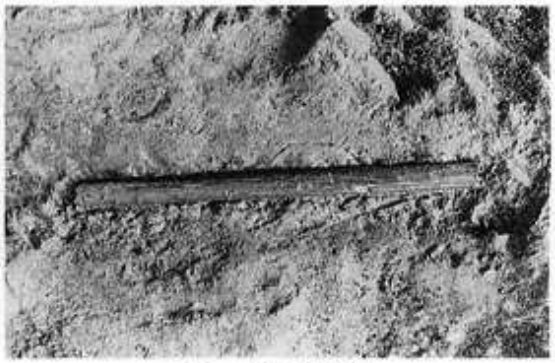
3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況

3－H出土状況



3－I出土状況

3－I出土状況

3－I

2号溝出土状況

3－I出土状況

3－I出土状況

3－I出土状況

3－I出土状況

3－I出土状況

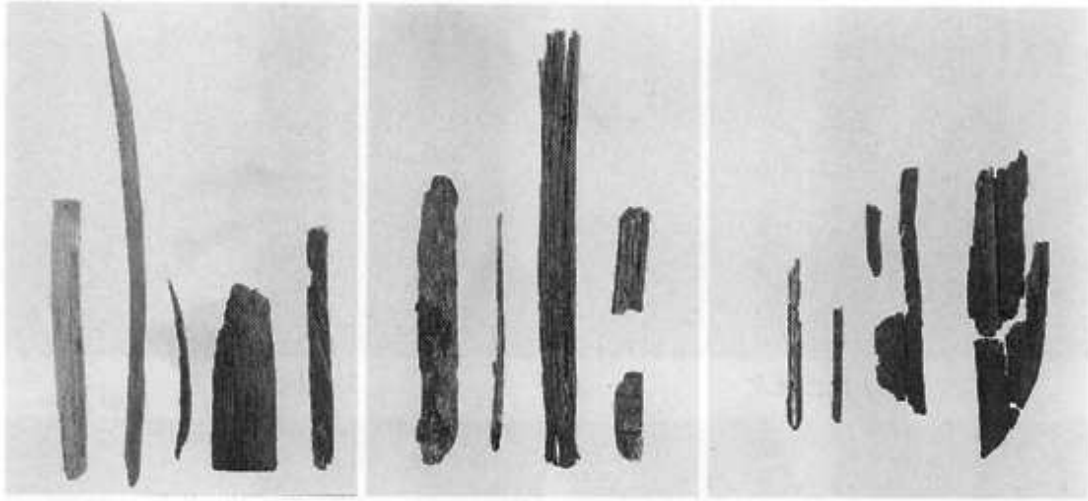
3－I出土状況

3－I出土状況

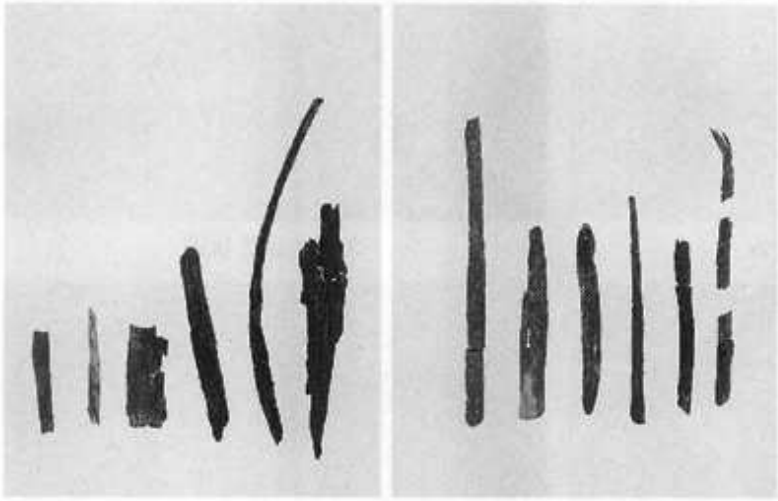
3－J出土状況

遺物（木製品）

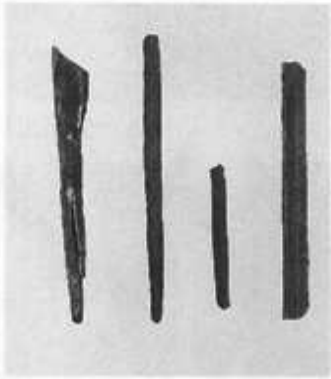
図版11



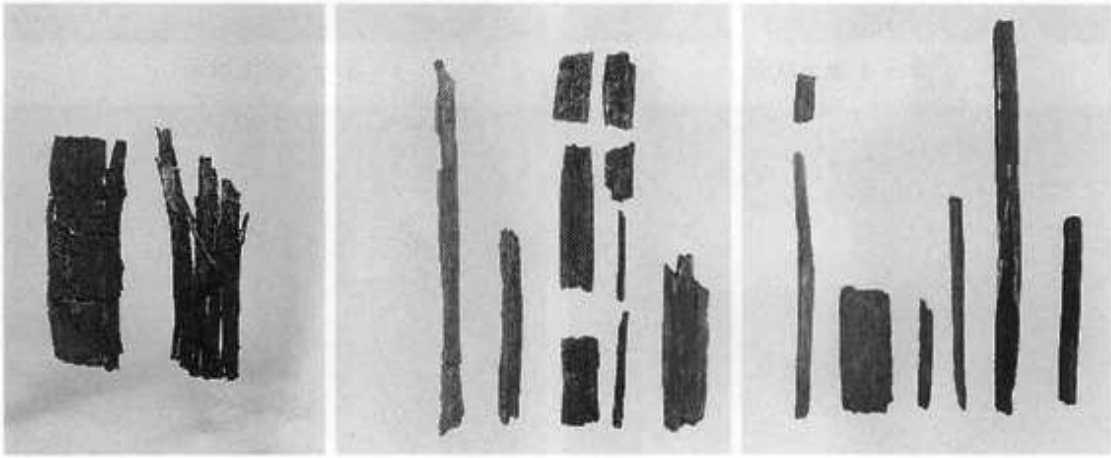
3－G出土木製品



3－G出土木製品

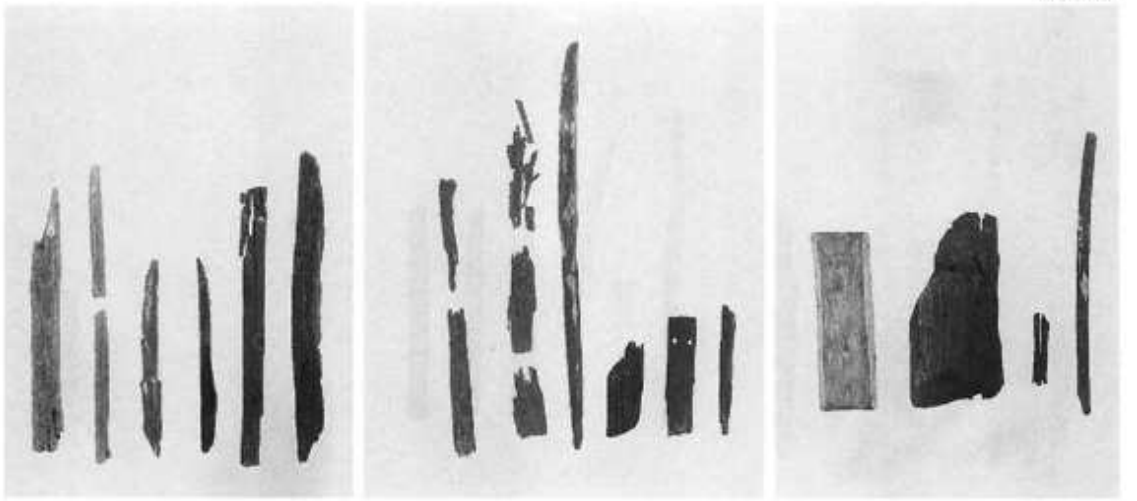


3－H出土木製品

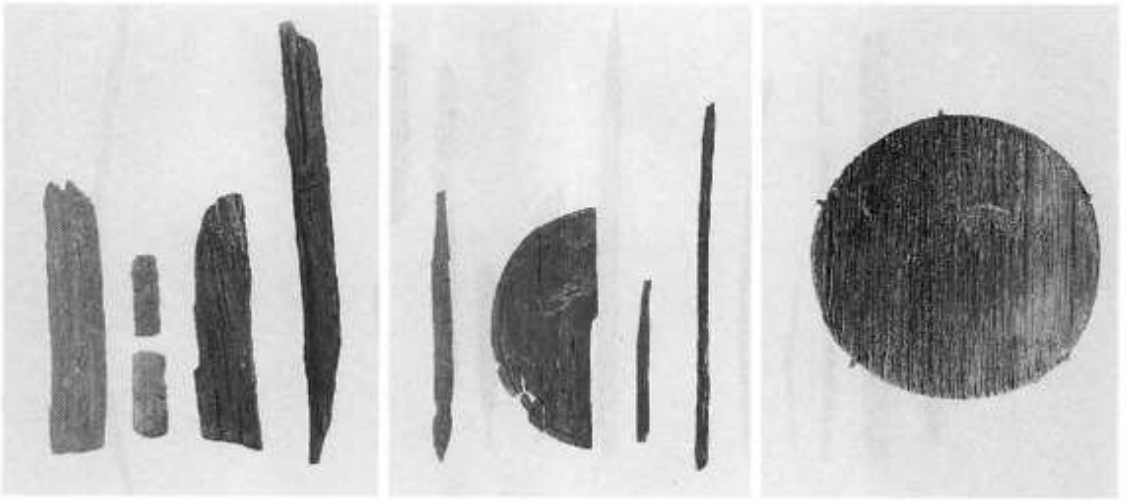


3－H出土木製品

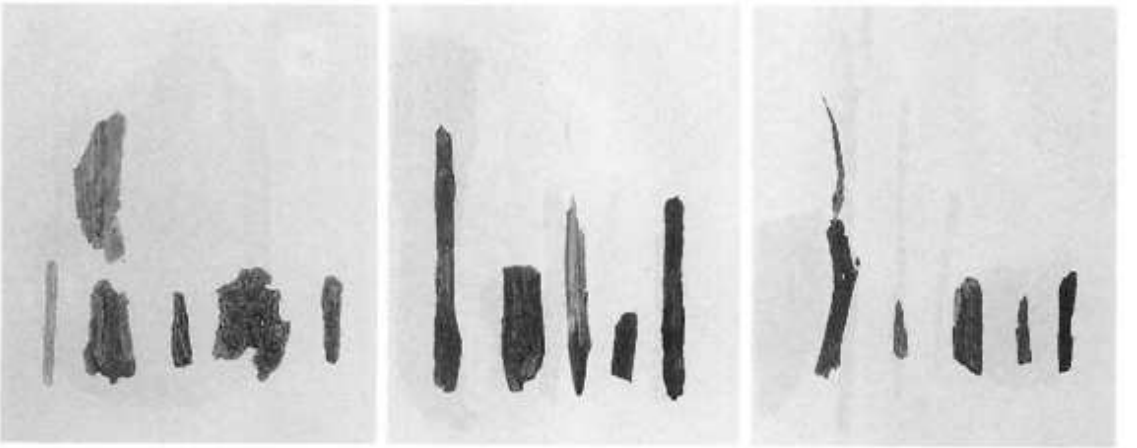
遺物（木製品）



3－H出土木製品



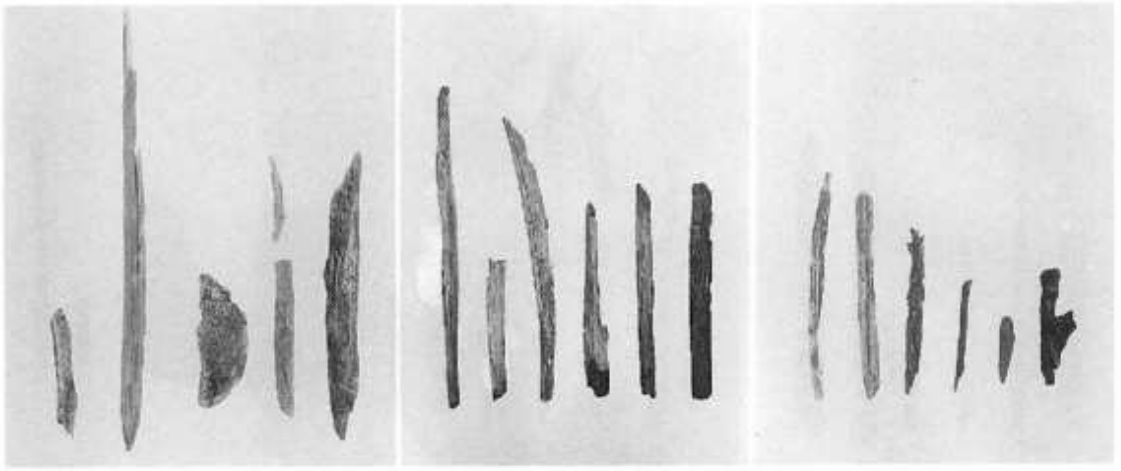
3－H出土木製品



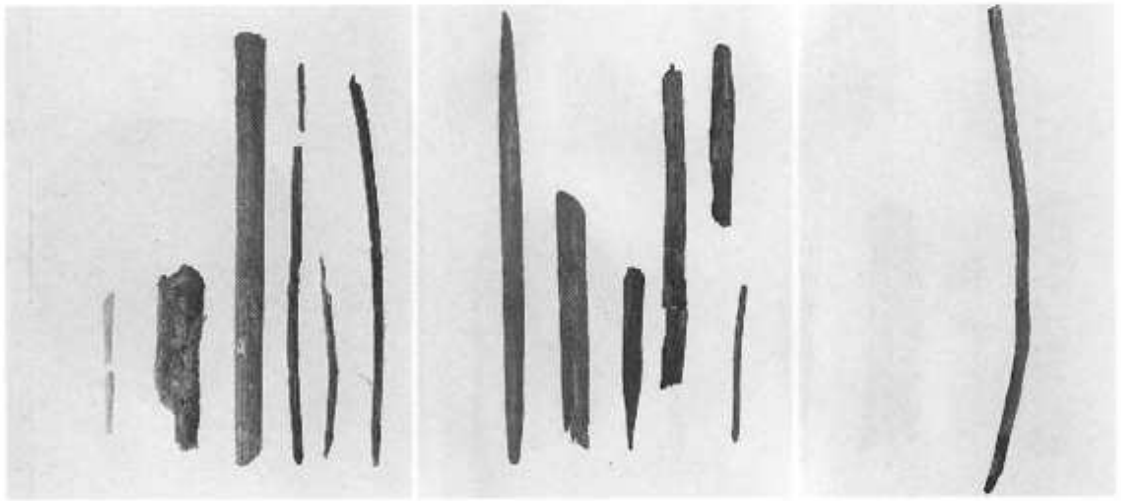
3－I出土木製品

遺物（木製品）

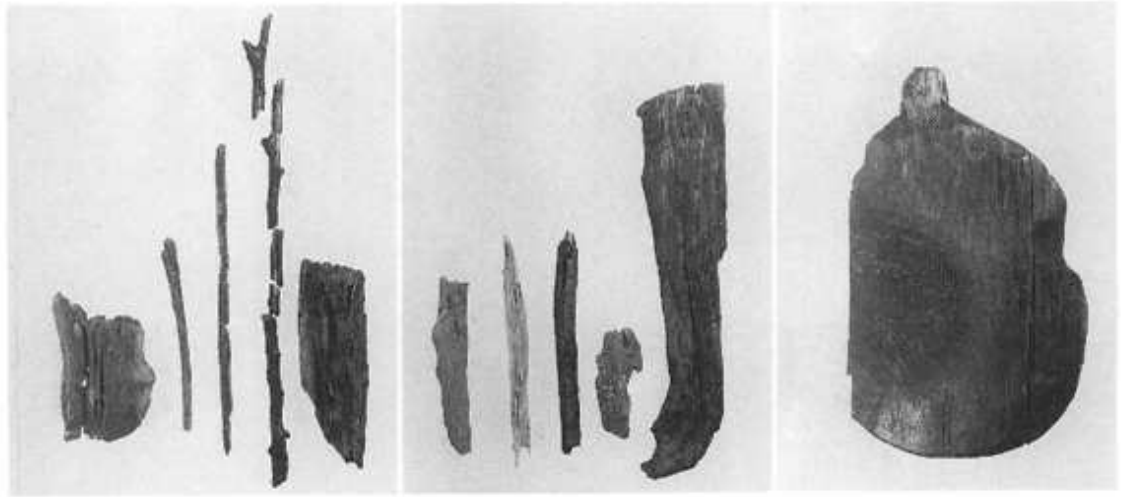
図版13



3－1出土木製品



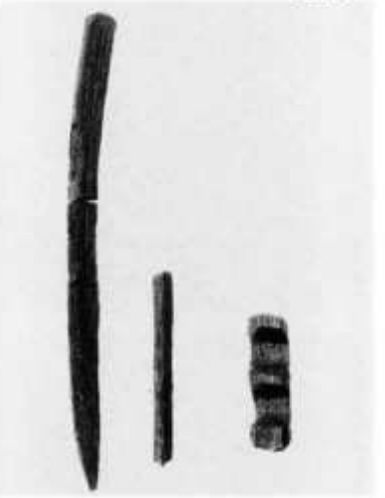
3－1出土木製品



3－1出土木製品

遺物（木製品）

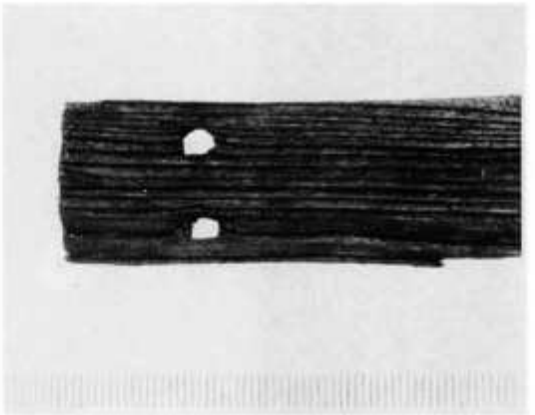
3－J出土木製品



1号方形土坑出土木製品

3－J柄（刀子の柄か？）

3－H刻目のある斎事



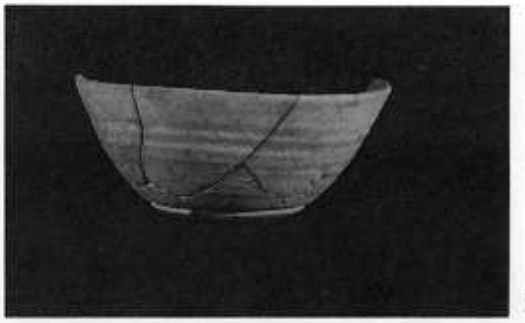
3－H荷札木片

3－J火錐臼剥片

遺物（木製品）

図版15

2


3

12

13

17

18

21

22

29

30

遺物（土製品）

40

41

30

31

44

50

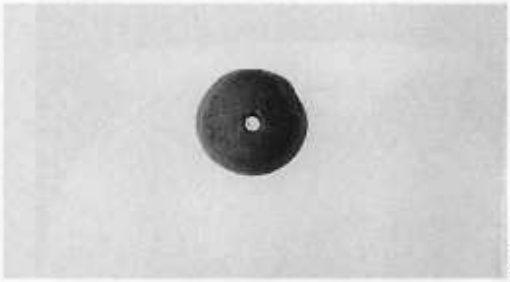
51

69

遺物（土製品）

図版17

62

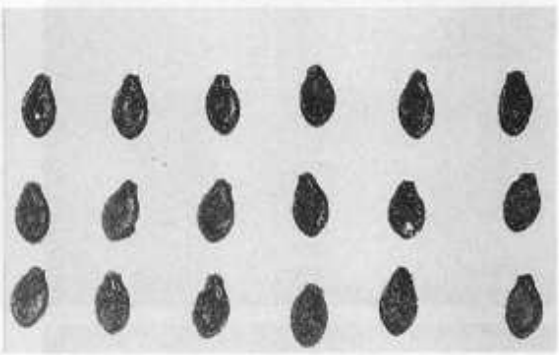

63

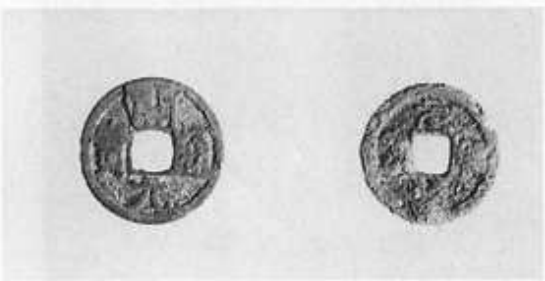
66

69

74

85


うり類種子


古　銭

遺物（土製品）

報告書概要

フリガナ		チコウメンイセキ
書名		地耕免遺跡
シリーズ		山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第73集
主著者・従事者		小野正文・平山　優
発行所		山梨県教育委員会
編集機関		山梨県埋蔵文化財センター
住所・電話		〒400-15　山梨県東八代郡中道町下曽根923　☎0552－66－3881
印刷所		㈱ヨネヤ
印刷日・発行日		印刷　1992年3月25日　　発行　1992年3月31日
地耕免遺跡（チコウメン）		所在地 25000分の1地図名　石和 / 山梨県東八代郡御坂町成田字地耕免
概要	主な時代	弥生時代～平安時代
	主な遺構	住居址（奈良時代初1軒・平安時代中期1軒・掘立柱建物址4軒）・平安時代の溝5条・弥生時代の溝1条・井戸址・方形土壙1基他ピット群
	主な遺物	平安時代土師器・斎串や曲物底部などの木製品・須恵器・古墳時代土器弥生時代土器片・ガラス玉
	特殊遺物	獣骨（馬の歯）・種子類
	調査期間	1990年5月14日～9月21日

山梨県埋蔵文化財センター調査報告　第73集

1992年3月25日　印　刷
1992年3月31日　発　行

地耕免（ちこうめん）遺跡

編　集　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曽根923
☎0552－66－3881
発　行　山梨県教育委員会
印　刷　株式会社　ヨ　ネ　ヤ